

### 사이(サイ)

一般社団法人 在日コリアン・マイノリティー人権研究センター

#### 2 News Topics

#### 7 特集1 外国籍公務員として民族差別と闘ってきた42年間 座談会 孫敏男さん、黄光男さん、藤原史朗さん

#### 20 特集2 追悼 呉徳洙 監督 戦後70年 映画の中で在日はどのように描かれてきたか

30 時評 コラム 武蔵国高麗郡千三百年

姜在彦

32 歴史に刻む日本とコリア (12)

仲尾 宏

勝麟太郎海舟の三国同盟論

35 銀の空のかなたから②

宮下 良子

人を生かすもの-映画『国際市場で逢いましょう』から-

38 グラビア 香川県高松市 古代朝鮮式山城 屋嶋城

40 マイノリティ女性に対する複合差別 その2

元 百合子

「反ヘイト・スピーチ裁判」

42 在日3世の視点

金 朋 央

ロシア・サハリンで韓人1世たちに会ったときのこと

46 新連載 韓国の十層石塔

姜 健 栄

50 リレーエッセイ 番外編 54

52 朝鮮女性史 第7話 朝鮮王朝①

盧 桂 順

57 シネマ夏炉冬扇 第六回『青い山脈』

藤原 史朗

66 「宗教」と差別 2

正木 峯夫

68 サイの目 Vol.38

井上 正一

72 シリーズ 小さな旅 第二七回

高 敬 一

奈良県天理市 柳本旧海軍飛行場跡の今

75 あんにょんはせよ~こちらサンボラムです Vol.13

76 Book Review-ほんをよむ

78 チャールモゴスンニダ! 美味しいお店めぐり (11)

80 マップラム告知板/活動日誌/編集後記



34 第28回 在日講座のお知らせ

49 第37回全国在日外国人教育研究協議会のお知らせ

65 第8回K M J キネマ倶楽部上映会のお知らせ

# News Topics

## 「ヘイトスピーチ解消法」が施行 市民の力でヘイトデモをくいとする

6月5日、川崎市  
中原区の武蔵小杉駅  
に近い公園を起点に

「川崎発！日本浄化  
デモ」と予告して実  
施されようとしたヘ  
イトデモが、それに  
抗議し、中止を求め  
る人々により、くい  
とめられた。警察が  
主催者側に「デモを  
実施すると危険な状  
態になる」と説明し  
主催者側がデモの中  
止を決めたという。

「不当な差別的言動は許され  
ない」とした「ヘイトスピーチ  
解消法」が5月24日に施行され  
た後、初のヘイトデモであった  
が川崎市は「不当な差別的言動  
から市民の安全と尊厳を守る」  
ことを理由に公園の使用を不許  
可。しかし警察はデモ直前の3

日に、道路の使用を許可してい  
た。

5日は朝からヘイトデモに抗  
議し、中止を求める「カウンタ  
ー」の人々が、起点とされた川  
崎市中原区の中原平和公園に続  
々と集まった。デモ参加者が姿  
を見せると、カウンター側から  
「帰れ、帰れ」のコールが起き  
ヘイトデモ側と小競り合いに。  
神奈川県警はヘイトデモ参加者  
を武蔵小杉駅に戻して混乱を回  
避した。

カウンター側の人々は道路に  
座り込んで、ヘイトデモの進路  
を妨げる「シットイン」を行っ  
た。欧米などでもよく見られる  
抗議手法で、これまでは通常、  
シットインする人々を警察が排  
除していた。しかし、今回はそ  
うした光景は見られなかったよ  
うだ。

現場で見守っていた神原元・

弁護士は「これまではシットイ  
ンは引きはがされて、放り投げ  
られ、けがもさせられていたが  
今日はお覧のような対応。法律  
ができて、警察もヘイトスピー  
チは違法であるという前提で対処  
したのだと思う。日本の歴史に  
ない、民衆の正義が悪に勝った  
瞬間だ。現場で戦ってきた人た  
ちが社会を変えた」と話した。

在日コリアンが多く住む川崎  
市桜本地区でヘイトデモに抗議  
してきた在日コリアン3世の崔  
江以子（チェ・カンイジャ）さ  
ん（42）は「絶望が今日、希望  
で上書きされました。もう子供  
たちやハルモニをヘイトスピー  
チに触れさせない、根絶すると  
約束して戦ってきました。桜本  
の思いが国会に届き、法整備が  
され、私たちは法で守られるべ  
き存在だと示されました。私た  
ちの尊厳が初めて大切にされま  
した。今日の道路使用許可は本  
当に残念でしたが、神奈川県警  
は、私たちの抗議活動の場を保  
障してくれ、監視してくれまし

た」と話した。崔さんの長男、  
寧生（ネオ）君（14）は「主催  
者側からデモを中止と言ってく  
れた。すごいことだなと思う」  
と喜んだ。

「デモが進んだら、体を張っ  
て止めようと思っていた」とい  
う在日一世の趙良葉（チョ・ヤ  
ンヨプ）さん（79）は「いくら  
表現の自由と言いますが、人  
を虫けらのように言ったり、死  
ねの殺せのと、絶対さういう言  
葉は許してはいけない。表現の  
自由とは意見の表明の自由であ  
って、生き物はみな一生懸命生  
きている。心の中にはしっかりと  
傷があつて、なかなか直らない  
ものです。どうか私たちに傷を  
与えないように、どうぞよろし  
くお願いします」と訴えた。

一方、デモ主催者の男性は、  
「道路使用の許可を取ったのに  
デモができないのは、言論弾圧  
だ」と述べたようだ。（高）

## 李信恵さん反ヘイトスピーチ裁判 桜井被告「女性だから」と証言

在日3世の李信恵（リ・シネ）

さんが、在日特権を許さない市民の会（以下、在特会）と前会長の桜井誠氏、および李信恵さんの誹謗中傷記事を集約してネット上に掲載した「保守速報」に対して、人権侵害などで損害賠償を求める裁判で、5月17日に証人尋問が大阪地裁で行われた。この証人尋問には在特会の前会長・桜井誠氏が出席し、注目が集まった。

証人尋問は李信恵さんと桜井誠氏のそれぞれに対して、30分ずつの主尋問と反対尋問の合計2時間行われた。李さんに対する主尋問では、彼女の生い立ちから、これまで受けてきた差別、在特会関係者などから受けた差別について、大杉光子弁護士から丁寧な尋問が行われた。

上瀧浩子弁護士による桜井被告への反対尋問では、ヘイトデモや街宣、ツイートでの発言について淡々と真意を尋ねるといふもの。桜井被告はその中で、

なぜ李信恵さんをターゲットにしたのかとの尋問に対して「女性だから」と証言した。

このような形の尋問では、主尋問・反対尋問ともに被差別体験やプライバシーを大勢の傍聴人の前で語らされることになり、とくに反対尋問では李信恵さんはヘイトスピーチをそのまま追体験することになる。それでも李さんは気丈に振る舞っていたようだ。

桜井被告は街宣時と同じような饒舌なパフォーマンスで尋問に応じようとしますが、いずれも裁判官に再三にわたり制止された。八木幸洋現在特会会長も、裁判終了後のネット放送で「裁判官の心象を悪くしたのではなか」という感想を述べていたようだ。

この裁判は民族差別だけでなく女性差別という複合的な意味をもつという点が注目されていたが、今回の尋問でそれが明らかになった。

次回7月12日の弁論で結審が予定されている。ぜひ多くの方に応援にかけていただきたと思う。【記事は裁判終了後

## 法務省 在特会元代表に ヘイトスピーチ是正の初勧告

2008年〜11年に東京都小平市の朝鮮大学校前で脅迫的な言動を繰り返したとして法務省は2015年12月22日、「在日特権をゆるさない市民の会」（在特会）の桜井誠元代表に対し、同様の行為を行わないよう勧告した。ヘイトスピーチによる被害を巡って、法務省が人権救済の措置を講じたのは初めてとみられる。

法務省人権擁護局や被害を申告した学生2人の代理人弁護士によると、元代表らは2008年11月、09年11月、11年11月の計3回、朝鮮大学校の校門前で街宣を実施。「朝鮮人を日本からたたき出せ」などと脅迫的な言動を繰り返した。3回とも学園祭が開かれていた。

2015年に被害申告があり、

の李さんの支援者のツイッターでの報告を参考に作成しました。」  
(高)

法務省は人権侵犯事件として調査を開始していた。

勧告は元代表らの行為について「生命身体に危害を加えかねない氣勢を示して畏怖させた」と違法性を認定。「人間としての尊厳を傷つけるもので、人権擁護上看過できない」として、元代表に対し、強い恐怖感や苦痛を与える違法なものとして反省し、今後同様の行為を行わないよう求めた。

代理人の師岡康子弁護士は、今回の法務省の措置を評価した上で、「勧告に強制力はない。現行法制度では不特定の集団へのヘイトスピーチを違法と認定できないという欠陥もあり、行政が明確に人種差別撤廃の責務を負い、被害者救済の立場に立つ法整備が必要だ」と話した。

「ヘイトスピーチを巡り法務省は15年1月、「ヘイトスピーチに対する断固とした姿勢をアピールする」（上川陽子前法相）として、「ヘイトスピーチ、許さ

ない。」と書かれたポスターを全国の法務局を通じて自治体に配布するなど、啓発活動に力を入れていた。（宋）

## 在日支援者への罵声も「差別」と認定 高松高裁 在特会の賠償増額

「在日特権を許さない市民の会」（在特会）の会員らが20

人種差別的な思想によるものと認められた司法判断は初めて。

10年、徳島県教職員組合で罵声を浴びせた行動を巡り、県教組と当時の女性書記長が在特会とメンバーら10人に計約二十万円の損害賠償を求めた訴訟の控訴審判決が、2016年4月25日、高松高裁であった。生島弘康裁判長は、在特会による行為を「人種差別的な思想の表れで違法性が強い」と認定。1審・徳島地裁判決を変更して賠償額（約230万円）を増額し、在特会側に約436万円の支払いを命じた。

原告弁護士によると、在日コリアンを支援する日本人に対する在特会の攻撃的行為について、

判決によると、被告らは2010年4月14日、四国朝鮮初級学校（松山市）に資金支援した徳島県教組の事務所（徳島市）に乱入。拡声器で女性に罵声を浴びせ、肩をつくなど暴行も加え、その動画をインターネットで公開した。判決は、一連の行動は「リンチ行為としか言いようがない」とし、在日の人たちへの支援活動を委縮させる目的があり、日本も加入する人種差別撤廃条約上の「人種差別」にあたるとして強く非難。さらに、「攻撃をインターネットで公開することによって支援者が被害を受けることを広く知らしめ、活動に

委縮効果をもたらすことを目的としていたと指摘。ネット公開による名誉棄損も認めた。1審地裁判決の「（在特会の）攻撃対象は徳島県教組と元書記長であり、朝鮮人に対する差別を煽動する」とは言い難い」とした判断を改めた。

## 国連担当者 日本の報道に独立性求める ヘイトスピーチにも言及

「表現の自由」に関する国連特別報告者として初めて公式に訪日したデービッド・ケイ氏（米国）が日本での調査を終え、2016年4月19日に東京都内で記者会見した。「日本の報道の独立性は重大な脅威に直面している」として、メディアの独立性保護や国民の知る権利促進のための対策を講じるよう政府に求めた。

ケイ氏は日本政府の招きで11日から訪日。政府職員や国会議員、報道機関関係者やNGO関係者らの話を聞き、「特定秘密保護法や、『中立性』『公平性』を求める政府の圧力がメディア

在特会側は、損害賠償請求権の時効成立を理由に請求棄却を求めていた。原告女性は「攻撃対象が日本人だからという理由で退けた1審が許せなかった。支援者の思いが今回の判決を導いてくれた」と語った。（宋）

の自己検閲を生み出している」と分析。「ジャーナリストの多くが匿名を条件に面会に応じた。政治家からの間接的圧力で仕事を外され、沈黙を強いられたと訴えた」と述べた。

放送法をめぐっては「放送法のうち（政治的公平性などを定めた）第4条を廃止し、政府はメディア規制から手を引くべきだ」と提言。高市早苗総務相が番組の公平性を理由に放送局の「電波停止」に言及した発言をめぐって高市氏との面会を希望したが「国会会期中との理由で会えなかった」と断られたのを明かした。特定秘密保護法につ

いて「原発や災害対応、安全保障など国民の関心が高い問題の政府情報が規制される可能性があり、内部告発者の保護体制も弱い」と懸念を示した。

ヘイトスピーチ対策については「ヘイトスピーチの法律は悪用の恐れがある。まずは人種差別禁止法を作るべきだ」と提言。慰安婦問題など歴史問題については「戦争中の罪を教科書でどう扱うかについて政府が介入することは、国民の知る権利を脅かし、過去の問題に取り組み方を低下させる」と懸念を示した。今回の訪日についての報告書は2017年に人権理事会に提出する予定という。

一方、高市法務相は、ケイ氏が面会を断られたとしたことに対して「大変心外だ。私は逃げも隠れもしない」と反論し、ケイ氏が指定してきた日時が合わなかったと説明した。「『国会会期中』が理由ではない」と否定しているが、国連担当者やその指摘を重くみていないことは明らかだ。(宋)

## 日本軍「慰安婦」記録物 2744件を世界記録遺産に申請

韓国、日本を含む8カ国14の市民社会団体と英国の戦争記念館で構成する国際連帯委員会（以下、委員会）は6月1日、韓国・ソウルのフランチスコ教育会館で記者会見を行い、5月31日に日本軍「慰安婦」関連資料2744件をユネスコ世界記録遺産本部に登録申請したと明らかにした。このうち韓国の集めた「慰安婦」記録物は660

件ある。

委員会チーム長のハン・ヘイン氏は「日本軍『慰安婦』被害者が勇気をもって声を上げたことが正義に向けた第一歩だったことを賛えるため、多くの国の多様な『慰安婦』資料を集め『日本軍慰安婦の声』という名称で登録申請を推進した」と説明した。

委員会が紹介した登録対象記録物は、歴史的記録物としては中国吉林省档案馆所蔵の文書をはじめ、「1943〜1944年（仮称）慰安婦管理者の日記」など。

「慰安婦」被害者記録物としては、証言テープ、録音ファイル、写真などがある。被害者調査物としては、韓国・大邱のある病院が記録した「慰安婦」被害者の診療記録とフィリピンのリラ・ピリピナ・ロラズセンタールが提供したフィリピンの日本軍「慰安婦」被害調査記

録も含まれた。

委員会は、ユネスコの登録小委員会が提出資料を検討し、諮問委員会の審査を経て2017年10月頃にユネスコ事務総長が世界記録遺産登録の可否を最終的に決めると見ている。

当初「慰安婦」記録物の世界記録遺産登録は、昨年の12・28韓日交渉妥結以前から韓国政府の女性家族部が公然と掲げた推進事業だった。しかし韓国政府は交渉妥結後に「民間団体が推進するもの」として距離をおいた。12・28合意には「国際社会で慰安婦問題に関して相互非難や誹謗することを自制する」という内容が含まれている。

委員会のシン・ヘス団長は「『慰安婦』関連記録物の世界記録遺産登録申請は政治的懸念ではない」として「人類と平和のために保存すべき『慰安婦』記録物を集めたもので、今後日本の資料が追加されることを希望する」と強調した。

これを受けて普義偉官房長官は6月2日の記者会見で「今回の登録申請は民間団体によるも



慰安婦被害者証言の録音テープ（ハンギョレ新聞より）

のとされており、申請内容の詳細は承知していないのでコメントは控えたい。そのような前提で言うならば、ユネスコのあらゆる事業は加盟国間の友好と相互理解、その促進という設立本来の趣旨と目的を推進するもので、今後日本政府は今回の事業

が政治的に利用されないよう、制度改革を含めて全力で対応する」と述べた。日本政府が全力を傾けて今回の登録申請を阻止するとの宣言にも聞こえる。【韓国・ハンギョレ新聞より編集作成】(高)

## 関東大震災の朝鮮人死亡者名簿見つかる 虐殺被害者も

1923年の関東大震災で犠牲になった朝鮮人の名簿が新たに見つかった。犠牲者71人の中には、韓国政府機関「対日抗争期強制動員被害調査および国外強制動員犠牲者ら支援委員会」が2015年末に明らかにした朝鮮人虐殺事件の被害者、虐殺をめぐる目撃証言と一致する名前が含まれている。

小樽商科大の高野宏康学術研究員、朝鮮人虐殺事件の真相を追っている西崎雅夫氏、事件をテーマにしたドキュメンタリー映画の製作に取り組む在日韓国人の呉充功氏が6月9日、これまでの調査結果を明らかにした。

高野氏は2008年に東京都慰霊堂(墨田区)の倉庫で、大震災翌年の1924年から震災救護事務局が受け付けて作成した「震災死亡者調査表」の中の朝鮮人関連記録を発見した。調査表には約5万人の死亡者の名前や生年月日、本籍、死亡場所などが記されているが、朝鮮人も含まれていることが分かった。

西崎氏が整理を始め、これまでに71人の朝鮮人の記録を確認した。調査が進めばその数はさらに増える見通しだ。この中の2人の名前と本籍地は、1950年代に韓国政府が作成し2013年に東京の韓国

大使館が移転する際に発見された、関東大震災時の朝鮮人の虐殺被害者名簿と一致する。また、東京・旧亀戸警察署での虐殺事件の目撃証言とその後の聯合ニュースの調査で分かった朝鮮人被害者一家5人のうち3人の名前が確認された。

高野氏や西崎氏によると、この記録は2008年に見つかった。

## 京都・ウトロに歴史記念館を 韓国の大学教授がよびかけ

韓国・誠信女子大のソ・ギョンドク教授は6月14日、日本による植民地時代に強制徴用された朝鮮半島出身者とその子孫が暮らすウトロ地区(京都府宇治市)への歴史記念館建設に対する協力を呼びかけた。

ウトロ地区は戦時中に飛行場建設のため徴用された労働者らが暮らし始めたエリア。ソ氏は6月末に同地区の建物が撤去されることに言及し、「住民を少しでも慰め、強制徴用された朝鮮半島出身者がどう生きてきたかを後世に伝える道は、歴史館

たものの、韓日間の問題などの事情でこれまで公にされなかった。証言に出てくる被害者の名前と本籍に一致する死亡者の記録があることが重要だと指摘する。呉氏は真相を明らかにするために本格的な追加調査が必要だとした。【韓国・済州聯合ニュースより編集作成】(高)

を立てることだ」と訴えた。また、「日本政府と長崎市が端島炭坑(軍艦島、長崎市)を美化する広報を始めた。日本が強制徴用の歴史の痕跡を消そうとするのに対抗する意味でも、ウトロの歴史記念館の建設は象徴性がある」と述べた。

歴史記念館建設計画の概要は年内にまとまる見通しだ。ソ氏は計画と費用が確定すれば韓国国民に募金を呼びかける考えだ。【韓国・ソウル聯合ニュースより編集作成】(高)



## 特集 1

# 外国籍公務員として 民族差別と闘ってきた 42年間

対 談 孫 敏 男さん（兵庫在日外国人権協会・代表）  
黄 光 男さん（兵庫在日外国人権協会・事務局長）  
藤原 史朗さん（KMJ 常務理事）  
聞き手 高 敬 一（KMJ 事務局長）

1973年秋、阪神間の6市1町（西宮市、尼崎市、宝塚市、伊丹市、川西市、芦屋市、猪名川町）は一斉に市職員の国籍条項（外国籍不可）を撤廃、翌年4月に、尼崎市3名、西宮市1名、川西市1名の計5名の戦後日本ではじめての外国籍公務員が誕生した。その中で、川西市役所で勤務された孫敏男（ソンミンナム）さん、尼崎市役所で勤務された黄光男（ファンゲンナム）さんは、公務員という立場で民族差別撤廃運動を担ってこられた。それから42年の月日を経て、2016年3月に定年退職を迎えられたお二人と高校時代の教師にあたる藤原史朗さんに、当時の思い出やこれからの運動のことなどについてお話をうかがった。

# 特集1 外国籍公務員として民族差別と闘ってきた42年間

## 尼崎工業高校時代の思い出

**藤原** 私は1971年に英語兼社会科の教員として尼崎工業高校（以下、尼工）に赴任しました。その年に孫くんと黄くんが同校に入学してきたんですね。

**孫** はい。それで入学した直後に、私と同じ朝鮮人の生徒と保護者が集められて、その時に本名で行きますか、どうしますか、と言われました。

**黄** ええ、そんなことがあったの？

**孫** 保護者と一緒に呼ばれたから、黄さんは来てないかもしれないね。クラスに7名在日がいて何人かは来てたかな。その時、



藤原 史朗さん

1971年県尼工高に赴任。1976年から2004年まで市尼崎高校に。他方、1994年から2004年まで全朝教代表。退職後KMJ理事へ。

赤銅色の顔をした土建屋の僕の親父が、めずらしく来たんです。それが僕にすれば印象深く。本名で行きませんか、学籍簿を本名でどうですか、と本名を勧めてくるんです。その場で即答できない人は持ち帰り。今考えれば画期的でしたよね。

**高** 尼工での本名教育にはどのような背景があったのですか？

**藤原** 1960年代末に、兵庫県下教校の高等学校で、部落出身生徒、在日朝鮮人生徒たちが主体となった「一斉糾弾」闘争が起こった。これは特に進路保障において、学校が部落出身生徒や在日朝鮮人生徒たちを切り捨ててきたことに

対する不信が背景にあった。これを受けて、教師たちはこの差別の問題をどう受け止めるのか、という意識変革の中で、在日朝鮮人生徒たちの本名問題を重視するようになった。これはちょうど大阪で金容海（キム・ヨンヘ）先生が提唱された「本名を呼び名のる」運動とマッチしたのだと思う。

**高** 孫さんは高校で本名を勧められたとき、どう思われましたか？

**孫** 僕は幼稚園の頃から自分が在日だと意識していました。ただ自分が在日



孫 敏 男さん

1955年4月兵庫県尼崎市に生まれる。父が2世で母は1世。4男2女の5番目の3男。現在、妻と娘3人の5人家族、兵庫県伊丹市在住。慶州（月城）孫氏の22世。

であるということ肯定的に認識するものが、家庭内でも小中学校でもなかったの、どちらかといえば否定的でした。家業が土建屋だったので、まわりは工事労働者しかいなかった。小学生ながら在日は勉強しても意味がない、就職などできない、というのが染みついていましたね。ですから小学校卒業したら働こうと思っていた。さらに否定的にしたのが、中学校に入学するときの誓約書です。入学式の後、朝鮮人だけ校長室に集められて「日本の法令を遵守します」「日本語をよく解します」「その子

武庫

外国人登録証番号	①27254/番	誓約書( )
学生会徒氏名	孫 敏夫(徳山)	
生年月日	昭和27年4月28日生	
本籍	朝鮮慶尚北道迎日郡清河面下煙山	
現住所	尼崎市常松字山の中7ノ2	
保護者氏名	孫 逯述(徳山 富雄)	学生会徒との関係
	現住所	同上

上記の者、入学のうえは、下記事項を厳守することをお誓いいたします。

記

- 日本の法令を厳守します。
- 日本語をよく解します。
- その子女の教育に必要な諸経費(給食費を含む。)については絶対に迷惑をかけません。
- その他校長の指示によく従います。

上記誓約に違反したときは、退学させられても異議はありません。

昭和 年 月 日  
保護者 徳山 富雄  
中学校長 殿

孫さんが尼崎市立武庫中学校へ入学した1967年4月に提出させられた「誓約書」  
『民族差別と排外に抗して』より引用

日本学校卒業でも言葉など勉強できるシステムがあるから心配しなくてもいいですよ、とでも寸前で止めたんです。具体的にうまく言えないんだけど、ひらめきというか。一方でその頃、下のお姉さんが「ベ平連」(ベトナムに平和を！市民連合)の

運動をやっていた。彼女の影響を受けていました。「歌集」とか「ビラ」とかそういうものがいっぱいあってね。そのときに福地幸造(注1)という面白い先生が尼工にいらると聞いて、それで尼工に入学しました。孫 僕の親父は、家業を継ぐために土木科が一番上の兄貴は報徳学園でした。当時、河川敷に住んでましたから、川の向こう岸に報徳学園が見えたんです。次男は朝鮮学校、長女は日本学校で、次女は民族学校。当時の朝鮮半島の政治情勢で、決めていたみたいですね。悪い状況のときは日本学校、これは朝鮮に帰れそうやなといういい状況のときは朝鮮学校というぐあいに。そうやってるうちに、私は5番目ですから、だんだんどうでもいいやとなつて。そのうち2番目の兄が家業を継ぐことになった。兄は就職差別を受けていて、僕に「手に職をつけないかん、朝鮮人は差別があつて就職できないから」と言われて。それで調べていたら尼工に建築科があつて、建築つて楽しそうなイメージもあつたので、決めました。

(注1) 福地幸造  
1960年代から70年代前半にかけての兵庫の解放教育運動の指導者。

の教育に必要な諸経費(給食費含む)については絶対に迷惑をかけません」「その他校長の指示によく従います」そして「上記誓約に違反したときは、退学させられても異議はありません」と書かれた誓約書に署名させられました。こんなことされたら朝鮮人であることを否定的に思いますよね。それから14歳の時、外国人登録の切り替えてはじめて指紋押捺をするんですが、その時になぜか尼崎北警察署で親父と一緒に取調べを受けたんです。もう訳が分からない。なにか得体の知れないものに締め付けられるような。自分が朝鮮人であることに

否定的なことばかりたたき込まれる。もちろん親しい友人には本当のことを言えないでも、逆にそういったつまらない悩みから早く解放されたい、と思うようになって、本名を名乗れる機会があれば、名乗りたいと思うようになってたんです。偶然にも尼工が本名でいくきっかけを与えてくれました。黄 僕も高校にはいったら本名を名乗ろうと思っていました。中学3年のときの担任の先生が面白い授業をしていて、その影響もあつて、最初は朝鮮高校にいかうと思っていたんです。先生が段取りをしてくれて、

運動をやっていた。彼女の影響を受けていました。「歌集」とか「ビラ」とかそういうものがいっぱいあってね。そのときに福地幸造(注1)という面白い先生が尼工にいらると聞いて、それで尼工に入学しました。孫 僕の親父は、家業を継ぐために土木科が一番上の兄貴は報徳学園でした。当時、河川敷に住んでましたから、川の向こう岸に報徳学園が見えたんです。次男は朝鮮学校、長女は日本学校で、次女は民族学校。当時の朝鮮半島の政治情勢で、決めていたみたいですね。悪い状況のときは日本学校、これは朝鮮に帰れそうやなといういい状況のときは朝鮮学校というぐあいに。そうやってるうちに、私は5番目ですから、だんだんどうでもいいやとなつて。そのうち2番目の兄が家業を継ぐことになった。兄は就職差別を受けていて、僕に「手に職をつけないかん、朝鮮人は差別があつて就職できないから」と言われて。それで調べていたら尼工に建築科があつて、建築つて楽しそうなイメージもあつたので、決めました。

## 特集1 外国籍公務員として民族差別と闘ってきた42年間

会（朝文研）というサークルがあったそうですが。

**孫** 朝鮮人だったら強制入部みたいなところはありましたね。生徒はなかなかそうはならなかったですが。

**黄** 週に1回だけ朝鮮語の勉強会があつて、それは真面目に行つてましたよ。

**孫** 当時、朝文研の存在が大きかったのは、奨学金を貰うための受け皿になっていたことですね。在日は経済的に困っている人が多かったので、朝鮮奨学会の奨学金や尼崎市の奨学金や、そういったものを積極的に取つて家庭の負担を和らげようとしていた。先生たちはそれをテコにして在日の生徒が朝文研に入れるような環境をつくつていましたね。

**藤原** 在日の子どもたちはほぼ授業料免除だった。ただしそれぞれが申請しないといけなかったんだが、私のクラスのS君は常に拒否していた。朝鮮奨学金もね。そういうものにかかわつたら朝文研にひっぱつていかれると直感的に感じていたんじゃないかな。自分が朝鮮人だということをひた隠しにしていたからね。

**高** 印象に残っている授業などはありましたか？

**孫** 親の生き様を聞いて、それをホームルー



黄 光 男さん

1955年大阪府吹田市で生まれる。1才のとき母親と姉がハンセン病を発病、長島愛生園に入所させられたため、岡山市内の育児院で育つ。1964年に社会復帰し家族5人で兵庫県尼崎市で暮らす。

ムで報告させるということがありました。するとクラスメイトのいろいろな話しか聞けるんですね。それをすることで、クラスが一つになっていったように思います。自分もそれでいままでも知らなかった親のことを知るようになりました。

**黄** しんどいことを語る、親のことを語る、そういうことを自由に話せる雰囲気でしたね。今は、そんなことありえない。中には話したくない者もいる。ある警察官の息子がいたんやけれど、そのことでいじめられましたという話を聞いたんです。びつくりしましたよ、警察官の息子やのに、その親

の職業でいじめられる。日本人の中にもいろんな立場の人がいてるんやなあって思いました。それからKくんの話は今でもはっきり覚えています。彼はホームルームで「今から狭山事件のことで集会に行つてきます」と宣言したんです。でも、誰も反応がなくて。彼が教室を出て行く直前に僕が「がんばつてこいよ」と声をかけたんですね。後にKくんから聞いたんですが、彼のことをとても喜んでくれて、教室を出た後泣いてしまったそうなんです。

でも、僕は両親のハンセン病の話はいつまでできなかった。

**藤原** 親の歩んできた道を学ぶことは、子どもたちにとつても、我々教師にとつても大事なことだった。在日の子どもが自分が朝鮮人だとわかったときに、多くは親を恨むんやね。なぜ朝鮮人に産んだんやと。親と敵対してしまう、民族から離れてしまう、そういうことであつてはならない、親を恨らまなくともいい生き方をしようじゃないか、それが自身のアイデンティティになる。そこに導いていくことが大きな教育目的だった。これは部落解放運動から出てきた教育運動ですね。

**孫** これはいまの教育でも必要なこと

やと思いますね。本人が自分のつらいこと、言えないことを告白する。それをクラスメイトと共有していく。いまの教育に欠けている大切なことなんじゃないでしょうか。

ふりかえると、尼工では親の生き様を聞くとか、朝鮮語を学ぶとか、いろんな独創的な取り組みがなされていきました。ある意味で「過激」な民族教育を受けたなあつと（笑）。でもそれが私の今に至る原点です。

**藤原** 当時の韓国民団や朝鮮総連の言っているような民族教育ではないんやな、もつとしぼっていえば、民族的人権教育なんや。

**孫** 違いを認める、おまえはおまえでええんや、それを理解するためには、おまえはどんな環境で育ったんや、両親はどんな歩みやったんや、そういうコミュニケーションをする、自分のこともわかってくるんです。

**高** 進路についてはどのように考えられていましたか？

**黄** 僕は民間の設計会社にこうと思っていました。

**孫** 僕は大学に行きたかった。尼工では心のこやしになるような授業はたくさん受けられど、肝心の専門教育に時間を割くことが出来ていなかったと、僕自身感じていて、これでは世間には通用しないなあと、

これでは社会に出ても食べていけないなと思っていたので、大学に行って、専門的な知識・技術を学びたいと思っていました。

**藤原** 1972年に高砂熱学という会社から尼工の進路指導部に電話がありました。

高砂熱学には毎年、尼工から推薦で就職していたんやね。ところがその年の人事課長からの電話は「あらかじめ部落、朝鮮とわかってる子どもは推薦しないでくれ」という内容でした。ほんとうに露骨な差別。会社はそれを書面にかけないこととわかっているから、それで電話で言うてきたんやね。企業と高校の進路指導部はツーカーの関係をつくっている。ところがたまたまその電話を受けた富田先生が、これは大変な話したと、そのことを進路指導部の部長にいわせかどうか、相談を受けた。それはちゃんと上げるべきだと。そして職員会議で大問題になりました。高砂熱学の大阪支社だったので、解放同盟の大阪府連がそれこそ命運をかけた糾弾闘争を行いました。

## 公務員国籍条撤廃運動の開始

**黄** そのころから公務員の国籍条項撤廃運動に、先生方が取り組まれていったんですよ？

**藤原** そう、企業の就職差別糾弾をやっていると、ある企業が「先生方は公務員でしょ？先生方はみな日本人でしょう？職員採用に国籍条項をおいている官公庁、教育委員会が、民間企業に国籍で差別するなど言えるんですか」ということを言い出した。「国籍条項」をはずせというなら、その前に先生方、あるいは地方公務員、国家公務員すべてははずしたらどうやと。確かに理にかなってると。そこで、とりあえず教員や地方公務員の国籍条項撤廃運動をはじめようとなった。それこそ全教師が交代で尼崎市役所に交渉に行くんですね。そして解放同盟も一緒に交渉に臨んでくれた。その時の交渉で、我々は「国籍条項を撤廃せよ」とはあまり言わない。それよりも、民族差別の下で朝鮮人の子どもたちがどんな歩みをしてきたのか、そういう話しを延々と繰り返していき、市の担当者語るんです。

**孫** ホームルームで生徒から聞いた話を先生方がテコにしてがながん話していくんですよ。

**藤原** そう、それが一番相手の心に響くんですよ。そして尼崎市で国籍条項が撤廃されることになった。

**黄** 僕は民間の設計事務所にはいるつもり

## 特集1 外国籍公務員として民族差別と闘ってきた42年間

やったのに、3年生の夏休みのあとになつてすぐやったかな、先生から公務員になれへんかって言われた。

**孫** 僕は大学に行くつもりやったんですが、黄さんが尼崎市を受けるが、君も公務員の試験をうけてくれと先生から言われた。たまたま川西市に尼工の先生の弟の方が人事課につとめていて、ぜひ川西市を受けてくれないかと言われたんです。

**藤原** なぜ教師が「受けてくれへんか」と言ったのか。それは確実に採用されるかわからなかったから。もし公務員がだめになつたら、その時はすでに民間企業の試験は終わっている、生徒を路頭に迷わすことになるかもしれない、その心配があつたから。そのかわり我々教員側は絶対に採用するよう、各役所に働きかけた。こっちも必死やった。

**高** 日本で戦後初めての外国籍公務員が誕生したというところで、非常に注目を浴びたと思うのですが。

**孫** いや、まったく。

**黄** 僕は新聞に載つたよ。

**孫** 冷ややかやつたのが韓国民団と朝鮮総連やったね。朝鮮総連は在日が公務員になることには反対やつたし、韓国民団は傍観してた。それこそ、朝鮮人に対して指紋を

取つたり、税金を取る部署に配属されたらどうするねん、みたいな反応でした。在日にとって公務員は未知の世界だった。

**黄** そういう意味での拒否反応はあつたやろね。

**孫** そう、まったく想像できない職種やつたから。

### 公務員になつて

**高** 職場に初めて在日朝鮮人が入つてきたということ、まわりの反応などはいかがでしたか？

**孫** 韓国に関係することをなんでも聞かれるんです。政治や文化や歴史や。でもわからない。きつちり学んでないし。ましてや韓国に住んでいたわけではないからねえ。

僕は最初の4年間は夜間の大学に通つていました。だから1時間早く出勤して、1時間早く退出し大学に通つていた。仕事と学業を両立させることに必死だったから、そんな韓国のことを聞かれても答えられないし、そんなうつぶんを尼工の先生にぶつけて、憂さを晴らしていましたね。先生なんでもっと民族教育をしてくれなかつたんやつて(笑)。

**藤原** 差別・人権についての学習はよくし

ていたけれど、民族的な素養とかそういうことはあまりなかつたね。

**黄** 尼崎市職員に「独身友の会」というのがあつてね、その会はもともとの名前が「チョンガー会」だった。ところが僕がここに入るということになつて、なにを配慮したのか、名前をかえた。後でこの名前やと具合が悪いから変えたと聞いた。なんか過剰すぎるほどの配慮を僕は感じたね。

**藤原** 在日の職員を孤立させるなど教師のほうからかなり話しがいつてたんよ。

**黄** 尼崎は国籍条項を撤廃した拠点やから、尼工の先生が重々人事課に説明してたんやろね。だから僕が入所したとき、人事課の担当者と月に1回は交流会をもつていた。最初の1年はそういうことをまじめにやつたね。でも2年目からは自然になくなつていった。

**孫** 役所の建築関係の仕事でいえば、高卒ではこの阪神間は尼工の卒業生しかいない。右を向いても左を向いても尼工の卒業生で、尼工会というのもあつた。だから尼工の教育を受けた先輩方の人間的な繋がりができていたので、とくに孤独を感じるということはなかつた。尼崎市役所みたいになんていうプラスアルファの会はなかつたけれど。

**黄** 庁内に連絡会というのがあつて、いろ

んな部署の人たちと懇親会をもっていた。

僕が参加したときに隣に消防の職員が座っていて、僕の名前を聞くと「かわった名前ですわね」と言われた。「朝鮮人なんです」って打ち明けると「嘘でしょ」と言ってきた。

まさか尼崎の公務員に外国人がいるはずがないと思っていたんでしょうね。僕は生い立ちからすべて話しましたが、「それでも今は帰化してはるんでしょ」とさらに追い打ちをかけられました。よっぽど信じられなかったんでしょうね。外国人は公務員になれるはずがない、と信じて疑わない彼の考えの中には、日本と朝鮮半島の過去の歴史や国籍条項が撤廃された事実を知らないだけでなく、国家に服従しなければならぬ公務員像が先にあり、そうした公務員には日本人しかねないんだと思ひ込んでいたのでしょう。

## 外国籍公務員採用の凍結方針

**高** ところがすぐに公務員採用の凍結方針が出されるんですよ。

**藤原** そう、もうすでに教師の間で朝鮮人を公務員にして良かったのか、国籍条項撤廃が良かったのか、悪かったのか、という議論が出ていた。

**黄** 尼崎市へ入るとき、尼工の先生から「次の年にお前の後輩を入れるから、1年間その後輩のために本名でがんばれ」と言われました。その言葉が自分の支えになっていました。ところが、次の後輩は受験できなかった。募集要項には国籍条項が撤廃されて、体制は整っているのに。

**孫** 僕らが公務員になったことで自分も公務員になりたい、という朝文研の後輩がいた。でも受験できなくて、悔しがっていた。兵庫在日外国人教育を考える会代表の藤川正夫先生がまとめていますが、1975年に国籍条項撤廃に中心的に尽力した兵庫高等学校進路指導研究会が、在日朝鮮人生徒の公務員就任に関して凍結方針を出しました。僕たちは2階にかけられた梯子を昇ったとたん、外されたわけです。犯罪的ですね。

**孫** いつごろですか、僕らが役所に入ったあとですか。

**藤原** そう。転職をすすめて民間企業をあらがわないとあかん、そんな議論も出ていた。

**孫** どうしてなんですか？

**藤原** それを言い出したのか誰だったのか、当時はわからなかったけれど、藤川さんが探っていく中で、当時、県立湊川高校で常勤講師となり朝鮮語を教えていた林大造（金時鐘）氏と研究者の朴慶植氏の二人が、在日朝鮮人が公務員になっていくことに否定的な見解（注2）を示し、それを兵庫県高等学校進路指導研究会が援用する形で凍結方針への路線変更を正当化した、と明らかにしているね。

**孫** それで先生方の態度もおかしかったのかなあ。というのも1974年、はじめてポーナズが出て、それでステレオを買おうと思って、日本信販の割賦販売（クレジット）を利用しようとしたんです。ところが何の理由も言われず断られたんです。あとでわかったことですが、日本信販は購入者の資格条件を「日本国籍のある方」としていたんですね。本当に頭にきて、尼工の先生に相談にいった。ところが、けんもほろろに、それは仕方ないでつて言われて、ショックでした。

**孫** どうしてなんですか？

**藤原** それを言い出したのか誰だったのか、当時はわからなかったけれど、藤川さんが探っていく中で、当時、県立湊川高校で常勤講師となり朝鮮語を教えていた林大造（金時鐘）氏と研究者の朴慶植氏の二人が、在日朝鮮人が公務員になっていくことに否定的な見解（注2）を示し、それを兵庫県高等学校進路指導研究会が援用する形で凍結方針への路線変更を正当化した、と明らかにしているね。

**孫** そのときに思いましたね、やっぱり僕らは日本人とは違うんやと。でもがんばれと言ってほしかった。





## 特集1 外国籍公務員として民族差別と闘ってきた42年間

契約調査報告書事件(注4)やね。これと比較するのがN生命(注5)。安田生命はすぐうまくいった。最後、謝罪文も書いて、覚書まで兵庫民闘連の代表と社長の名前までちゃんと書いて交わした。会社にとってもよかつたと思うよ。やったことは悪かつたが、それを契機に話し合い、企業として何が大事なのかをわかってもらえた。それに比べるとN生命事件はうまうまなかった。最終的には対応を拒否して、何の成果も残らなかったね。同じ生命保険会社でこんなにも違うんやね。

**孫** 成功事例としてはキリンビール尼崎工場内民族差別事件(注6)ですね。それ以降、キリンビールしか飲まないよ(笑)。全国民闘連が窓口でがんばってくれて、大事なところは僕らが担当して、一緒に取り組んだ。すつたもんだがあつたけれど、最後はキリンも反省し、その後の取り組みもすっかりやつていった。この事件が印象的なのは、被差別当事者の郭金池さんがとても素晴らしい人やったことやね。九州から引越してきて、働き場がない中で、キリンビールで働き、きちんと給料がもらえる、キリンには感謝している、その感謝しているキリンが朝鮮人を差別する汚い会社になつて欲しくない、そのような郭さんの思いが伝

わつてきた。だからこそ、放つておけない。そんな彼女の気持ちにキリンも応えてくれた。こんなに頑張っている人間を差別したらあかんど。実にすばらしい当事者だった。キリンを愛していた、キリンに尽くした人、そんな朝鮮人が切り捨てられようとした事件だったのです。

**黄** キリンを愛するその人は、キリンが差別をする企業になつてほしくない、こんなふうな差別する会社になつてほしくない、そういう思いが伝わつたんですよ。

**高** 兵庫人権協会の闘いの特徴は？

**孫** 外国籍公務員が中心に闘つたということですね。

**黄** 事務所もなく、私の個人の家が郵便の窓口になつていてるけれど(笑)。

(注4) 1983年11月に尼崎在住の在日朝鮮人が、安田生命の保険商品に加入しようとした際に、「外国人契約調査報告書」への記入を求められた。この調査報告書には、外国人登録番号、契約者、被保険者、受取人の日本語の理解度などを記入することとされていた。この「調査報告書」については、1983年の第一生命加入差別事件で、全国の生命保険会社のほとんどが在日外国人の加入者に対して「外国人念書」「調査報告書」を提出させていたことが明らかになり、民族差別と闘う連絡協議会(民闘連)がこれを全廃するように要請し、全国各社からこれを全廃する文書を受理していた。安田生命も1983年4月21日付けで全廃すると文書で回答していた。この情報を得て、兵庫民闘連が安田生命と7回に亘り交渉し、1984年に社長名による確認書を受理して終結した。(『民族差別と排外に抗して』兵庫在日外国人入権協会発行、2015年より)

(注5) N生命保険職員が、在日外国人を排除したピラを配布した事件で、1990年代に尼崎市内で2度起こつた。1993年の1回目の問題では、人権啓発部長名での謝罪やその後の研修に関する文書が提出されたが、1996年の事件においては、1993年の問題にさかのぼって「配慮に欠けた事象であることは事実」であるが「差別文書ではない」と主張し、その後の一切の話し合いを拒否したまま終結となった。なお、未解決の事件なのでここではイニシャル表記とした。(『民族差別と排外に抗して』兵庫在日外国人入権協会発行、2015年より)

(注6) 1993年、「検瓶」作業を29年間続けた臨時従業員である朝鮮人女性が、同じ臨時従業員の仲間から「朝鮮人がよく仕事をするので辞めて欲しかった」「朝鮮人やからかかわりたくない、わずらわしい」などと差別される事件が起こつた。また、この差別発言をした者(労組役員)が被害者の朝鮮人女性を解雇させるようにと経営側に画策するなどの行為もあつた。確認会で差別発言をした労組役員は最後まで差別に対して否定したが、尼崎工場長は職場に存在する差別的体質を認め、キリンビールは企業として民族差別が存在したことを認めた。(『民族差別と排外に抗して』兵庫在日外国人入権協会発行、2015年より)



「キリンビール尼崎工場内民族差別事件糾弾会」

『民族差別と排外に抗して』より引用

と挨拶しました。皮肉を込めてね。そういった意味で僕は「在日が公務員になる意味」は非常に大きいと思っています。日本人の心の中に「外国人が公務員になることが許されない」という気持ちがあるその背景には、職場で同じ仲間になり、同じしんどい仕事をやりとげるのは、同じ価値観をもち、仲間内の心情が何の説明もなくわかる人間でなければなりません。きないと限定してしまっていることにあると思います。これは明治憲法下につくられた公務員像が未だに支配していて、公務員は人民を支配する立場にあるのだ

僕にできることは、それだ。そして独立することはあきらめました。2000年に副主幹（課長補佐）になったとき、職員課職員課長と面談するんですが、なかなか昇進させることを思い切れないようでした。最近はずっとスピーチがあつて、在特会のような市民から、「わかっているやろなあ、外国人が管理職になれないことは、わかっているやろなあ」というようなメールが入って、職員課長に呼ばれて、こんなメールがきてるんだけど、こんなふうには回答するからね、そんな相談がありました。結局、

**孫** ニ工での高砂熱学の闘いがなければ、

いまの私たちはないと思います。当時の先生たちが闘われたことはもっと評価され、語られてもいい。あれがなければ外国籍の公務員も生まれなかったし、こうして闘えなかった。

**高** 公務員として闘うことでやりにくかったことは？

**孫** 職場で運動への理解を求めることはなかったですね。当事者として堂々と生きることで自分たちの位置

を築いてきたと思っています。

**黄** 指紋押捺拒否をして、人事課長に会議室によばれてね。指紋を押せときつは言われなかったけど、人事課長にすれば、一応説得したかたちにしたかったんやろね。周りが気を遣っていた。

公務員というのは国籍条項があつて、公の意思の形成とか、公権力の行使とかが、大原則になってくるでしょ。そもそもそんなものは時代遅れもはなはだしい。それをいつまでも保持している自治体も職種もある。このまへの兵庫県交渉であえて「42年間、わたしが在職している間に国籍条項を撤廃できなかったのが、残念だった」と

から、そんな指導的立場（抑圧する立場）にある人間はなおさら、価値観の違う、心情のわからない外国人であつては困る、ということなんです。そういった古くさい公務員像を、外国人という価値観の違う人間が入っていくことで変えていく。本来の地方自治としての公務員像をつくる、それこそ外国人が公務員になる意味だと思っています。

**孫** 僕は大学出たら、公務員を辞めて、独立して設計事務所をやるうか、それとも残るべきか迷っていた。だけど僕にできることは何かと考えたとき、僕は管理職の壁を破りたいと考えた。他の人ができなくて、僕にできることは、それだ。そして

## 特集1 外国籍公務員として民族差別と闘ってきた42年間

いくら頑張ってみても、それをみて職場の上司が「昇進させたい」と思っても、「当然の法理」という考えの中で、叩かれるわけです。

**黄** 孫さんが私たちの中では一番、課長への昇進に近かった。それでもなれなかった。ある年に孫さんは、ある課長にこんなことを打ち明けられているんです。「職員課内部で課長職は、外国籍の者はなれないとする暗黙の制限があるらしい」と。その課長は孫さんを課長に昇格させようと努力したがだめだったので、なぜだめなのか職員課に尋ねたところ、このような答えが返ってきましたそうです。

**孫** 管理職の壁をつぶそうとしたけれど、はたせなかった。残念やった。

**藤原** 私の教え子で尼崎市役所に入った金直美には、どんな難題があっても公務員を辞めるなど言っています。市の職員に朝鮮人がいてる、それが同胞を励ますことになる、そして日本人の一般市民が朝鮮人の存在を認める、公務員に外国人がなれる、そういう時代になったことを、理解させることが大事だと。

**孫** 在日同胞も日本人もまだまだ衝撃を受けてる人は多いですよね。

### 今後の運動と次世代への継承

**黄** 地域運動の形成が困難だったこと。やはり運動を継承しようとすれば地域運動がないとなかなかできない。

**孫** YKC（ヤングコリアンサークル）をつくったり、努力はしてきたんやけど、僕は時代が人をつくるし、人が時代を変えていくと思ってる。僕らは僕らの時代の中である程度の差別を解消させてきたし、これから継続的に、地道に【モグラ叩き】をしていく。

**黄** その【モグラ】も最近あまり頭を出さないようになってきた。

**孫** 差別をする側がずるがしくなっているのか、差別される側が誇りをなくして、声を上げなくなっているのか。

**黄** 僕たちの時代に一区切りつけたと思ってます。残念ながら新しい芽の誕生が少ない。いま、そのことを人権協会で議論しています。さていかにするか。

**孫** 外国籍で公務員になっていく人は増えていくのですが、在日の人権運動に結びつく者が少ない。労働運動や組合ですら組織率もどんどん下がっている。在日が「日本国籍取得」をしていくなかで、コリアンとして国籍を維持し、本名をなのり、正々堂々

と闘っていく人間が今後どれだけ誕生していくのか。困難な状況になっていますね。大阪では教員が200人ほど生まれてきているみたいで、そこにも期待したいですね。

**黄** 尼工の時に、親の生き様を知る、学ぶ教育を受けてきた。これはいまの若者にも大切なことなんじゃないかなあ。民族教育というところ、言葉覚える、チャンゴたたくとかそういうのに終始してしまいがち。でも、ほんとうは親の生き様を知り学ぶところにある。そういうことをしていくことで、在日としてのアイデンティティが育まれる。

**孫** 僕たちはそれを受けることができた。今後、公教育のなかで、そのような教育実践を再生できるのかどうかにかかっているんじゃないかなあ。これができないと、私たちのような人間は生まれてこない、まさにボールは今の高校、大学の教員に投げ返されているんじゃないか。あなた方はどう在日にかかわるんや、どう向きあうんやと。

**黄** 僕の場合はハンセン病の親のことを語り始めたのが、つい最近なんです。8年間、離ればなれで住んでいたから、親がどんな生活をしてたのか、当時はわからなかった。いまになってやっと、去年は大阪府の庁舎で、患者票とか、そういうのを情報公

開請求して、親たちがどういう形で療養所までつれていかれたか、調べ始めた。長島愛生園のどの場所で暮らしていたのか、だんだんわかってきて、すると、島の中でも人里離れたところに住まわされていた。愛生園の中でも朝鮮人として差別されていたのかなって。やっとこの年になって、できるようになったのは、尼工の教育実践があり、公務員として民族差別と闘ってきたことがあったからかなと思っています。

**藤原** まずはお二人に、長きにわたる公務員の仕事と民族差別との闘いに尽力されてご苦労様でしたと言いたい。同時にこうして今日まで二人が闘い続けてくれたことに、我々の教育運動に意味があったんだなあと改めて受けとめ直すことができる。もしこの二人がいなかったら、いったい尼工の教育実践ってなんだっただろうということになる。それがあって、その後の市立尼崎高校での私なりの教育実践があり、尼崎市役所勤務の金直美や、別ジャンルだが南果歩らの姿がある。お二人には今後もさらなる歩みと闘いを続けていってほしいです。

黄光男さんの「ハンセン病」にかんする講演会が開催されます。ぜひお立ち寄り下さい。

**大権問題講演会** 「ハンセン病」について考えます。

**「ハンセン病に引き裂かれた家族」**  
～国家賠償訴訟を訴えて～



**講師 黄光男(ファンガンナム)さん**  
兵庫県在日外国人入国協会事務局長  
ハンセン病元患者家族の集団訴訟原告団副団長  
講師プロフィール

黄光男(ファンガンナム)  
1955年大阪府吹田市で在日朝鮮人二世として生まれる。1歳の時に母親と姉がハンセン病を発病、岡山療養所に隔離され、本人は岡山市内の福祉施設で育つ。  
1964年家族5人が社会復帰し、尼崎で暮らす。尼崎工業高校卒業後、尼崎市職員に採用。ハンセン病の親の事を長らく語らなかった。  
2016年2月、「ハンセン病家族の集団訴訟」の原告副団長となる。

本会は、立花中学校区住民における住民組織及び関係行政機関の代表者で構成されています。立花中学校区区長の阿部問題をはじめさまざまな人権問題に関する教育や啓発活動を推進しています。

**主催** 立花中学校区人権教育・啓発推進会議  
**協賛(公社)** 尼崎人権啓発協会・いくしま人権協会  
問い合わせ先/尼崎市立地域総合センター上ノ島分會  
尼崎市南塚口町8-22-116 TEL 06-6427-2731


**とき** 7月13日(水) 午前10時半～正午  
**ところ** 尼崎市立地域総合センター上ノ島本館  
尼崎市南塚口町8-7-25  
TEL: 06-6429-7840

※参加無料 申し込み不要(手話通訳あり)

会場移動  
尼崎駅西口  
西ノ島  
上ノ島  
公共交通をご利用ください。

**私の母は、ハンセン病でした。**

**THINK NOW ハンセン病 講演会**



●とき 2016年8月27日(土) 午後1時30分～3時  
●ところ 尼崎市立地域総合センター神崎

●スピーカー **黄光男(ファンガンナム)さん**

1歳の時、母と姉がハンセン病を発病、療養所に隔離され、福祉施設で育つ。隔離施設によって引き裂かれる家族。その経験から、音楽によってハンセン病問題の理解と解決をめざす活動を始める。「ハンセン病元患者家族の集団訴訟」原告団副団長。現在は尼崎市役所で勤務。

家族を引き裂かれた思い、親のことを話せなかった思い。「ハンセン病」に対する根深い差別の現実、差別隔離のもと「らい予防法」がもたらした現実を、いまだ多くの人には知らない。ヘイスター、結婚・就職差別、いじめなど、日本はまだまだ「平和」じゃない。「ハンセン病」とその家族の思いを知る。誰ひとり偏見と差別で苦しむことがない、そんな尼崎をつくるために。

●申込み先着80人、参加無料  
>電話・ファクシミリ・メール、いずれかで名前、連絡先(電話もしくはメールアドレス)、参加人数、所属(任意)をお申込み下さい。なお、空きがあれば当日参加も可能です。  
●手話通訳などを希望される方は、8月10日(水)までにご連絡下さい。

【申込み・問合せ】 尼崎市立地域総合センター神崎  
電話・ファクシミリ 06-6499-3500(平日9時～21時、第2・4土曜日9時～17時)  
メール qqku9sw9k@clock.ocn.ne.jp



# 追悼

## 吳徳洙 監督



在日への差別は歴史的には100年ちよつとです。100年だから軽いというわけではありませんが、日本の国を占めている根っこの中の天皇制と部落差別の問題が大きな問題としてあるのだと、在日の問題をやればやるほど根の深さを感じます。

そういう在日への差別をとりあげないで、在日を対象とする劇場用の映画はどれくらいあるか。やはり描きやすくおもしろいのか、大小含めて3、40本、もっと数えてドキュメンタリーを含めたらもう100本にもなる。在日の問題に対して、心ない連中がヘイトスピーチを叫びますが、在日は分かりやすいけれども、根が深くなりにくいのはいったいなんなんだろうと、常に考えます。また天皇制の問題が常に絡むものですから。

映画は、作るのにお金がかかるので、もとをとらなければいけない。それが商売として成立するかどうか常に精査します。それを概括的にいうと、特に劇映画は、しばしば社会のニーズと、その時代状況をよく反映します。「歌は世につれ、世は歌につれ」と言われるように、映画もまた社会（世相）と時代を映すカガミだと思います。

2015年は、朝鮮植民地支配の序章となつた1905年の「乙巳保護条約」から数えて100年になります。日本の教科書では、歴史はこの時代から江戸時代が始まったんだと、年表で区分けするのだけれど、そんなにびたつと線で引いて、時代がころつと変わるわけではないのです。とすれば1905年は非常に大きな、1910年以上に意味を持つものだと思います。戦前は、植民地時代を反映して「内鮮一体」「内鮮一如」を鼓舞する、いわゆる国策映画が数多く制作されました。

最近韓国では、戦前の劇映画、「内鮮一体」や日本が作った下

キュメンタリーなどを収集して博物館で見せています。そういうのをデジタル化して見せるという時代になり、最近韓国の友人が送ってくれました。1939年私が生まれる2年前、日中戦争が果敢に火を噴き、太平洋戦争が始まった。当時朝鮮の人口が3000万人として、朝鮮の人たちが日本の帝国主義を描

いたかと言えば、けっしてそうではなくて、一方では賛成だという人たちの集会もあるわけですよ。

人が送ってくれました。1939年私が生まれる2年前、日中戦争が果敢に火を噴き、太平洋戦争が始まった。当時朝鮮の人口が3000万人として、朝鮮の人たちが日本の帝国主義を描いたかという、そうではなく、やはりこの戦争に勝ち抜かなければということ、実際に日本の戦争に加担した人もいました。侵略されて植民地化されたのだから、皆朝鮮人は疲弊して常に隙あらば日本に対抗しようとか、中国に亡命してパルチザンをやつたり、上海に臨時政府を作つたりして、反日本帝国主義で闘つた人たちもいれば、そうでもない人々もいて様々です。

当時、実際に敵艦にゼロ戦で突つ込む特別攻撃隊志願の朝鮮人だつて、分かっているだけで十数人おり、日本帝国のために戦いました。例えば『ホタル』という高倉健さんの映画の中でも描かれています。けっして杓子定規に一つの態勢というのは間違いです。かといって全員が協力しているかという、それはまた違って、グラデーション(ぼかし)がかかっています。非常に難しい議論になるわけです。

1942年に朝鮮に小さいプロダクションが11ありました。それが全部一つに統合されて、プロパガンダ映画をどんどんと作らされました。そういう時代を映したものを入手したので、それを見ましょう。

1942年に朝鮮に小さいプロダクションが11ありました。それが全部一つに統合されて、プロパガンダ映画をどんどんと作らされました。そういう時代を映したものを入手したので、それを見ましょう。

## 商業映画で苦悩する 在日青年を描く

まず『銃後の朝鮮』を上映します。これはプロパガンダですけれども、劇映画を含めて韓国人たちは、いっぱい作品を集めています。かつての日本軍の帝国主義はこういうことなんだ、とよく解説するのですが、これはけっして全員が日帝主義ではないのだけれど、映画はプロパガンダ的に作るわけなんです。

人女性が「これから長野の飯場の方に移動するのだけれど、民族衣装じゃなくて日本の着物を着て、有りがたうさんのバスに乗りたかったわ」という、たったそれだけのセリフなんですけれど、1936年の作品でそういうシーンが登場します。そういったものを含めて『煉瓦女工』や『君と僕』とか『若き姿』『望楼の決死隊』、『愛と誓ひ』などの作品もあります。

戦後70年、どう描かれたと言うので遡っていくと、その中に清水宏監督が戦前、『有りがたうさん』という伊豆を舞台にした映画があります。上原謙さんが主演で、バスの運転手をしていて、牛車に通っていて道をよけてくれると「有りがたうさん」と連呼するので、ニックネームになりました。その中に在日の白装束の集団がでてきます。これは物語の趣旨でなく、一点描なんです、そこに一人の朝鮮

この頃に今井正という監督がいます。この監督は日本の良心。戦後に大ヒットした『青い山脈』という戦後民主主義の学園もの、それに始まって『ひめゆりの塔』という反戦映画、『キクとイサム』という、黒人のアメリカ兵と日本人女性のダブルの子どもの話。それから『米』という農業問題を扱った作品、八海事件を扱った『真昼の暗黒』、原爆症を扱った『純愛物語』、そして決定的なのは『橋のない川』第1部・第2部。



## 『銃後の朝鮮』

1937年に朝鮮総督府が製作した広報動画。日中戦争（支那事変）下における朝鮮の人々による後方支援、募金活動や兵士に送る慰問袋の製作、物品の供出などを描いたプロパガンダ映画であるが、そこから当時の朝鮮人たちの生活が垣間みえる。

この社会派の今井正監督が、自己総括しているのですが、戦前の朝鮮で2本映画を撮っています。その一本が『望楼の決死隊』、原節子さんが主演しているのですが、朝鮮と旧満州の国境を守る日本の国境警備隊の話です。日本の帝国主義を打破せんがためにやってくるパルチザンの連中をやつつけるという、非常に話が逆転しているのですが、そういった映画を撮っています。もう一本が『愛と誓い』、朝鮮の少年特攻兵がいかに勇敢に戦うかというのを撮っています。

（江原真二郎）の苦勞を描いた作品です。部分的に見ましよう。今井監督はこう言っています。「愛し合っている人間同士が、国際的問題で引き離され、顔を合わせれば話も合うのに、そこに民族的、政治的な問題がからむと争いが起きる。こういった現実を集約したかった」と、非常に概括的なことを書いています。

私が小学4、5年生くらい頃、在日の子どもをいじめるときは李ラインなんです。ここから先は入るなと。だから「拿捕」という言葉が書けるんですね。拉致の拉という漢字は一般的ではないんですが、それが書ける。朝鮮の子となれば、小学生でも李ラインだから入ってくるなとよくいじめられました。国同士の問題が、個人に集約されて描かれているのはよくあると言えます。そういうことはあつてはいけないんですが、そういう一つの国、一つの集団で全体を見てしまう。どこかで、そういうことが刷り込まれてしまうことはあるので、今井正は李ラインを取り上げながら、在日の一人の青年の苦悩をそれなりに映像化しました。

1961年の作品なんです、東映の劇場に全国上映されるという時代というのは、今ならなかなか考えられないですけど、製作は大川博なんです。私もかつては東映の人間で、五島財閥から予算をぶちこんだという有名な映画社長、大・大川ですが、その人の名前で映画がつくられるというのは、それなりのニーズがあつた。大ヒットはしませんでした。岸田今日子さんが在日の娼婦の役で慰めあうというシーンを、ピックアップしてみました。

江原さんの演じる木村という青年は通称名を名乗っているのですが、母の手紙でばれてしまいます。母が船長に宛てた手紙を読んでいる声の主が亡くなつた北林谷栄さんです。一切顔は出ないのですが、非常に味のあ



## 『あれが港の灯だ』

1961年東映作品。監督は今井正。1952年韓国側が引いた李ライン（平和ライン）を背景に、日本漁船で創業する在日青年の苦悩を通して民族問題を痛切に訴えた作品。国家間の不信感が、そこに生きる人々の人間関係にまで亀裂を生む不条理を見事に描いている。

る女優さんで、1959年の今村昌平監督の『にあんちゃん』という作品で、在日が登場する最初の作品だと思うのですが、朝鮮のばあさん役で登場します。また、杉原という女性が後から出てきますが、民族名を名乗るときに、私は朝鮮人ですとか、韓国人ですとか、いまの若い人は言うかもしれません、江原真二郎扮する木村は「私の両親は日本人じゃないです」と言う。反発が多いからなんです。最後に杉原も、「私の国籍は日本じゃない」と言う。私は朝鮮人だとストレートに言えばいいのに、シナリオの意向でぼやかしている。演出や背景で、それとわからせていることは、指摘しておきたいと思います。

### 在日コリアンの帰国を描く

1945年に日本は敗戦を迎えて、そのあ

と在日朝鮮人は、「三国人」（編集者注）だということ、もちろん解放されたということで、行き過ぎの行動があったと言えますが、日本に従順な臣民になっていたのが、反旗をひるがえすような行動をとったのではないかととらえられ、いい役というのはほとんどなかったんです。例えば、1945年から50年までチンピラだとか、麻薬の密売とか、そういう下層なやくざ映画に、在日が多く描かれました。ですが一方ではそうではない、在日が帝国主義の植民地から解放された中で、好意的に例えれば『日本の歌』など、そういう映画もあります。両方並立したのもあります。1959年に九州の炭鉱を背景にした10歳の少女の日記『にあんちゃん』。カッパブックスから出版されたベストセラーで、未だに推薦図書として読まれています。それを映画化したのが今村昌平さんです。そして、まだまだ日本が中国や北朝鮮に対して憧れがあった時

代に作られた映画で、けっして在日を主人公にした映画ではないのですが、1962年に吉永小百合が主役の『キューポラのある街』があります。北朝鮮は労働者の金日成が率いる素晴らしい国だと、いまでこそたくさんひびきが出てきて拉致問題や核問題など解決されない問題があるのですが、当時は知らないなりにそういう憧れがありました。別に北朝鮮賛歌ではなく、日本の良心として描いた『キューポラのある街』。吉永小百合と仲良くしている友達役が在日のヨシエちゃん。ヨシエちゃんが北朝鮮に帰るといふ別れの名シーンがあるので観てもらいます。この作品は1962年ですが、1959年に第1船が出たんですが、ちょうど2年後で、これがどれほど北朝鮮に帰国するためのプラスになったかは分かりません。ですけれど実際に理想の国だということ、もう一つは理想の国だと宣伝した当時のマスメディアも含めて、欠かせ

(注) 「三国人」という表現は民族差別語であり、現在は使用されません。



(C) 日活映画社

## 『キューポラのある街』

1962年、日活。監督は浦山桐郎。鑄物の町・埼玉県川口市を舞台にそこに住む職人気質の頑固な父を持つジュンとタカユキの姉弟が、貧しくとも強く生きる様子を描いている。ジュンの友達の在日の少女・ヨシエの一家が「帰国船」に乗る、川口駅での別れのシーンが印象的。

ない議論は、このまま在日でもない夢がないのではないかという問題です。教育や生活の困難の問題がありましたので、アンフェアだと監督を責めるわけにはいかない。やはり当時の日本のマスメディアも、安倍晋三のおじいちゃん、岸信介も、人道的見地から考えて北に送るのだと、国会でも堂々と発言しています。50年たったいま、北の帰国事業はいつたい何だったのでしょうか。

在日1世に聞くと、38度線以南に故郷を持っている人らが行っているのですから、佐賀県出身の人が秋田に行っているようなもんで、言葉も違えば風俗習慣も同じ日本でも違うように、朝鮮だって半島ですから皆が皆異なります。金日成主義だけで生活している訳ではないのです。帰還事業で9万7000人が、その中に2000人の日本人が実際家族構成の中にいたわけなのです。しかし50年過ぎても自由往来ができていない。

## 70年代に入って

2002年に結ばれた日朝平壤宣言からもう13年、それからまだ拉致問題がネックになっていて、小泉純一郎と金正日が握手してこれから日朝国交正常化しようじゃないかと約束したのは何だったんだろうかというのはあるのですが、この別れのシーンは当時としては感動的でした。

70年代になりますと、初めて

在日の映画監督が出ます。李学仁の『異邦人の河』という非常に在日のアイデンティティを問題にした力作で、ヒットした作品ではないが注目されました。もう一つの作品には李恢成さんの『伽耶子のために』という名作があります。また、先ほど朝鮮人はチンピラ役などが多いと話しましたが、中でも小林旭と梅宮辰夫が朝鮮人として重要な役割を担う映画が『日本暴力列島 京阪神殺しの軍団』です。小林が「花木」梅宮が「金光」

という役で、すごい映画です。タイトルもすごいですが、映画での輸血のシーンなど、いまでは笑ってしまうシーンが多々あるのですが、どうか目をつぶってご覧ください。監督が山下耕作で脚本の松本功がうまくかけている作品です。

この作品の面白いところは、朝鮮や韓国をイメージするセリフが一切出てこないところですが、小林旭が梅宮辰夫に直接輸血するシーンがあるのですが、分かりやすいんだけど、あんなのは医学的にあるのでしょうか。それもA型とかB型とかじゃなく、同じ民族だから同じ血だと言って輸血する。映画だからといってもちよつと無理があるかなあと思いました。

それからもう一つは、梅宮が小林に可愛がられていることに、妬みで自暴自棄になった舎弟の伊吹吾郎がシャブに手を出し、小林に咎められる。そこで伊吹は兄貴（小林）が梅宮を可愛がるのは、「私が日本人だからうっ



## 『京阪神殺しの軍団』

1975年東映、監督は山下耕作。東映の実録やくざ映画であるが、全編を通して「韓国・朝鮮」を指す言葉は一言も出てこない。しかし、映画の中の数々のセリフから、在日をモチーフにした作品であることが推測できる。小林旭、梅宮辰夫の二代スターが主人公の在日やくざを演じる異色作。

とういのですか」と言うんですね。笑ってしまうのだけれど、そういうのはイジケとしてあるのだと思うのです。

### アイデンティティを描く

90年代にはいると、すごい映画が現れます。これは梁石日さんの『タクシードライバー』という小説をモデルにした、崔洋一監督の『月はどっちに出ている』。この映画は、当時の映画賞を総なめにしました。これまでの日本映画が在日を描くとき、良心的にまたは、差別という切り口をテーマしてきたのですが、この映画は次なる世界に場所を移行するものとなりました。いままでは貧困と差別が大きなテーマになっていたのですが、90年代に入りますと、生活もよくなって在日も一応は食えるようになって、コリアンだけが外国人じゃなくて、中国やフィリピンなどいろんな国から人々がやってくるようになります。その中で在

日が、日本と在日という関係性だけではなくて、私の視点ですが、在日は日本から差別を受ける存在ではあるのだけれど、日本化してしまっただけで、日本人をこき使うという、そういうカオス的な構造を描いており、なかなかの名作です。崔洋一は私が仲人をした関係ですが、はつきり言って監督として嫉妬しましたね。ここまで描いてしまったというのは、大きな在日の映画の転換期だと思います。そういう中で2000年に入りますと、もう一つ私の大好きな映画で、第123回直木賞を受賞した在日の金城一紀さんの作品を映像化した『GO』という、行定勲監督の作品があります。「差別」「被差別」の視点ではなくて、自分というの何なんだという、アイデンティティの視点で問いかけている作品が出てきました。主人公は在日だが朝鮮語は話せない、朝鮮の歴史も少しは知っていますけどほとんど知らない。でも日本のこと

は知っている。

私も日本百名山の半分は言えて、徳川將軍の名前も言える。でも朝鮮王朝は知らない。地理も知らないし、顔形は日本人。そういう中で自分はいったい何なのかをテーマに描いています。

この頃にアイデンティティ、帰属的なものを描いた映画で次から次へと出てきます。『あんにょんキムチ』や『パッチギ』、ニュアンスは違うけれど『血と骨』。

そういう中で70年の間で代表作をあげると言われれば、私は『月はどっちに出ている』次が『GO』、3番目に『あれが港の灯だ』を挙げます。『GO』のように、日本人が悪いとか、差別するからこうなんだということではなく、自分はいったい何者なのかを問うような映画は、これからももっと出てくると思います。



## 『GO』

2001年、東映、監督は行定勲。日本の高校に通う在日3世の杉原が恋や友情に悩みながらも、アイデンティティに目覚めていく姿が、今の「在日」の姿を考える入口として秀逸な作品。第123回直木賞を受賞した在日3世、金城一紀の原作は「在日」という切実な問題に深く悩み苦しみながらも、それをしなやかに飛び越えていく柔軟さが何よりも魅力。

### 在日を切り口とした 映画の行方は

現象面で言えば、在日は朝鮮半島から強制連行だけで玄海灘を渡ってきたのではないのだけれども、在日朝鮮人のデータで言えば、1945年の8月15日、敗戦時に290数万人、いま現在、国籍保有者で言えば、ニューカマーを除けば40万人を切っています。国籍だけで言えばそうですが、在日韓国・朝鮮人と日本人との婚姻で言えば、82・5%が在日と日本人、もちろん中国やアメリカ人もいますが、ほとん

んどが日本人との結婚です。そういうダブルの人たちも入れると、いろんな説があります。現在在日は300万人は下らないと思います。その中で国籍を大事にしなが

ら民族学校へ行つて、民族名を名乗り、民族の文化を吸収して生きる在日もいれば、そうでない在日の方が多いのですが、この作品の窪塚洋介の「俺はいつた何者なんだ」という叫びが2世、3世には非常によく響く。両親が日本人で、じいちゃんばあちゃんも日本人であれば、自分には日本人だと言えるのだけれども、中にはそれらの何分の1かはコリアンが入っていることで、それを一つのよすがにして韓国に留学したりする日本国籍の日本人たちもいる。

そういう意味では、在日はいったい何なのかと問われれば、一言では語れない非常に日本の近現代の中で生まれ落ちた、そういう意味では百人百様、一つではくくれない状況になっています。50年、60年代の映画では、日本対在日の関係の中で描きやすかったという、映画をつくる人には失礼ですが、そういう時代も過ぎて、自分はいったい何か、私も気を付けて見ていま

すが、もちろんニューカマーの人たちの新しい映画や短編やドキュメンタリーはありますが、『あれが港の灯だ』とか『キューポラのある街』とかが作りにくい時代になってしまったんでしょね。

かきかっこつきですが、「国際の」になってしまつて、国籍だけ、民族だけでは語れない状況になりつつあるのではないかと。そういう意味では最近の、あまりヒットはしませんでした、崔監督の『カムイ伝』、最近では呉美保さんという人がキネマ旬報を受賞して、在日という切り口だけではない作品を作る映画人が出てきている。そういう時代になって、概括的にはなりますが、70年をざつと振り返つてみて、はたしてこれから在日を切り口にした映画がどういう風になっていくのか、私を含めてですけれども、分からない時代になってきているのが、私の考え方です。

死とは……、モーツァルトを聴けなくなることだ。

アインシュタイン（55年76歳で没）

死とは……、映画を観れなくなることだ。

呉徳洙

呉徳洙はよく映画を観ていました。

調布の映像資料室から借り出しては、夜となく昼となくビデオ映画を鑑賞しておりました。とくに日本映画全盛期の黒澤作品と小津作品は台詞を暗記しカット割りを脳に刻んでいる如くでした。

彼が旅立って四十九日が経ちました。病気療養末期には声を失い、病院のベッドで筆談をしていた彼は“不条理ながら……、面白くも楽しい人生だった！”と記しています。

皆様は、彼の言う楽しい人生を物心両面で支え、彩って下さいました。そしてこの度の葬儀に際し、温かい弔辞・献花・弔電など、ご丁寧なるご芳志を賜りました。深くふかく感謝しております。

まことにありがとうございました。

二〇一六年六月二日

喪主 清水千恵子

呉監督のお連れ合い清水千恵子さんの関係者へのお礼のお手紙

スドク映画監督 呉徳洙さん  
2015年12月13日死去、74歳

日本国籍がないので、選挙には行かなかった。だが、人間の平等という戦後民主主義の価値を信じた、昭和の男だった。朝鮮半島の南北の政權とは一定の距離を置き、植民地支配の結果、日本に残った在日朝鮮人が直面した差別とその不条理に、徹底して異議を申し立てた。映画屋として学んだ全てを懸け、近代日本のもつ一つの顔に迫り続けた。

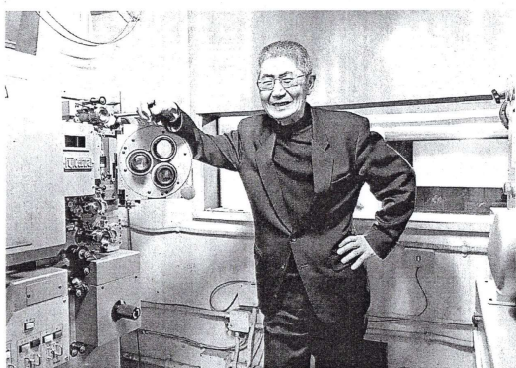
在日を切り口に『日本の国のかたちを解剖、表現してみたい。私の進もうとしている大方針だ』と、2015年2月のインタビューで宣言したが、遺言になった。仕事師だった。綿密な事前取材と、丁寧で柔らかな頭音の語り口が印象深い。頭の整理が必要になると夜中でも起き、熱心にメモを

### 在日切り口 人間の平等を撮影

残した。腸気な親分肌で、頼れる存在だったが、仕事となると、後進に無理難題を命じたことあった。  
スポーツ刈りに大きめの眼鏡がトレードマーク。携帯電話は持たず、電子メールやデジタルカメラも使わなかった。だが、季節の折々、そして思いがほぼほする時には、手紙が届いた。万年筆の文字は線が太かった。

1941年、秋田の比較的裕福な在日韓国人の家に生まれた。早大を出て、故大島渚監督の助監督を経て東映に入社、テレビ番組制作に携わる。激しい組合運動の未79年退社。企画会社を設立し、社会のドキュメンタリーを撮っていた。約30年のつきあいだったが、通名が「清水」とは、通夜まで知らなかった。在日1世の父親が「天親分なら清水次郎長」と採用したらしい。

チェーホフの小説「三人姉妹」の一節がとも気に入っていた。やがて時が来れば、どうしてこんな事があるのか、何のためにこんな苦しみがあるのか、みんな分かるような気がするわ」（共同通信 西野秀）



2015年2月、撮影室で笑顔の呉徳洙さん。1997年に発表した記録映画「戦後在日五〇年史」は、約30万人が見たという。80年代の在日韓国・朝鮮人の指紋押す拒否運動も映像に残した。『東京調布市季刊』はめるはうす提供、北村健男氏撮影）

## 「在日」を生きるとは — 呉徳洙

今、この国には在日韓国・朝鮮人に対するヘイトスピーチなる狭隘なナショナリズムが跋扈している。数年後にはこの国で、民族融和を至上価値とするオリンピックゲームが開催されるというのだ。まったくこまったものだ。その主たる原因は「在日」と呼ばれる人々に対する無知の所産としか言いようがない。この国の歴史教育、社会教育を問わずにはいられない。

この国には「在日」と呼ばれる朝鮮半島にルーツを持つ人たちが住んでいる。全国どこにでもいる。その数は100万人とも200万人ともいわれる。もちろん国籍の数ではない。なんせ「在日」には100年以上の歴史があるのだ。その実数をつかむのはなかなか難しい。

「在日」がこの日本にいるのはみんな知っている。しかし、なぜいるのか？と問われれば答えられる人はそう多くはない。

70年前までは朝鮮は日本国だったのだ。それは1910年の「韓国併合」にはじまる植民地支配の結果だった。当時の朝鮮人や日本人たちは、半島と列島に横たわる玄界灘を関釜連絡船で行き来していた。当然、さまざまな交流、交易、人間ドラマがあったであろう。その長い歴史のひとつひとつの事実を重層的、かつ多面的にとらえることなしには真の理解は得られまい。

敗戦時、日本には200数十万人もの朝鮮人がいた。日本の敗戦は朝鮮の解放であった。朝鮮人は祖国を目指した。内的、外的事情で帰りそびれた人々はこの地で生きつづけた。いつしか、この人たちは「在日」と呼ばれるようになった。

戦後70年。今や人々は海峡の上を飛び交っている。隔世の感がある。半島は近くなった。しかし、「在日」の世代交代がすすみ、その分「祖国」は遠くなってしまった。

現在、「在日」は「拉致」と「ヘイトスピーチ」に挟撃されている。「在日」にとってこの日本を生きることは相変わらず厳しい。  
(ヒューマン・コミュニティ-映画祭2015より)

### 作品歴

- 1976年『熱と光をこの子らに』
- 1983年『車イスの道』
- 1984年『指紋押捺拒否』
- 1985年『いま、学校給食が危ない』
- 1986年『ナウ！ウーマン  
—女性が社会を変える時』
- 1987年『指紋押捺拒否パート2』
- 1988年『まさあきの詩』
- 1989年『祭祀（チェサ）』
- 1990年『炭鉱（やま）の男たちは今』
- 1997年『戦後在日五〇年史 在日』
- 2003年『時代（とき）』（劇映画）

### 呉徳洙 監督のあゆみ

- 1941年 秋田県鹿角市に生まれる。
- 1965年 早稲田大学文学部演劇科卒業。
- 1966年 大島渚監督の助監督となる。
- 1968年 東映東京制作所に入所。数多くのテレビ番組に携わる。主な番組に『キイハンター』『プレイガール』『柔道一直線』。
- 1979年 労働組合闘争の解決をきっかけに東映を退社。  
映像プロダクション「OH企画」を設立。  
在日の仲間とともに、雑誌『季刊ちゃんそり』を発行（1979-1985）。
- 1984年 指紋押捺制度に対する運動を描いた『指紋押捺拒否』を発表。
- 1997年 戦後50年のひとつの節目として制作した『戦後在日五〇年史 在日』を発表。

# 武蔵国高麗郡千三百年

姜在彦

『続日本紀』靈龜二年（西暦七一六年）五月一六日のくだりに、次のような記述がある。

「五月十六日 駿河（するが）・甲斐（かい）・上総（かずさ）・下総（しもふさ）・常陸（ひたち）・下野（しもつけ）の七カ国にいる高麗人千七百九十五人を武蔵（むさし）国に移住させ、初めて高麗郡を置いた」。

ここでいう高麗人とは、高句麗人のことである。

朝鮮史では、高句麗・百済・新羅の三国が鼎立していた時代、新羅と唐との連合による挟み撃ちによって、六六〇年には百済が、六六八年には高句麗が滅亡するという大激動が起っていた。この激動期に多くの百済や高句麗の人々が亡命民として日本に流れ込んできた。その中で、日

本の東国各地に散在していた高句麗人を武蔵国に集めて、初めて高麗郡を設置したのが西暦七一六年、今から丁度一三〇〇年前である。

八世紀の日本の律令制度のもとで地方行政は、国（こく）・郡（ぐん）・郷（こう）の三段階になっていたため、武蔵国には国司（こくし）、高麗郡には郡司（ぐんじ）、高麗郷には郷長（こうちやう）がおかれていた。では、高麗郡は武蔵国のどのあたりにあったのだろうか。埼玉県入間郡日高町（現在の日高市新堀（にほり））には、高麗郡司であった高麗王若光を祀る高麗神社があり、その菩提寺である高麗山勝楽寺がある。

若光（じやくこう）については、やはり『続日本紀』大宝三年

（七〇三年）四月四日のくだりに、次のような記事がみえる。

「四月四日 従五位下の高麗（こま）の若光に王（こにきし）という姓を賜った」。

従って、高麗王というのは「国王」の王ではなく、「こにきし」という姓のことである。若光は晩年、立派な白鬚（しらひげ）を是（ぜ）はやした高德の人であったらしく、別名白鬚明神様として民衆の信仰を集めている。

では若光は高句麗から何時、何のために日本に来たのだろうか。これは大きな謎であるが、それを推定しうるヒントはある。

『日本書紀』天智天皇



高麗神社社殿入口の神門にかかる額

五年（六六六年）十月の記事に、高句麗の使臣乙相奄那（おつそ）うあんす）が訪日したとき、その副使として達相遁（たつそ）うどん）、玄武若光（げんむじやく）こう）が随行している。この玄武若光がそのまま日本に居残り



高麗駅前にそびえ立つチャンスン

たのではないだろうか。先にも述べたように、六六八年には高句麗が滅亡しているが、彼が来日したのは六六六年である。

この使節の来日の目的は、恐らく、日本が新羅の背後から圧力をかけて、高句麗への侵攻を牽制してくれることを要請するためであったのではないだろうか。日本は当時、百済にとっても、高句麗にとっても、新羅に勝る友好国であった。ところが、百済が六六〇年に滅んだ後、日本は六六三年に百済の復活を救済するため、二万七千名の大軍

今はその沿線風景も様変わりしていると思うが、当時高麗駅のプラットホームには、「天下大將軍」、「地下女將軍」という二つの標木が立ててあったのが強く印象に残っている。朝鮮の農村では昔、村の入り口に魔除けのために、このような標木を立てたものである。駅から高麗郷までは徒歩五〇分ほどのコースだったが、近くを流れる高麗川が大きく湾曲していて、その形が

巾着に似ていることから巾着田（きんちやくだ）と呼ばれる田園風景を眺めながら歩いたものだった。

この高麗郡という地名は、日清戦争後の一八九六年（明治二十九年）に入間郡に合併されるまで続いていたという。八世紀の日本において、政治および文化の中心は、畿内四万国（大和国・山背（やましる）国・河内（かわち）国・摂津（せつ）国）である。ちなみに、「畿」とは「みやこ」のこと、「畿内（きない）」とは、都（みやこ）を中心とした天皇直轄地のことである。武蔵国は中央から遠く離れた未開の辺境であった。ここに高句麗からの亡命民たちが開発の鋤を入れ、新しい文明の種を移植したのである。

ついにながら、一六一六年に、李参平（日本名 金ガ江三兵衛）をリーダーとする朝鮮人

を派遣したが、白村江（はくすきのえ）の戦いで唐の水軍に大敗し、日本に引き揚げたばかりであった。新羅に背後から圧力をかけるほどの余力は、日本には既になかったはずである。

私は一九五三年からほぼ三年間、西武池袋線沿いの江古田で下宿していたことがある。この西武池袋線に乗れば、所沢駅を経て飯能駅に至るが、当時はこの飯能駅を越えて一つ目が高麗（こま）駅であった。そこから二回ほど友人たちと高麗郷までピクニックしたことがある。

陶工集団が佐賀県有田の泉山（いずみやま）で白磁産を産見し、日本で初めて磁器生産を始めてから四〇〇年になる。これは、豊臣秀吉が朝鮮を侵略したとき、これに加担して出兵した鍋島藩の藩祖鍋島直茂が、多くの朝鮮人陶工を日本に連行したことに端を発する。この有田焼は伊万里港から、日本国内はもちろん、オランダ東インド会社の船によってヨーロッパにまで輸出されたので、港の名をとって伊万里焼の別名もある。



《色絵花鳥文皿》伊万里 江戸時代（17世紀末～18世紀初）戸栗美術館所蔵

# 歴史に刻む日本とコリア (12)

## 勝麟太郎海舟の三国同盟論

仲尾 宏



勝麟太郎海舟

幕末の日本と朝鮮半島、あるいは中国との関連を考える思想のなかで、特異な位置にあるのが勝麟太郎海舟（1823〜1898）である。微禄の旗本の家生まれ、十六歳で家督を継いだ。それまでに或る縁で、二代將軍家慶の五男の傍に遊び相手として登用された。しかし実家の貧乏暮らしは変わらず、麟太郎が継いだ家督と言っても小普請組の四十俵という小身であった。以後、彼はひたすら剣術と蘭学の修行に励んだ。はじめて蘭書を読みはじめたのは二三歳のころという。その上達は目ざましく二八歳のときには蘭学の塾を開くまでになっていた。

やがて三一歳の時、すなわち1853（嘉永6）年、アメリカのペリー提督が四隻の軍艦で来航し、日本との外交・通商を強烈に要求した。これにより「癸丑（きちゅう）以来の大政争」が日本全土で始まる。このあと直ぐに蘭学の素養を認められて、幕府直命で蕃書翻訳勤務を命じられ、また長崎で海軍伝習を命じられた。1859（安政6）年には軍艦教授方となり、翌年には咸臨丸で渡米の機会を得る。そのころ京都近辺では尊皇攘夷運動が激発しはじめ、安政の大獄、そして公武合体運動の台頭など政治過程は曲折するが、幕臣であった彼はその渦に直接まきこまれることはなく、その一方で政局の激動の結果、十四代將軍家茂の西下に随行、そのころには安房守となつて閣僚級の待遇をうけるに至っている。また軍艦奉行に任じられ、難局を幕府サイドから乗り切るための方策に腐心する立場となつた。それが家茂將軍に提案して認められたことの最大の成果が神戸に

海軍操練所を開設することであった。その趣旨は次の通りである。「宣く其規模を大にし、海軍を皇張し、営所を兵庫、対馬に設け、其一を朝鮮に置き、終に支那に及ぼし、三国合従連衡して、西洋諸国に抗すべしと。」【小野浜海軍営所碑。この碑文は神戸市に現存している。】1864（元治元）年のことである。彼の海軍増強論はその時にはじまつたのではない。ペリー来航の時に閣僚に提出した「海防意見書」にいう。「堅船出来仕り候へば御法定められ、先ず清国、露西亞の島境並びに朝鮮へ此方より雑穀雜貨を以て、有益の品々と交易盛に致し候儀に御座候」。また1862（文久2）年には対馬上地（幕府直轄地）論を唱え、その時、対馬は「良港を開き、貿易地となる時は、朝鮮支那と往来開らけ、かつ海軍盛大に到るの端ならんか」という。以上の発言にみるように、勝の海軍論は軍事が主眼ではなく、交易を主眼とした東洋諸国の連



海軍操練所跡碑

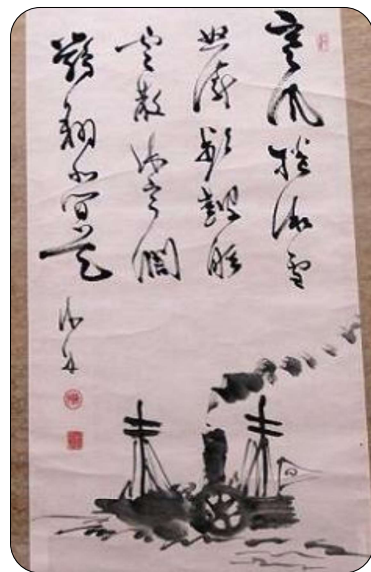
帯論であった。当時としては目を見張るような主張であっただろう。しかしその意見を多くの人々はどれほど理解できたのだろうか。神戸操練所の担い手を募集するにあたっても身分や藩の垣根をこえて有才を募集することとし、その塾長には土佐脱藩の坂本龍馬を抜擢して据えた。だが勝の目論見は間もなく消える。幕府内部の政争の結果、彼

は軍艦奉行並を罷免され、神戸操練所もまた閉鎖されてしまった。だが、彼は真剣であった。他の文章でも操練所開設などを建議した中で次のように述べている。

「海軍演習のため、支那、朝鮮地方に航せんとす。故に先ず神戸の地に海軍局を設け、此輩を集合して船舶の实地運転に従事せしめ、遠く上海、天津、朝鮮地方に航し、其地理を目撃し、人事を洞察せしめんとす。」

その頃、対馬藩では朝鮮貿易が長く不振で藩の財政は破局的な様相を呈していた。というのは、十八世紀以降、朝鮮通信使を迎えるにあつての諸費用の弁済名目で毎回多額の援助金を幕府から得ていたが、通信使が1811(文化8)年以後、さまざまな事情で実現に至っていないため、対馬藩

はあの手、この手で援助金を獲得することに奔走していた。その中心にいたのが大島友之允



勝海舟書「咸臨丸」が描かれている。「海上自衛隊第1術科学校」HPより

という重臣であった。彼はある縁で長州の桂小五郎と昵懇となり、桂の人脈で勝安房守のところにやってきて、窮状を訴えて幕府中枢への取りなしを頼み込んだ。それに対して勝は次のように答えたのである。

「今朝桂小五郎、対馬藩大島友之允同道にて来たる。朝鮮の議を論ず。我が策は、当今亜細亜州中、欧巴に對抗する者なし。これみな規模狭小、彼が遠大の策に及ばざるがゆえなり。今我が邦より艦船を出だし、弘く亜細亜各国の主に説き、横縦連合、共に海軍を盛大し、有無を通じ、學術を研究せずんば彼が蹂躪を遁るべからず。先ず最初朝鮮よりこれを説き、後日支那に及ば

んとす。同人悉く同意。」以上の文は勝の日記から引用したもので多少の誇張や気負いが混在しているとしてみても、今まであげた彼の他の言説と矛盾はしていない。つまり勝麟太郎海舟の朝鮮論とはどこまでも平和・交易論であることは明らかだろう。だが桂や大島にとつては、どこまで勝の議論が心に通じたかは、はなはだ心もとない。というのは当時はずでに尊皇攘夷論の全盛期であり、そのおおくは先号で紹介した吉田松陰のような対外侵略思想の影響を受けていたと見られるからだ。つまり、欧米諸国からの「開国」要求は圧倒的な軍事、産業、技術を背景とした要求であり、一歩間違え



大島友之允

ば、アヘン戦争によって香港を奪取され、不平等な条約を結ばされた清朝のような植民地への転落の危機が待ち受けている、と認識されたからである。それを防ぐ策略と見識がどうやら当時の徳川政権にはない。そこで尊皇攘夷論を背景とし、対抗策として朝鮮や中国への侵略を呼号する輩が出始めた。そのことは次回で触れるが、この時点での勝麟太郎海舟の考えていたことは、日本は東アジアの中の日本であり、欧米列強の砲艦外交や辺境の島々の占拠に対してあくまで平和と交易によって合従連衡する立場を貫くことであつた、とみてよいだろう。そして大島の手により幕閣への宗対馬守名義の建白書がだされた。

時宣に寄、兵威を以服可為致の処・・・(以下略)とある。この時、大島が「派兵論」を持ち出して朝鮮出兵の可能性を申し立てたため、幕閣は対馬に対する援助金の名目が立ったとして、米三万石を支給する。②「器械、軍艦貸渡し」は勝の渡海計画に関してその意義は認めつつも、艦船の不足を来しているもので、追って相達する、というものであつた。つまり対馬藩は援助金獲得のために「征韓論」をもちだしたのである。そのことは勝の本意ではなかつた筈だ。以上は主として勝の全集所載の「海舟日記」などから抜き書きしたものであるが、大島たちが書き記した文言の中には「征韓」の言葉がある場合には

それに答える「達書」は①「外夷朝鮮国へ渡来、屋宇を設候聞も有之候処、同国の儀は年来の信義も有之、為援助出張、外夷根拠の策を破、

その通りに記しているが、勝海舟自身の言葉としては「征韓」という言葉は一度も使っていない。もう一つ言えば、「建白書」の中の「年来の信義」という文言である。これは幕閣としては通信使の往来が間遠になつているとはいえ、徳川家康以来の日朝関係は「年来の信義」によって成り立っている、ということの確認である。だから「外夷」の侵攻にたいしては「援助出張」もあり得る、というわけである。現実はこの文久年間に「外夷」が朝鮮半島に出没の形跡は無きにしもあらずとはいえ、その侵攻は現実ではなかった。ともかく「征韓」を持ち出せば幕府の援助金支給を促進させうるだろう、との対馬藩の目論見が先行していたことだけはたしかだろう。いずれにしても、対馬藩は長年、朝鮮外交事務を司りながら、この時期にはきわめて危うい議論に乗り掛かつていたのである。(本回と次回については拙著『朝鮮通信使の軌跡・増補・前近代の日本と朝鮮』明石書店刊を参照されたい。)

イベント案内

第28回 在日講座

- 1部 講演：仲尾 宏  
東京裁判(極東国際軍事裁判)での朝鮮問題
- 2部 対談：仲尾 宏 薛 幸 夫  
日時 2016年7月2日(土) 13時半~16時半  
場所 とりぎん文化会館第4会議(鳥取市尚徳町101-5)  
主催 在日本大韓国民団鳥取県地方本部  
共催 のりこえねつと鳥取 後援 在外同胞財団

# 銀の空のかなたから ②

大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員

宮下 良子

## 人を生かすもの—映画『国際市場で逢いましょう』から—

### 1. はじめに

本映画は、ユン・ジェギョン監督によって、二〇一四年に韓国で製作された。昨年、日本でも公開され、【韓国版「三丁目の夕日」】という触れ込みがあり、映画の舞台が釜山であることから個人的に興味を抱いていた。それは、二〇一一年から三年間、あるプロジェクトの個人研究として、終戦前後の山口県下関市と釜山の境域をまたがるコリアンの移動に焦点を当てた研究、調査をしていたことで、特に釜山の場所への親和性とそこで出会った人々への懐かしさが私の心にあつたからだ。しか

し、量的な聞き取り調査を目指していたこともあり、相手の方々に会って話を伺うことを中心としていたので、移動に伴い、街の景観を見ることはあつても釜山の名所を見る機会がほとんどなかった。一度、地元の大学の調査協力者に連れられて、観



映画の日本向けポスター

光特区として開発され、高級ホテルがひしめく海雲台（ヘウンデ）のカフェから海を眺めたことはあるが、できれば市井の人々の暮らしの一端に触れたいと思ひ、調査の最終年に旅のガイドブックにもあるチャガルチ市場を巡検した。宿泊はいつも交通の便が良い釜山駅そばのホテルだったので、食事はその周辺の店や草梁市場の中の食堂を利用してはいたが、チャガルチ市場に足を踏み入れた途端、店頭に並ぶ魚介類の大きさや品揃えの多さには圧倒された。それ以上に、本映画の舞台である国際市場は、食料品以外にも多種多様な品物を売っている大規模な市

場であることを、この原稿を書くにあたり初めて知った次第である。

## 2. 『国際市場で逢いましょ』のストーリー

本作品は、激動の時代の韓国で歴史に翻弄されながらも、懸命に生きた主人公ドクスとその家族の愛情を、時にはコミカルに描いた逸作である。

一九五〇年一二月、朝鮮戦争の最中に咸鏡南道（ハムギョンナムド）興南（フナム）の埠頭で、中国軍の侵攻により民衆が我先にとアメリカ海軍の艦船に乗り込もうとする中、ドクスの父と妹のマクスンが取り残される。別れ際、父は自分の代わりに家長として家族を守ること、ドクスに託し、釜山にある父の妹の「コップンの店」で逢おうと言ひ残す。母と弟と末の妹とで身を寄せた「コップンの店」は、軍服や野戦食の缶詰などの米軍の流出品も扱い、その辺り

一帯の闇市の店は、後の「国際市場」へと発展していく。その中で、「尋ね人 父 ジンギュ妹 マクスン」という看板を首にかけて、親友のダルグと共に靴磨きをする少年ドクスの姿があった。

成人したドクスは、弟スングュがソウル大に合格したことで、家長としての責務から学費を稼ぐため、ダルグとドイツの鉱員募集に応募し、一九六四年の春にハンボルン鉱山へ入坑する。



興南（フナム）埠頭で船に乗り込もうとする家族

その街で、同じく出稼ぎに来ていた看護師のヨンジャに出会う。一九六六年一二月二日に鉱員第一陣として釜山に帰国したドクスは、家族のために家を買ひ、叔母から「コップンの店」を譲り受ける。そして、ドクスの子どもを身ごもったヨンジャと再会し、結婚することとなる。

一九七三年、ドクスは長年の夢であった船長になるために受験した海洋大学に合格するが、末の妹の結婚費用や亡くなった叔母の夫が無断で売却した「コップンの店」を買ひ戻すために大進学をあきらめ、翌年、国から功労金が支給されるベトナム戦争に参戦する。そして、一九八三年に、ドクスは朝鮮戦争で別れた離散家族を探すためのテレビ番組（1）に参加し、海外養子となってロサンゼルスにいた妹のマクスンと念願の再会を果たす。その翌年に母が亡くなるという父との約束は叶わないものと判断したドクスは、国際市

場の中でも店の立ち退きを頑なに拒んできたが、ついに店を売る決心をする。彼にとって「コップンの店」は父と自分を結ぶ最後の「よすが」であり、家長として守るべき家族の象徴だったのかもしれない。

## 3. 人を生かすもの

本作品は、朝鮮戦争、ドイツへの出稼ぎ、ベトナム戦争、家族離散など、韓国の現代史における苦渋の歴史が背景にある。

二〇一四年の『在日演劇論』で、同じ時代にベトナム戦争に参戦した親をもつ少女が描かれた『息もできない』という映画を紹介したが、あの映画の中では、戦争体験者が抱えるトラウマと精神的障害およびそれを支える家族の苦悩があった。恐らく、いかなる戦争であっても、戦場での体験は想像を超えるものがあり、その後も精神疾患に陥ることはメディアを通して周知のものである。しかし、本映画は



チャガルチ市場（筆者撮影）

そのような側面を描く手法ではなく、釜山でのガス漏れによる爆発事故やベトナム戦争時の住民によるアメリカ兵に向けた自爆テロ（？）に巻き込まれた瞬間の、ドクスによる自問自答にこそ、苦難というものを人はどのようにとらえるのかという視点が提示されているような気がした。それが意図されていると思ったのは、ドクスの意識の薄れた状況の中でつぶやいた、「ドイツでの地獄のような作業場で自分の子が働いていたら？」

ベトナムの戦場に子どもたちが出稼ぎに来たとしたら？その苦痛を味わったのが子どもたちではなく、自分たちで本当に良かった」という台詞である。例えば、戦争に参加することの是非や、経済的窮状を回避するため、国民に参戦を促した為政者の欺瞞への審議、そしてその前景にある日本による統治時代の代などという意味での歴史の検証という視点が本作品には欠如しているということはできるだろう。しかし、私自身がこれまで行ってきた聞き取り調査における戦争体験者の多くは、今日の糧を得ることに、生きることに必死であったと言っている。つまり、多くの人々にとって極限状況の中では、イデオロギーよりも空腹を満たすことが重要なのである。そして、降りかかってくる苦難に対峙するとき人に支えるものは、本作品においては、家族の存在であり、先述のドクスの台詞に見られる、子どもたちを守るといふ思いの

強さなのだ。それが苦難を乗り越えさせ、生きる上でのエネルギーとなっている。それをユン・ジェギョン監督はドクスという一人の人間に体现させているのである。

#### 4.まとめ

私が釜山で出会った人たちのほとんどは、終戦前後に日本から本国に帰還したコリアンだ。多くのコリアンが日本で生まれ育ち、言わば言葉の通じない「外国」へ着の身着のまま到着し、それからの人生は苦難の連続であったという。また、同期にコリアン男性と結婚し、釜山に渡った日本人女性で組織された「芙蓉会」の会長の話を伺い、それぞれの置かれた立場を相対化してみると、先述したように苦難を人はどのようにとらえるか、あるいは人を支える価値基準は何かということに帰着するように思う。

釜山での私の調査の期間中、協力を惜しまなかった「韓日言語奉仕会」の会長は、自身が帰還者であり、コリアンに日本語をボランティアで教えている。教育勅語をそらんじていて、何度も密航で日本に来た経験がある。すでに本国での生活が日本より長くなった今でも、韓国語よりも日本語の方が流暢である。高齢にも関わらず、今なお彼が日本語を教える動機の一つは、それに自身のアイデンティティが見出されるからではないだろうかと推測している。とはいえ、密航までして日本に戻りたかった背景には、郷愁だけではなく、本国での生きづらさも後押しをしただろう。しかし、彼にとっては日本での思い出が良きにつけ悪しきにつけ彼を生かし、支えてきたのかもしれない。

〔註〕

(1) KBS 特別放送「この人を知りませんか」の番組の実録を一部使用している。

屋嶋城は、香川県高松市の屋嶋に築かれた、古代朝鮮式山城である。『日本書紀』の天智天皇六年十一月の条に「是月、築倭國高安城 讃吉國山田郡屋嶋城 対馬國金田城」とあり、その中の「讃吉國山田郡屋嶋城」がここであることが確認されている。

## グラビア 香川県高松市

### 古代朝鮮式山城

# 屋嶋城 (やしまのき)



唐と新羅の連合軍に攻め滅ぼされた百済を再興するため日本は救援軍を朝鮮半島へ派遣するが、663年8月、白村江の戦いで両国連合軍に大敗。これを契機に、唐・新羅の侵攻に備えて対馬から太宰府周辺・瀬戸内海沿岸に朝鮮式山城がつくられ、その一つがこの屋嶋城である。



源平合戦の屋嶋古戦場が山上からみえる



唐僧の鑑真が創建したとの伝承をもつ屋嶋寺

屋嶋は南嶺の標高292m・北嶺の標高282m、山頂部は平坦で広い台地であり、両者は細い尾根で接続されている。南北嶺の山上全域が城跡とされている。山上の外周7キロメートルのほとんどが断崖で、南嶺の外周4キロメートルの断崖の切れ目に城壁が築かれている。山上からは山下の様子が明確に把握でき、懸門構造の城門の存在が判明したのは国内初のことであった。この懸門の存在により、大野城・基肄城と同様に屋嶋城の築城においても、百済人たちが関与したことが窺える。



朝鮮式山城の特徴として「懸門」(城門の入口に進入しにくい段差のある城壁を設け、普段は梯子などで出入りし、戦闘時は撤去する構造の門で、防御性能を高める構造)や諸説あるが石垣の積み方として「穴太積み」(あのうづみ)にある。

現在、城門遺構の復元と見学路などが整備され、2016年3月19日より、一般公開されている。

「懸門」をコンピューターグラフィックで再現したもの。



場所

香川県高松市屋島東町

お問い合わせ

高松市埋蔵文化財センター

(TEL:087-823-2714)

# Minority

マイノリティ女性に対する

## 複 合 差 別

(連載-その2)

### 「反ヘイト・スピーチ裁判」

もと

元 百合子 (大阪経済法科大学)

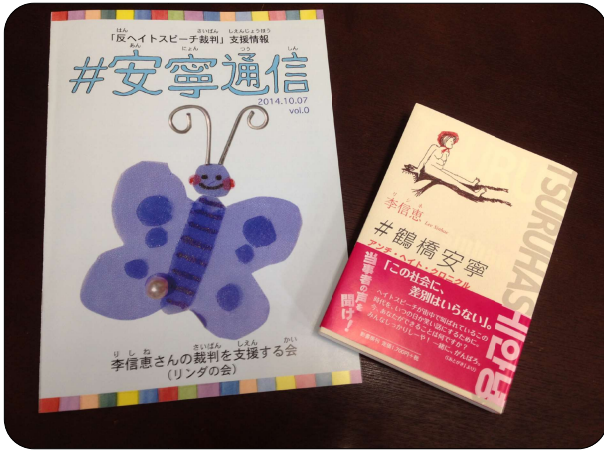
前回、マイノリティ集団に属す、あるいはそうみなされる女性（以下、マイノリティ女性）に対する複合差別とはどういうものかを簡単に述べました。その視点から見ると、在日コリアン女性の多くが、民族的差別に加えて女性差別（ジェンダー差別）が複雑に絡み合う困難な状況を生きていることが浮かび上がります。

それが、とりわけ顕著な形で現れたのが、今回ご紹介する李信恵（リ・シネ）さんのケースです。街頭やネット上で十年以上前から始まっていた在日コリアンに対するヘイト・スピーチが、数年前から全国各地で頻繁におこなわれるようになった中で、「在日特権を許さない市民の会」（在特会）などの排外主義者が、取材活動や「カウンター」と呼ばれる抗議行動に参加していたフリーライターの李さんを標的と定めて、1年以上にわたって常軌を逸した言葉の暴力を集中的に浴びせた事件です。路上

では、現場にいた警察官が何もせずにそうした不法行為を事実上黙認し、ネット上でも、氾濫する匿名の書き込みから李さんに対する侮辱や誹謗中傷を抽出・編集して再発信することを商売にしていた「保守速報」というまとめサイトが、野放し状態にありました。（注1）

李さんは当初、辛抱強く反論し、対話を試みるという対応を取りましたが、その誠意は通じず、悩んだ末に2014年8月、在特会とその元会長である桜井誠（通称）氏、「保守速報」管理人に対する損害賠償請求訴訟を大阪地裁に起こしました。今（本稿執筆中の2016年5月）もその二つの裁判が続いています。（注2）

形の上では、精神的苦痛に対する金銭的賠償を求め、傷つけられた名誉の回復をはかる裁判ですが、「他の誰にも同じ思いをさせたくない」と言う李さんが真に求めているのは、差別と憎悪の煽動者たちの責任を問う



李信恵さんの裁判を支える会（リンダの会）冊子と  
李信恵さんの著書『#鶴橋安寧』

ことによって、日本社会が放置してきた人権侵害に歯止めをかけることです。

李さんが集中攻撃的にされたのは、偶然ではありません。在日コリアンであると同時に女性であることで標的にされたのであって、そのどちらか一つが理由ではないことが明らかです。彼らが街頭とネット上で投げつけた「朝鮮人のババア」「ドブネズミ未満のブサイク」「ブス

で性格悪くて朝鮮人って」「反日記者」「もう死んでくださいよ」等、李さんのすべてを嘲り、人格と尊厳を否定する悪罵には、朝鮮民族と女性に対する蔑視・差別観が結合した強い嫌悪感・憎悪がむき出しです。日本社会の力関係において優位にあるマジョリティが、マイノリティの中の相対的弱者である女性を選び、見せしめとして血祭りあげたといえる卑劣な人権侵害です。この種のヘイト・スピーチ、とくに偏見

や差別の煽動は、日本が締結した人種差別撤廃条約と女性差別撤廃条約が禁止する行為であって、政府には防止と処罰を含む対応義務が課せられているのです。執拗に繰り返された凄まじい心理的・精神的暴力が李さんに与えた苦痛、心身へのダメージの大きさは想像に余

りあります。しかも、人権侵害の被害者にとつて、加害者に向き合って闘わなければならない裁判は、経済的・時間的負担以上、さらなる大きな精神的負担と苦痛を伴うことです。名前も顔も出さずことで新たな攻撃に身をさらし、裁判では被害を回復して味わうことが避けられません。しかし、国際人権法は李さんの味方です。すべての人、とくにマイノリティに差別を受けない権利（平等権）、尊厳を尊重されて生きる権利を保障しているのです。日本が国際社会に対して遵守を約束した人権条約を活かした判断を裁判所が下せば、李さんの苦労は報われることになるでしょう。

日本では初めて、民族差別と女性差別の複合を裁判所に認めさせる歴史的な闘いです。ネット上のヘイト・スピーチには、「在日はこの女を恥と思わないのか」というものがありました。が、在日コリアン社会だけではなく、日本人女性全体が李さんを誇りに思い、李さんが民族の誇り、女性の誇りのために引き受けた果敢な闘いを支援したいものです。

注1…その後、ヘイト・スピーチの規制を求める声の高まりや、「表現の自由」と称してヘイト・スピーチの自由を事実上、容認してきた日本政府に対する国連からの度重なる批判などへの対応策として、いわゆる「ヘイトスピーチ解消法」が成立しました。同法は、一定の抑制策を盛り込んだものの、国際基準に照らせば不十分なものですが、法規制の初めの一步として市民運動の成果でもあり、大阪市の条例とともに、今後の運用が注目されます。同時に、人種（民族）差別禁止法の制定も急がれるところです。

注2…詳しくは、「李信恵さんの裁判を支える会」のホームページを参照のこと。

## 在日3世の視点

# ロシア・サハリンで 韓人一世たちに 会ったときのこと

### “自己都合”のみの

### 日韓両政府合意



## 金 朋 央

(コリアNGOセンター東京事務局長)

政党、そして在日同胞社会からもそのような声が目立ったという事実だ。まさに1965年の日韓条約締結時の問題が60年後に繰り返されるとは。

この日韓合意の問題性については、詳細に説明された論稿、書籍

が既に複数出ている。(たとえば

ブックレット『「慰安婦」問題・日

韓「合意」を考える』前田朗編著、

彩流社、2016年)

### サハリンで出会った

### 韓人一世たち

2015年も終わろうとする12月28日、突如日韓外相会談がソウルで開かれ、日本軍「慰安婦」問題について両国政府が「解決策」を合意したというニュースが流れた。その3日前に、

急遽外相会談が開かれるというニュースを見て、私は正直期待よりも不安が大きかった。残念ながらその感覚は的を射てしまっていた。さらに脱力させたのは、この被害者無視の酷い合意を「歓迎する」とした日本の全

2年ほど前から、樺太帰還在

日韓国人会の李義八(イ・フィ

パル)会長のご自宅に伺い、一

緒に食事をしながら昔のお話を

聞いたりしている。既に三つの

戦後補償関連裁判を闘った李義

八さんは今年93歳。現在、独り

で家庭菜園を続けられるなどお

元気な姿を見せてくれる。上記

の日韓政府談合で脱力感に陥りさまざまな考えが頭の中を巡る中で、李義八さんから、今聞けることをできるだけたくさん聞いて記憶していきたいとふと思った。自分こそができることを再確認でき、自己満足であることはわかっているが、少しほっとした自分がいた。

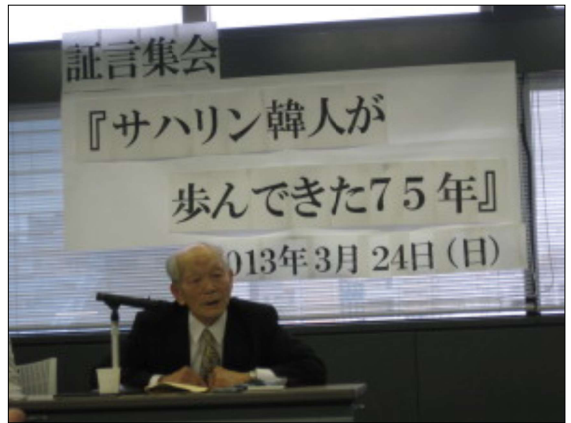
そこからさらに2008年7月末、ロシア・サハリン州のウグレゴルスク、シヤフチヨルスクで出会った韓人一世たちのことがふと思い返された。私が、自分のことだけではなく、社会が抱える問題について知り行動しなければならぬと、当時は漠然とだがそう思うようになってきたきっかけは、サハリン残留韓人問題について書かれた一冊の親書を読んだことだった。そして実際にサハリンを初めて訪れたのが08年。その時に見聞きした文章をを残しておこうと書いた文章がある。今以上に拙い文章で、今の自分の考えとはちよっと異なる内容もあるが、今

## 在日3世の視点

ウグレゴルスク、シャフチョ  
ルスク訪問紀行文(2008年)

韓国のKIN(地球村同胞連  
帯)主催の第5回在外同胞NG  
O大会2日目の朝。この日から  
次の日にかけて、三班に分かれ  
て、韓人一世・二世らの聞き取  
り調査を行なった。私が向かつ  
たのは、ウグレゴルスク。ユジ  
ノサハリンスクから北北西へ3

回はそれを紹介したいと思った。  
文字数の関係からある程度削除  
し、また説明用に若干加筆した。



李義八さん(歴史と教育の交流サイト)HPより

7時間以上過ぎていた。

副会長の朴イルソプ先  
生。この先生はとにかく  
元気で、車中はバス  
ガイドしながら韓国語  
でいろんな案内をして  
くださり、かと思うと  
ロシア語で運転手にい  
ろいろ注文付けたりと  
いう感じだった。

人ユジノサハリンスク市老人会・

60kmほど離れている、  
西海岸に位置する街である。  
石炭の街でウグレゴルスク  
周辺には日本統治時代には  
16もの炭鉱があったという。  
今回の現場訪問ではたくさ  
んの炭鉱跡を廻った。

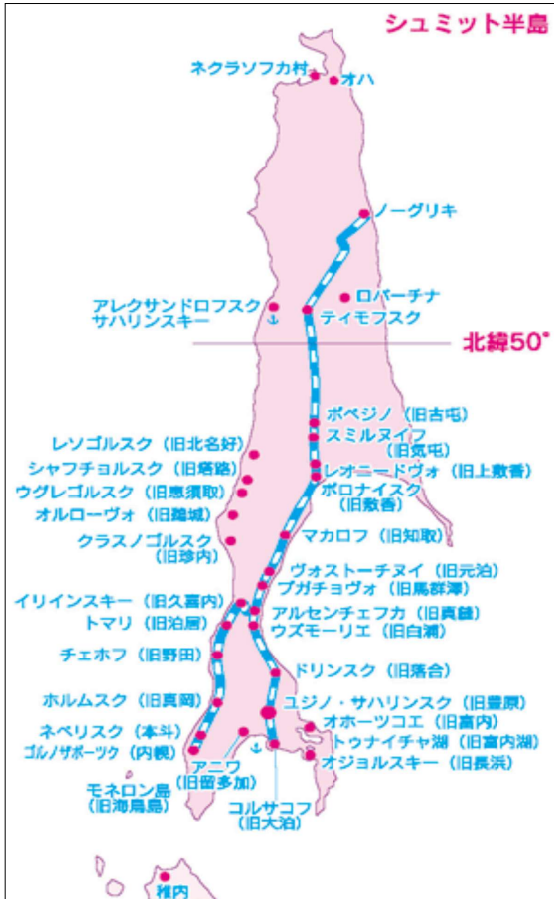
午前7時過ぎ、チャーター  
されたマイクロバスで出発  
した。このバスは韓人の篤  
志家が韓人の団体のために  
寄付してくれたものだとい  
う。この班の全行程を案内  
してくださったのは社団法

かという質問に対して「家族を

ウグレゴルスクの韓人たちの団  
体事務所を訪問し、一回目の聞  
き取り調査を行なった。事務所  
には4人のハルモニがいらっしやっ  
た。両親についてサハリンに渡っ  
てきた方たちで、いっどういう  
経緯でサハリンに移ったのか、  
家族がいつどこに行ったのか、  
サハリンでの生活はどうだった  
のか等について切々と語られた。  
「ここで仕事するには炭鉱しか  
ない」「峠(トウナイ)は重(オモ  
シ)い」(生きていくので大変)など  
の言葉を聞いた。永住帰国をしたい

話を伺っていると、突然一人

置いて帰れるわけがない」とい  
う言葉は、サハリン韓人の永住  
帰国問題の本質を突く言葉だっ  
た。また日本名を名乗らされた  
つらさについても言及があった。  
そういった話を聞いてみると、  
私は在日同胞のハルモニ、ハラ  
ボジたちの話を聞いていた時と  
重なった。簡単に同じというべ  
きではないが、日本の植民地支  
配によって国を離れざるを得な  
かった点ではまさに共通、話が  
似ているのは当然なのかもしれ  
ない。



サハリン地図(北海道日本ロシア協会より)

のハルモニが私に対して質問したいことがあると言いだめた。そして日本の支配によっていかに自分の家族が苦勞を強いられ、そして引き裂かれ、戦後は放置されたかについてとうとうと語られた。そして「この日本が犯した歴史をあなたは思うのか？」と詰問した。私が日本人だとそのハルモニは勘違いしてそう聞いてきたのである。この班の参加者のうち在日同胞は私だけで、他は韓国からの参加者と地元サハリンの韓人たちだった。私はその返答をしばし躊躇した。何と答えるべきなのか？

結局は「私は在日同胞三世で、ハルモニたちと同じで、私の祖父母が日本に移り住んで・・・」と答えたが、しどろもどろだった。ハルモニは「あつそう？」とちよつと拍子抜けした感じで、その後とくに話すこともなくその場はそれで終わった。その回答は間違っていたとは思わないが、ただ一方で、もしも私が日本人の同世代の友人と訪れていたら、あるいは私が日本人の青年だったら何

と答えていたのだろうかという問いは今も持っている。「ごめんなさい」と謝ることは決してなかったらう。サハリン韓人の問題に対してどう理解している、自分たちは何をすべきと考えているのか、ある程度理論的・理性的に答えることはできるが、それがはたしてハルモニにとつてどんな意味を持つ回答になるのだろうか？ 当事者と面する時、その問いの重さは一挙に深まる。

この日は、その後大平炭鉱の坑道跡と王子製糸工場跡を訪れた。翌31日、天候は晴れ。サハリンはやはり涼しい、というか朝は肌寒いほどだ。次の訪問先となるシヤフチョルスクに移動した。この日は地元で生活する金ウォンジン先生が案内してくれた。まず訪れたのは、三菱炭鉱跡。金先生いわく、サハリンは石炭でできている島と言えらくらいで、産業の中心は石炭、日本統治下の時期に多くの炭鉱がつくられたが、この地域には、三菱炭鉱、鐘紡炭鉱、白鳥沢炭鉱の三つの大きな炭鉱があったと言う。炭鉱で働く労働者が集まり、当然そこには家族が住み、学校ができ、病院ができる。一つの町ができて上がる。三菱炭

翌31日、天候は晴れ。サハリ



王子製紙工場跡（忘れられた「ニッポン」を訪ねる日々）HPより

採掘してはいないが、残って住み続ける人たちがいる。ま

案内してもらった。前日の大平炭鉱と同じく、坑道や付随する建物の残骸がひっそりと佇んでいる。幼少期に日本の敗戦／朝鮮の解放をむかえた金先生はその歴史をこと具に説明してくれた。それと共に金先生の個人史も語ってくれた。一番印象的だったのは、2ヶ月後の10月に実施される永住帰国事業で自分が韓国に移ることを語った時の満面の笑みと弾んだ声だった。「帰る日までの日数を指折り数えて待っている」との言葉を聞いた時に、突然胸がいつぱいになった。大変喜ぶべき事柄だと思つたと同時に、しかし子どもや孫ら家族と一緒に永住帰国できない今の永住帰国制度の弊害を金先生もまた受けていることを考えると、私たちは純粹に喜ぶだけではないという厳しい戒めの気持ちもまた湧いてしまう。でもとにかく、金先生の笑顔が語ることは真正なものであることは間違いない。

その後、鐘紡炭鉱跡、白鳥沢炭鉱跡を車で通りながら、戦前に炭鉱近くの病院でガス爆発が



倒されたままの慰霊碑（筆者が2008年に撮影）

起こり犠牲になった人たちの慰霊碑を訪れた。その時の事故で日本人と朝鮮人合わせて70名ほどが犠牲になったという。現場を訪れると石碑は倒れたままになって、人の手入れは全くなく周囲は草が茂る一方であった。金先生の話によると、日本からもこの碑を訪れに来るらしく、その時の案内を金先生ら韓人たちが担ったりするそうだ。この石碑をきちんと起こして立てようという意見もあると聞いたが、

結局そのまま放置されていることに、歴史の風化を感じる思いがした。

その後、シャフチョルスク空港を訪れた後、ウグレゴルスク経由でユジノサハリンスクに戻った。ウグレゴルスクの食堂での夕食時に、地元に住む韓人一世の方が他の人と話しているときに「私は永住帰国せず、死ぬまでずっとロシアにとどまるつもりだ」とおっしゃっていたのが耳に入った。この言葉もまた、

最も印象に残った言葉の一つだ。

今回のフィールドワークを通じて、本当に多くのことを感じ、考えた。個人的な話となるが、サハリン残留韓人問題は、私が大学二年生の時に知り、その不当極まる悲劇に強い衝撃を受け、私が在日コリアンという出自や民族について本気で考え始めるようになった大きな機会の一つ

であった。だからサハリンは私にとつて強い思い入れのある地であり、韓人たちと出会うことにとつてもなく大きな期待があった。今回の現場訪問はその期待に十分応えるものであった。

実際にサハリン韓人の方と出会い話を交わす時、在日同胞である私は、やはりどうしても在日同胞社会の歴史や現状と比べてしまう。行く前は、サハリンの韓人社会は自分が見聞きしたことのない全く異なる社会をイメージしていたが、今回の現場訪問では在日同胞社会との共通性を感じる機会が少なくなかった。戦前に移り住んだ一世・二世たちの多大なる苦労話は、まさに在日同胞のハラボジ、ハルモニたちの話と通じるものであった。また今回の在外同胞NGO大会を通じて、その後の三世世代以降が現在、自己の民族性を知り育むための民族教育がサハリン韓人社会にとつて死活的な課題になっていることだった。自らのルーツを求めて韓国に留学に行く大学生たちがいることもまさしく在日同胞と同じであ

る。戦後の国家体制や社会制度は日本とロシアで大きく異なるが、戦前に日本統治下の異国に移り住み、戦後基本的に少数民族政策が不在であった国に住み続けた時点で在日同胞社会とサハリン同胞社会は共通しており、したがって抱える課題が非常に似通っていることも納得がいく。

ということとは、在日同胞が培ってきた教訓や反省は、サハリン同胞社会にも活かすことができはらずであり、逆に在日同胞社会はサハリン同胞社会から多くを学ぶことができるはずだ。そして、それは本国社会にも多くの教訓と反省をもたらすことができるだろう。戦後半世紀以上も過ぎてしまったが、在日同胞社会もサハリン同胞社会も三世世代以降がこれからもその社会で続いていく。この両社会の青年世代が直接出会い双方社会を学びあう経験をつくる、そのための舞台を作りたいという新しい夢を得たことが、今回のサハリン訪問の最大の成果の一つである。（2008年、記）

# 韓国の十層石塔

姜 健 栄 (KMAJ 関西)

## 敬天寺十層石塔と

### 圓覚寺十層石塔

の圓覚寺十層石塔についても解説を行うことにした。

#### 1. 敬天寺十層石塔

##### (1) 石塔の元寺

数度にわたり、私は韓国国立中央博物館を訪れ、館内一階奥に高く聳え立つ敬天寺十層石塔を覗いているが、その時はこの石塔の由来を知らなかった。しかし、ハワイ移民史を研究する中で、1903年開城よりハワイへ移民してきた方の中にこの十層石塔があった敬天寺址近隣村の出身者がいる事を知り、この傑出した石塔について調査する気になった。敬天寺十層石塔ほど、仏教石造物の中で例を見ないほど壮麗さと崇高さを感じさせる石塔は他にない。また、パゴダ公園にあるこの石塔と類似

現在、国立中央博物館にある1348年高麗時代の10段石塔はハワイ移民のモーゼス・リー(Moses Lee)家族の故郷村に近い開城の西南に位置する開豊郡光徳面中延里の扶蘇山麓の敬天寺址にあったものである。国宝第86号、高さ十三・五mの大石製のこの石塔は韓国仏教美術の傑作に挙げられている。高麗史によると、高麗時代

(918~1392)の第16代の王様、睿宗(在位1105~1122)が先王稷宗(在位1095~1105)を偲ぶ祭事を敬天寺で行って以来、高麗王室の追慕祭が引き続き行われたという。敬天寺は高麗王室と密接な関係にある王室寺であったと記されている。塔の第一層の塔身に書かれた記録によると、1348年3月に姜融と高竜鳳

す広がり、すべての衆生が悟りを得ることを願う」と書かれている。つまり、敬天寺十層石塔に刻まれた仏様と仏教の法令を高麗の地で再現することによって、国と衆生が極楽浄土に住むことを祈念する目的でこの塔を建てたことがわかる。

という人が布施をして、現在北朝鮮にある開城郊外開豊郡の扶蘇山麓の敬天寺に高麗忠穆王4年この十層塔を建てている。姜融は自分の娘を中国の元の大臣と結婚させていたこともあって彼の援助を受けて高い地位にのぼり、元から職人を選んでこの石塔を立てたという。元の職人が建てたこの石塔は、ラマ塔の特徴だけでなく、高麗ならではの色彩が加わっている。

敬天寺十層石塔は各層が分離でき、また基壇と一層から三層までは縦の方に分離できる。分離された内側にはそれぞれ「二層東南」などの字が書かれているが塔を建てた際、各材料がどの部分のどの位置に使われるかを予め決めていたようである。

一層の塔身には塔を建てた目的として、「元の皇室と高麗王室の安寧を祈願し、風と雨に恵まれ、国泰民安と仏法がますます

これを見ても製作当時、非常に緻密な設計図に従って製作されたことが推察される。一般的な塔の場合、基壇と塔身、上輪の3つの部分に分けられるが、この塔は形態的にみて4つの部分に分けられる。高さが低い三重の基壇と、基壇と同じ平面の形



敬天寺十層石塔—韓国国立中央博物館

をした三層の塔身、そして四角の七層の塔身と上輪がある。特に平面の構造が急に小さくなる三層と四層の間にある屋根は、他の屋根とは違って二重の構造で重層屋根になっている。実際この部分を頂点にして塔を分けると、塔の高さはほぼ真ん中の地点に該当する。朝鮮で塔の材料として花崗岩でない大理石を使うことはほとんどなかった。材質が柔らかな大理石に以前には試みられなかった精巧な彫刻の技が施されている。塔に刻ま

れた彫刻は大きく分けて亜字型を成す三層と正方形を成している四層から十層までの二重の構造になっている。一層から三層までは平面が20角を成して、一面から五面が彫刻の基本単位になる。中央の正面が上段、内側に曲がる部分が中段、また正面に向かう内側が下段になる3段構成である。さらに三層までの空間には仏教の信仰的内容を盛り込んだ法会の内容が12場面でも彫刻されている。これは高麗時代に流行っている仏書や經典の

中でも重要な内容だけを表現した変相図と同じ性格の画である。この画を通じて高麗時代における法会の内容がうかがえる。正方形を成している四層は、その4面にまた違う内容の法会の光景が描かれている。さらに五層の各面には5面の如来坐像が描かれて、計20面の如来像が、また六層からは各面に3面ずつ、計12面の如来坐像を描いていて、全体的に計80面の如来像が彫刻されている。また塔にあるすべての柱には龍が生き生きと陽刻されている。

(3) 安息の地に返還されるまでの経緯

敬天寺十層石塔の悲劇は高麗時代を経て朝鮮の王朝時代が幕を下ろした朝鮮時代(1392～1910)の末期、国運が傾きかけた時に始まった。1902年日本建築史家の関野貞(1868～1935)が朝鮮総督府からの委託でこの石塔を調査

し、朝鮮建築調査報告書に掲載した。1906年12月中子爵が漢城にいた時、日本人骨董商が子爵に近づき開城から遠くない光徳地方に大変有名な古い塔があると教えた。骨董収集家でもある田中はこの塔を手に入りたいと熱望していた。

1906年12月に皇太子(後に純宗として即位、在位1907～1910)の婚礼式慶祝大使として派遣された宮内大臣田中光頭は、1907年3月初め、武装した数名の憲兵を含む80名の日本人一行を動員して、松都(開城)を襲った。彼らは現地にあつた石塔を分解し、数十台の荷馬車に積み、夜半に開城駅まで運び、そこから汽車で仁川まで、仁川から船に載せて日本に運んだ。この時、高宗皇帝から許可を得た記念品だと嘘をついて、住民と当時の管轄郡守の抵抗を押さえた。しかし彼の違法行為は直ちに「大韓毎日申報」を通じて全国に知れ渡るようになった。米国人ホーム・ハルバー



関野貞 東京大学教授

トはニューヨークタイムズに告発し、また万国平和会議開催中のオランダのハーグにおいても暴露した。他に英国人記者アーネスト・ベゼルが1907年6月2日のワシントン・ポストやロンドン・トリビュン紙に敬天寺石塔等の搬出を非難する記事を掲載した。ベゼルは1909年ソウルで病死、ハルバートも1947年訪韓時に死亡、二人とも遺言通り楊花津外国人墓地に埋葬された。

長谷川好道総監の時、総監は学務局の古跡調査官から一部終始を聞き、すぐさま元に戻すという意見を求めた。相次ぐ報道によつて朝鮮内のみならず、日本においても田中 宮内大臣の

行為に対する批判が高まり、結局世論に屈して、再び朝鮮に戻ったのは1918年であった。しかし、梱包されたまま日本に放置されていた塔は、毀損がひどく復

元されずにそのまま景福宮勤政殿の回廊に野放しにされていたが、1960年林泉に依つて復元され景福宮に最近まで公開された。ところが長い間、酸性雨に晒されたため、弱い材質の大石に致命的な欠陥が見つかり、1955年に再び解体されて保存されるようになった。この十層石塔は657年にも及ぶ悲しい年月を経て2005年、現在の国立中央博物館に永遠の安息の地を見出したのである。

## 2. 圓覺寺十層石塔

ソウル特別市鍾路区のパゴダ公園(タップコル公園)にある朝鮮王朝時代の石塔。1962

年12月20日、韓国の国宝第2号に指定された。敬天寺十層石塔を模倣して製作されたといわれる。私が訪れたメリダのメキシコ韓人移民史博物館にかけてある大型油絵(350×250cm 画家ホルゲ・キム、移民4世)の中にも圓覺寺十層石塔が描かれている。

ソウルのパゴダ公園は1919年3月1日、独立運動で民族代表33人による独立宣言書が発表された場所であり、33名のリーダー孫兼熙の銅像が建てられている。

1467年(世祖13年)に築かれたことが、塔の上部の銘からわかる。大理石製で高さは12m。3層の基壇と10層の塔身を持ち、塔身には人物や草花、龍や獅子などの文様が陽刻されている。上部3層は崩れていたため長らく降されていたが、1947年に原状に復旧された。表面の損傷が激しくなったため、2000年にはガラスケースを設置している。

この付近にはかつて、高麗時代以来の古刹であった興福寺という寺があり、李氏朝鮮を建て



円覺寺十層石塔—パゴダ公園

## 韓国の十層石塔

太祖李成桂の代には曹溪宗の本山とされていたが、後に仏教抑圧政策で荒廃した。第7代国王の世祖は1464年、自らの犯してきた殺生を悔いるために興福寺を圓覚寺と改称して拡大し、多くの堂宇や門、大蔵経殿、そして現在も残る十層石塔を建てた。しかし1504年、仏教排斥に熱心だった第10代国王燕山君は圓覚寺を廃止し、翌年には寺の建物に音楽を管轄する掌楽院を移転させ、妓生も置いて王の享楽の場へと変えてしまった。以後、仏教寺院再興の機会は朝臣や儒士らの反対で頓挫した。中宗の代の1514年ごろにはまだ建物の多くが残っていたとされるが、1519年には大部分が消え失せており、十層石塔のみが残っていた。市内からよく見えるこの石塔の周囲が後にパゴダ公園となる。

柳宗悦（1889～1961 日本民芸館創設者）は『倭寇と古美術』の中で「朝鮮の民族が偉大な芸術の民族であると云え

る」と指摘したが、これらの十層石塔は傑出した文化遺産として柳宗悦の言葉を連想させる。筆者は今年5月初旬、これらの文化遺産を取材するため、ソウルの国立中央博物館とパゴダ公園を再び訪れた。

### 文献

- (1) 中村鉄哉：『ソウル 日帝下の遺跡を歩く』拓殖書房新社、1998
- (2) 西山武彦、伊丹潤監修：『韓国の建築と芸術』—韓国建築調査報告—元本刊行者、関野貞 韓国の建築と芸術刊行会、1988
- (3) 申龍哲「敬天寺十層石塔」通度寺聖宝博物館学芸研究室長、2007
- (4) 『円覚寺趾十層石塔』—Wikipedia、2016
- (5) 柳宗悦：『朝鮮とその芸術』叢文閣、1992

## イベント案内

### 第37回全国在日外国人教育研究集会・東京大会

今年の第37回研究集会は、1992年以来、24年ぶりに東京で開催します。東京都では今年2月に「多文化共生推進指針」を策定し、日本人と外国人がともに参加・活躍できる多文化共生社会の実現に向けてとりくんでいくという方針を示しました。しかしながら、現実には多くの壁が立ちはだかり、まだまだ道は遠いと言わざるを得ません。私たちはすべての子どもたちが自己を肯定し、互いを認めあうことのできる多文化共生社会をめざして、学校や地域づくりを進めていかなければなりません。今回の研究集会をそのための一歩としたいと考えています。

さらに、今回の大会では、関東各県の協力を得ながら実行委員会を組織し、広い意味での「関東大会」をめざしています。ぜひ、ご参加ください。

◇テーマ 多文化共生社会実現のための教育を創造しよう

◇日程 2016年8月5日（金）6日（土）7日（日）

◇会場 全体会・分科会 国士舘大学世田谷キャンパス 34号館3階  
生徒交流会 町田市立大地沢青少年センター

参加費 3,000円

参加申し込み 当日生徒交流会受付または全体会会場受付でお申し込みください。

詳細などのお問い合わせ

第37回全国在日外国人教育研究集会・東京大会 現地実行委員会

〒110-0005 東京都台東区上野 1-12-63 階移住連気付け

tel 070-3149-1442、E-mail zengaikyo37\_tokyo@yahoo.co.jp

# リーエッセイ 番外編

54

## 「ネットの炎」

今まで何度か、「ネットの炎上」というやつを経験していき。僕はツイッターというメディアを気に入っていて、ずっとやっているのですが、だいたい原発関係と政府関係について批判的にツイートするとすぐに激しいリプライが飛んできます。

この発言は「反日」だ、つまりお前は「日本人じゃないんだ」だから「半島に帰れ」という流れと、こんな発言をする奴は「バカだ」、つまり「お前、頭悪すぎ」だから「死ねや」という二大潮流(?)があります。

初めてネットで炎上を経験し

てもう5年以上ですから、口汚く罵(ののし)られるのには、もうすっかり慣れた、と書いたところですが、まだ慣れませんでした。いまだに、嫌な気持ちになったり、哀しい気持ちになったりしてダメージを受けます。

スルーすることが生きていく知恵だと、頭で分かっているのですが、なかなかスルーできません。職業的なクセかもしれない。演出家は人の話を聞くのが仕事です。どんなに小さなサインも見落とさず、俳優やスタッフと良い仕事をしたと思うからです、ネットでも、相

手の意図を簡単にスルーしたりブロックすることに慣れてないのだと思います。

電車に乗っていて、座席の狭い隙間にぐいぐいお尻をねじ込んでくるおじさん、おばさんがいます。相手のお尻があんまり大きいと、こっちもムツとしま

すが、相手の「7人用のシートでしょ。空いてるでしょ。当然でしょ」という気迫を感じて説得されます。が、たまに本当にたまに、何も感じさせず、機械的に狭い空間に座ろうとする人がいます。そういう人は「ちょっと詰めて」とか「座ります」

とか要求している気配がしません。ただお尻を荷物の間に差し込むように一方的に動きます。周りを人間と感じていないのです。ただ座るのにジャマなものが両側にあるから押す。それだけです。「あ、隣の人を人間扱いしてないな」と僕は押されながら感じます。そして、「この人は学校か、職場で、人間扱いされてないんだな。だから周りを人間扱いしないんだな」と思うんです。

「イントレランスの祭」の稽古中、地下鉄で二度、そういう人に会いました。二人とも、30代くらいの女性でした。社会人に見えましたから、どんな風な職場で人間扱いされていないんだろうかと思って、心が少し痛みました。

心が折れそうになるのは、政治的なリプライだけではありません。「久しぶりに動物園に行きたいなあ」とつぶやいた時に

「動物園は人間の娯楽のために、動物の尊厳を踏みにじっている場所だ」と見も知らぬ人からリプライが来た時は腰にきました。これは、一時期、ネットで話題になった「〇〇のチケット、当たった！」と喜びをツイートしたら「外れた人の気持ちを考えたことがないんですか？」と突っ込まれたという理不尽と同じでしょう。

15年ほど前、僕は「インターネットは人間がどこまで最低になれるかの実験を続けている」と書きました。「人間の絶望が形になったものがインターネットだ」と書いたのもその頃でした。

今は、「インターネットは、人間がわかり合えないということとを、見事に分かせてくれるツール」だと言えるでしょう。

こんなにも自分と違うんだ、こんなにも誤解するんだ、こんなにもレッテルを貼るんだ、こ

んなにも人は分かりあえないんだ、ということを入ンターネットは鮮やかに「見える化」してくれたのです。

とは言え、最低になる実験を続けながら、絶望を形にし、分りあえないことを分りあつたまま生きていくのは、あまりにハードで、そんな状態が長く続けられるわけがない、僕達人間はそんなに強くないと思います。

だから「分かりあえない人間」と「分りあえる人間」とを區別して、「分りあえる人間」とは深くつながろうとするのだと思うのです。

数年前、原発関係で激しくリプライを応酬したことがありました。僕もまだ「分りあえないことを分りあう」レベルではなかったもので、何度もやりとりしたので。その後、ひよんなことから、その相手と知り合うことになりました。激しいツイートとは別人のように、なんというか、体全体から「僕を受け入れて欲しい」というオーラを感じました。文章は激しく攻

撃的なのに、体からにじみ出る雰囲気は「僕を認めて欲しい」というものでした。僕はそのギャップにくらくらしました。

僕が二十代の頃、『話せばわかるのか』という本がベストセラーになりました。そのタイトルからにじみ出る感覚は「どんなに話したって分りあえないことは普通にある」ということでした。それは、その当時、衝撃的なセンスでした。そして30年くらいたって、「どんなに話したって分りあえない」ことは普通で当たり前の時代になりました。ンターネット、もっとはつきり言えば、スマホがそんな時代を創ったのだと思います。

分りあえない人とは徹底的に分りあえず、分りあえると思ひ込んだ相手とだけ深く交わる。スマホが可視化し、加速したのです。

この時代はどこに行くのだろうとため息をつきます。そして、僕は今日も「ああ、この話題をつぶやくと、激しくリプライがたくさん来るんだろなあ。でも、つぶやきたいんだよなあ」と迷い迷いしながらツイートするので。そして分りあえないことを分りあうことは、分りあえないことを憎しみあうことより、はるかにましなんじゃないかと考えるのです。

鴻上 尚史

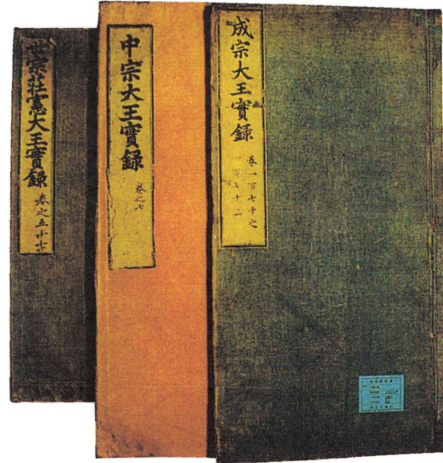
この文書はシアターBRAVA! (大阪)で2016年4月22日から24日まで公演された、鴻上尚史さん作・演出の「イントレランスの祭」で、観覧者に配布された挨拶文を転載しました。

「イントレランスの祭」あるとき地球に580万人の宇宙人が難民として逃げてきた。各国は国連できまった割り当てに従い、日本では25万人の宇宙人を受け入れることになるが、宇宙人排斥運動が起こる。それでも宇宙人はしだいに地球にとけこみ、生活がはじまってから数年がたったある日、売れないアーティストの佐藤健吾は、恋人から自分は宇宙人だと告白される。「イントレランス」とは「不寛容」という意味。果たして佐藤はどのような行動にでるのか。

# 朝鮮女性史

第7話

ノケスン  
盧桂順 (大谷大学非常勤講師)



朝鮮王朝實錄

## 朝鮮王朝

①

### 王朝時代を共に創り

### 支え生きてきた女性たち

コリアという名を世界に知らしめた高麗王朝は政治・経済・文化あらゆる分野において数多くの業績を築き栄耀(えいよう)を極めたが四七五年間の歴史の幕を閉じ、時代は新しい指導者を求めた。

末期に近い第三十一代・恭愍(コンミン)王の頃には高麗王朝内部での政治的矛盾やそれらに翻弄される民の生活は塗炭に瀕していた。また高麗を取り巻く東アジアの国々においても様々な変動が顕著に現れた時期であった。

中国大陸では元末の内乱と漢族による明王朝への交替期でもあり高麗にも紅巾賊(河南・安徽省(あんきしょう)方面におこった賊・紅い頭巾をかぶった)が侵入して来た。一三六一年には十万の大軍が開京(都)を占領し略奪と殺戮を繰り返した。民が苦しみ逃げ惑うなか国王は都を離れ避難した。

そのようなとき紅巾賊に対抗すべく二千名の親兵を率いて開京城に一番乗りし、果敢に戦い高麗を守り軍人として名を成し

たのは李成桂(イソンゲ)であった。

時期を同じくして日本では一三三六年以来南北朝に分かれて内乱が続くなか、隙をついて倭寇が高麗南部沿岸に出没し傍若無人な略奪を繰り返した。それらによる被害は甚大で高麗は困難を極めていた。この倭寇討伐においても李成桂の活躍は群を抜いていた。

一方、恭愍王は反元政策を推し進めた。具体的には自分の代より王の名に「忠」を付けず元年号を廃止した事である。彼は高麗内部の親元勢力に対抗し、その特権層の根を断つために名もなく門閥もない一介の僧である辛旽を起用し、内政改革を断行した。しかし辛旽は「反逆者」として殺され恭愍王もまた暗殺された。

恭愍王の死後親元派・崔瑩(チェヨン)らによって三十二代・十歳の禑王(辛禑)や三十三代・辛昌が擁立されたがすでに高麗王朝は風前の灯火であった。二人共王の血統でないとい糾弾され最後の王・恭讓(コンヤン)王

のときに殺された。

一三九二年、反元親明派・鄭道伝(チヨンドジョン)らによる易姓革命(王朝の交替をいう)に従い李成桂を王として推戴した。高麗王朝に対するクーデターと云える。

朝鮮王朝は朱子学(儒教)を主軸に国政が運営された。科挙によって選出された文人官僚が王朝行政機構を支えた。都は開城から現在のソウル(ソウルとは固有語の都という意味)漢陽(漢城)へと遷った。

高麗の建国理念であった仏教を徹底的に排しその弊害を痛烈に批判した。そして朝鮮王朝の建国理念を「崇儒排仏」「経世済民」(国を治めて民を救う)

におき徹底した身分制度・両班官僚体制を強化し封建的中央官僚国家として、庶孽禁錮令(しよげつきんこれい)【庶子は官僚になれない】血統主義的家族制度を施(し)いた。

以後、五一八年間という東アジアではめずらしく長期王朝が成立した。朝鮮王朝は第一次王子の乱、第二王子の乱

を経て第三代・太宗王(李成桂の五男芳遠(バンウォン))によつて盤石なものとなったといえる。

十五世紀半ば一四四四年、第四代王・世宗の時「訓民正音」(ハングル)が制定され、その他多くの文化・技術等が発展し安定期に入った。

しかし十六世紀末、一五九二年から豊臣秀吉による侵攻、壬辰・丁酉倭乱(文禄・慶長の役)にはじまり十七世紀前半、一六二七年には丁卯・丙子胡乱(清軍の侵入)があり朝鮮王朝は苦境に陥った。

一方、明の冊封を受けた朝鮮と日本は中国に対し朝貢関係を保ち、互いは対等国として交隣

関係をもった。足利幕府の時より朝鮮と日本は通信使が行き来した。特筆すべき事として江戸時代の徳川幕府は、壬辰倭乱のとき一度断絶した通信使を朝鮮王朝に再び要請することによつてその後、約二〇〇年間十二回に及ぶ朝鮮通信使の訪日は続き明治維新直前まで友好的な交隣関係を結んだ。(一六〇七〜一八一二)

朝鮮王朝建国に寄与した女性たち

### 朝鮮王朝建国に寄与した女性たち

李成桂が朝鮮王朝を建国するにおいて多くの重要人物がかかわった事は史書に記されている

が、王后はじめ名もない女性たちも少なからず存在したのには明白である。

太祖である李成桂には二人の王后がいた。

最初の夫人

太祖(テジョ)

1335~1408年 朝鮮第1代王 李成圭



神懿(シンウイ)王后・康氏は二歳年下で六男二女を生み朝鮮開国前に五十四歳で死去した。のちの第三代王太宗は彼女が生んだ五男・芳遠である。

二番目の継妃である神徳(シンドクツ)王后・康氏、康芳実(カンバンシル)は高麗の権門勢家の生まれで李成桂の開国闘争には積極的に助言参加し、その後も強い影響力を発揮した。

彼女は夫より二十一歳年下で若く美しく聡明な女性であったと伝えられる。二男一女を生んだ。李成桂は彼女を大変慈しんだという。

康氏は磨き抜かれた政治センスの持ち主であった。育った家庭環境の影響であろう政治の動きに対する直感力が自然に身に着いていたという。李成桂の心強い助言者として常に彼のそばにいた。

実家の一族は高麗時代一等功臣にまで登りつめ威勢をとどろかす資産家であったことも李成桂の王朝開国に大きな力となった。

彼女は夫の愛情を一身に受け

自分の生んだ息子を後継ぎにすることを当然であると考えていたようだ。また李成桂自身も既に成長し国の働き手として力のある六人の息子より、神徳王后から生まれた幼い芳碩（バンソクツ）を世子にと望んだ。

彼女は宰相（さいししょう）中心論者である鄭道伝らと手を組み、国王中心論の芳遠と対立するも結局二人の息子と一人の娘婿を死なせてしまった。心労が重なり彼女は王より十二年も先に死去した。娘は剃髪し尼僧になった。

異母兄弟による王位継承戦これが第一次王子の乱である。この肉親間における争いは父であり武人であった李成桂の政治的手腕が不足していた事も要因のひとつとして見るべきだろう。

王妃は王によって手篤く葬られたが、李成桂亡きあと三代王である太宗により、墓は幾度も移送され王妃としての祭祀も廃止された。二百年後の十八代王・顕宗（ヒョンジョン）の時、ようやく宗廟に合祀された。

朝鮮王朝建国に少なからぬ寄

与をした王妃ではあったが、王朝の未来より単に自分の生んだ息子の王位継承だけを望んだ母親であったのだろうか。そのように考えると当時の女性としては政治力が長けていたと云えども思慮の深淺に限界を感じるのである。もちろん時の宰相派に振り回され利用された部分も否めない。義理の息子である芳遠に徹底的に嫌われ対立したことが死後にまでも惨めな思いをすることになったのはいささか哀れでもある。

第三代・太宗王の王后である元敬（ウォンギョン）王后・閔（ミン）氏は夫より二歳年上であった。

太宗が王位に就くに及んでは実家を巻き込み実に様々な面において助力した。紆余曲折波乱に満ちた芳遠の王位継承は多くの人々を犠牲にした。だが一番の犠牲者は王妃自身であったと云っても過言ではないだろう。

閔氏の兄弟である無咎（ムグ）・無疾（ムジル）ら実家の一族は太宗に忠義を尽くしたが、幼い世子の隙を狙って執権を画策した

との嫌疑を受け閔氏家門は絶滅に追いやられた。この一件は王妃の太宗に対する不満を募らせる大きなきっかけとなった。

太宗は王朝国家を盤石なものに創りあげるにおいて外戚の過剰な力を牽制したのである。また彼は王家直系の子孫繁栄を望み多くの側室をおいた。

王后に四男四女、十一人の側室からは計八人の男子と十四人の女子、総計十二男十八女が生まれた。

だが何より王后自身を追い詰めたのは激しい嫉妬深さであったようだ。

宮女・後宮たちが

が次々と懐妊する度に嫉妬心を抱き太宗との不和が益々拡大し溝は深まった。あるとき王妃

は太宗が奴婢に生ませた子を殺そうとした。王妃のこうした行為は夫の怒りを買った。子は運良く一命を取

りとめたが王の血を引く王種を殺そうとしたことがあだになり太宗は極力彼女を疎遠にした。しかし内助の功が大きかった王妃を廃妃にすることも出来ず王は彼女と別居した。結局それらの罪を実家の弟、無恤（ムヒョル）・無悔（ムフエ）に押し付け流配した。無実の罪に苦しんだ弟たちは四日後に自殺した。こうして閔氏一族は太宗によって完全に絶えてしまった。



羽川藤永「朝鮮通信使来朝図」（個人蔵）  
江戸・日本橋の町中を宿館の浅草東本願寺へ向かう通信使の行列



世宗 (セジョン)  
1397~1450年 朝鮮第4代王

うように暮らして居た。太宗はなんの落ち度もない嫁である王妃まで失脚させることはかなわなかつたようだ。  
舅の王権

しかし後年、自分の生んだ二男が長男の子である孫を殺し、王座を奪うという残忍な事件を知らずに死んだことは不幸中の幸いであつたのかも知れない。  
朝鮮王朝初の垂簾聴政を撰(と)つた第七代王・世祖の王后貞憲(チョンヒ)・尹(ユン)氏は夫が甥っ子の王座を横取りしたという負い目があつた。  
夫の世祖がライ病に罹り(かかり)早死にし、自分の生んだ

息子二人共が原因不明の病気で若死にするなど、幸せとは云い難い日々であつたと想像される。しかし政権を篡奪した世祖は十四年という短い王位ではあるが善政を施したといわれている。夫の死後は幼い息子を王位に就け自ら政局を維持する為朝王初めての垂簾聴政を行った。だが王座に就いた二男である叡宗(イェジョン)までもが早世すると、次は十二歳の孫を王位に就け続けて摂政した。  
八年間、後の第九代・成宗(ソンジョン)王が成長するまで果敢で決断力のある手腕を存分に発揮し王権を安定させたという記録が残っている。  
もちろん申叔舟ら有能な参謀が控えていたことも否めない。しかし心の休まる時がなかつたのだらうか国家的には禁じていたはずの仏教の敬虔な信徒として、毎日夫や息子を供養する経を唱えたとの記録がある。隠れキリシタンならぬ隠れ仏教徒であつた。それも夫である世祖が世宗王の時、彼の指示で完成させたハンダで書かれた経典を

糟糠の妻であつたことで廃妃にされることなく寿命を全うしたが、その苦しみを死ぬまで耐えなければならなかつた王妃の心情は想像に難くない。  
女性として最高の地位である

れ偉大な業績を残したが王妃・昭憲(ソホン)王后・沈(シム)氏は舅である太宗によってやはり実家が散り散りに引き裂かれ取り潰されるといふ悲劇に遭つている。  
父・沈温(シムオン)は領義政(総理)であり太宗の国創りに大きく貢献した人物であつた。しかしその弟が太宗に不平を述べたとされたことで、謀略の首謀者として嫌疑を掛けられ自殺に追い込まれた。実家は取り潰され母は官婢に貶められた。  
彼女は廃妃に追い込まれながらも内助の功が認められ王妃の座は保たれた。本来穏やかで品格高い彼女は夫の世宗に寄り添

うように暮らして居た。太宗はなんの落ち度もない嫁である王妃まで失脚させることはかなわなかつたようだ。  
舅の王権

世宗は王妃以外に五人の側室から十男二女、計十八男四女・総計二十二人の子をもうけた。夫である世宗とは誰もがうらやむほど仲が良かったと伝えられる。ひとえに王妃の忍耐強さを伺い知ることができる逸話である。  
しかし後年、自分の生んだ二男が長男の子である孫を殺し、王座を奪うという残忍な事件を知らずに死んだことは不幸中の幸いであつたのかも知れない。  
朝鮮王朝初の垂簾聴政を撰(と)つた第七代王・世祖の王后貞憲(チョンヒ)・尹(ユン)氏は夫が甥っ子の王座を横取りしたという負い目があつた。  
夫の世祖がライ病に罹り(かかり)早死にし、自分の生んだ

息子二人共が原因不明の病気で若死にするなど、幸せとは云い難い日々であつたと想像される。しかし政権を篡奪した世祖は十四年という短い王位ではあるが善政を施したといわれている。夫の死後は幼い息子を王位に就け自ら政局を維持する為朝王初めての垂簾聴政を行った。だが王座に就いた二男である叡宗(イェジョン)までもが早世すると、次は十二歳の孫を王位に就け続けて摂政した。  
八年間、後の第九代・成宗(ソンジョン)王が成長するまで果敢で決断力のある手腕を存分に発揮し王権を安定させたという記録が残っている。  
もちろん申叔舟ら有能な参謀が控えていたことも否めない。しかし心の休まる時がなかつたのだらうか国家的には禁じていたはずの仏教の敬虔な信徒として、毎日夫や息子を供養する経を唱えたとの記録がある。隠れキリシタンならぬ隠れ仏教徒であつた。それも夫である世祖が世宗王の時、彼の指示で完成させたハンダで書かれた経典を

これは釈迦の一代記をハングルで記したもの。  
世宗大王の妃・昭憲王后沈氏が1446年3月に没すると、次男の首陽大君に命じてつくらせた。王妃の冥福を祈るとともに、一般にも広く仏教をわかりやすく解説。ハングル創製後に初めてハングルを使った散文体の伝記文学で、当時のハングルを知る第一級の資料。口語体で書かれていることも重要。1447年刊行。



肌身離さず持つていたと云う。  
王后は頼るべき夫や息子を亡くしたが気丈に生き六十五歳で寿命を全うした。

朝鮮王朝時代最悪の王として名が残る第十代・燕山(ヨンサン)君の生母・尹氏は三代悪女の一人として名が残っている。

夫・成宗より十二歳年上で当初は王の寵愛を一身に受けたが、王妃になると政治に口出しするようになり姑の大妃とも対立した。また彼女の異常な嫉妬心は王を大いに悩ませた。数いる側室らを毒殺しようとする呪術を唱えたり、ヒ素を隠し持ち特別に王が寵愛している敵氏や鄭氏を毒殺しようと試みる等々、失敗に終わったが彼女らに対する憎しみは尋常ではなかったようだ。成宗王には廃妃された尹氏を含め三人の王妃と九人の側室がいた。

とうとうある時嫉妬が高じ王である夫の顔を爪で引つ掻くという事件を起こした。激怒した王と大妃は彼女を廃妃し直ちに里に帰した。しばらくして賜薬を下した。

王の元に必ず戻れるものと信じて疑わなかった王妃は大変落胆し、置いてきた愛する幼い息子・世子(のちの燕山君)を思い苦しんだ。

彼女は死の間際、実母に血の付いた絹の肌着を渡しながら幼い息子が王に就いた暁には必ずや仇を取ってほしいと恨み言を残した。これが後に想像を絶する土禍を招くことになるのである。

王は賜薬を下す事のためらいがあったと云われているが王妃に戻すことに姑・大妃が強く反対したことや、党派争いの巻き添えにあつた事も否めない。

成長し王座に就いた燕山君は祖母である大妃を死に至らしめるほどの暴力をふるい周囲を恐怖に陥れた。また王の寵愛を受けていた敵氏・鄭氏を殴り殺すなど、廃妃された母の事件に関わつた全ての人々を殺戮に追い込む世に悪名高い「戊午土禍(ムオサファ)」 「甲子土禍(カツプチャサファ)」をおこした。  
廃妃・尹氏は朝鮮王朝きつての国が引っくり返る事件になる

原因を作り出したのである。

王妃と云えども一人の女である。夫の愛情を独り占めたいと云う気持ちは当然であり、本来のあるべき姿であろう。しかし封建的儒教思想は女性を一人の人間として見ることはなく、あくまでも男性の付属物・従属的産物と捉えていた。それら思想背景が王妃たちを女として、より苦しめた事は否定できない。

儒教社会における女性の立場は「女三界に家無し」から始まり、他家に嫁つぐことはその家の子孫を産みに行く事であり、その家の祭祀を司る男子を産むことが義務付けられていた。儒教において先祖の祭祀は最重要事であるからだ。

王妃にはその究極の義務が架せられていたと云える。男子を産むことで王妃の座は保たれ、その息子が世子となり王位に就くことよって生涯、そして死去後も大切にされたのである。



# 第六回 『青い山脈』

(今井正監督 一九四九年)

藤原 史朗

4	3	2	1
鐘が鳴る 旅を行く 若いわれらに	仰ぐ 青い山脈 かがやく嶺の なつかしさ 見れば涙が また にじむ 父も夢見た母も見た 旅路のはての その涯の 青い山脈 みどりの谷へ	へ あこがれの 旅の乙女に 鳥も啼く 雨にぬれてる 焼けあとの 名も無い花も ふり	若く明るい歌声に 雪崩は消える 花も咲く 青い山脈 雪割り桜 空の果て 今日我らの 夢を呼ぶ 古い上着よさようなら さみしい夢よ さようなら 青い山脈 バラ色雲

## 歌謡 「青い山脈」

戦後間もないころの大ヒットソングに「青い山脈」がある。

この歌の元になったのは、1947年石坂洋次郎（1900〜1986）が朝日新聞に連載した小説『青い山脈』である。日本の敗戦から2年後、日本国憲法が施行され、女性の選挙権が行使された。新しい時代の到来に、人々は飢えと混沌の中にあっても、何かを理想とし希望を感じた。たちまちこの小説は大衆のころをつかんだ。いや大衆のころを代弁したとも言える。

小説は2年後の1949年に同名で映画化されたが、封切の3カ月前に主題歌

「青い山脈」が発表された。作詞は、戦時中、戦時歌謡（軍が作らせた歌ではない）作詞のトッランナー西條八十（1892〜1970）。「露営の歌」

「若鷺の歌」「同期の桜」らは西條の作詞。戦後体制が変わると、180度転換して希望の青春歌を歌う。この変わり身の早さと作詞の巧みさは、天才的である。作曲は「夜のプラットホーム」「蘇州夜曲」の作曲で有名な服部良一（1907〜1993年）。彼は戦時歌謡の作曲には距離を置いたと言われるが、デビュー曲「噫 中村大尉」から始まり、全滅玉砕を歌った「この仇討たん」まで盛んに作曲した。原作より映画が、焼け残った映画館や、各地の倉庫改造のような会館で上映されたが、それ以上に歌謡「青い山脈」が、ラジオ放送を通して全国津々浦々

に広まった。

初回の作品は、今井正監督、出演は原節子・池部良・杉葉子ら。その後、リメイク版が、なんと4回製作された。映画のヒロイン(寺沢新子)(以下新子)

を杉葉子が演じ、57年には雪村いずみ、63年には吉永小百合、75年には片平なぎさ、88年には工藤夕貴が演じたが、主題歌としての歌謡「青い山脈」は不動だった。映画のリメイク回数では、川端康成原作の映画『伊豆の踊子』に並ぶ。だが、歌のヒットの割には、同映画を観た人は少ない。石坂の原作を読んだ人はもつと少ないであろう。にもかかわらず、この歌やメロディは誰もが知っていると言っても過言ではない。「昭和」が終わり「平成」となった年、昭和の歌謡曲アンケート第一位に「青い山脈」が入っているぐらいである。

初代新子役の杉葉子は、歌が映画を、映画が歌を、相乗的に広めたと言う。しかし西條八十は、原作そのものを作詞化できているとは言い難い。監督今井

正は、この歌に不満足だったと言われている。青い山脈の語は、国破れて山河あり、からイメーajしたのだろう。ただし原作『青い山脈』の舞台については二説ある。一つは青森弘前であり、もう一つは秋田の横手である。

歌詞を見てみよう。(雪崩)は大日本帝国のアジア太平洋侵略戦争であろう。それが終わる春がきた。(雪割り桜)という品種は存在しない。(古い上着)は天皇を頂点とする明治憲法体制とその下の家族制度か。とすれば、(さびしい夢)は何だろう。八紘一宇と称した大日本帝国のアジア支配の野望に代表されるような、何か否定的な夢、悪夢にちがいない。日常的には何をイメーajしたのか。不思議な表現である。

西條には歌で軍国主義を煽り若者を戦地に駆り立てた戦犯としての罪、それは西條に限らないが、それを追及されるという不安があった。だからよけいに(緑の谷)の平和と、(空の果て)の(夢を呼ぶ)(バラ色雲)

の世界(民主主義)に再生される(青い山脈・日本)を、歌いあげる必要があったと思える。ほんとうは、この戦争の間、口には出せなかったが、自由な世界を(父も母も(西條も)) (夢見た)、空襲で焦土と化した(焼け跡の名も無い花も)平和を(ふりあお)いできたので

西條とペアを組んでいた作曲家に古関裕而がいる。先述の「露営の歌」「若鷲の歌」の作曲者である。彼もまた戦時歌謡曲を大量に作曲し戦意高揚を煽った。その謝罪?を込めてか、妻を原爆で失い、自らも原爆病に苦しみながら被爆者医療に奔走し死亡した、医師永井隆を歌った「長崎の鐘」を作曲。その後、戦争孤児を主題としたラジオドラマ『鐘の鳴る丘』の主題歌

「とんがり帽子」、同じくラジオドラマ『君の名は』の音楽を担当した。ちなみに阪神タイガースの「六甲おろし」も古関裕而。西條と古関、二人はどこか似ている。否、ほとんどの芸術家は戦時体制の国策にのみこまれ

るか、自らその役割を買ってた。かの『放浪記』の作家林芙美子も、軍によって南方方面に派遣されると、男女の恋愛を書いているときではないと、戦況報告記者として活躍した。1948年、東京裁判は終結した。西條も古関も服部も、戦争犯罪人として裁かれることはなかった。ドイツの場合に比べ、連合国による日本の芸術関係者の戦争負担の罪責追及は、軽かったと言われる。歌謡「青い山脈」は、西條と服部両者にとつて、過去を払拭し、戦後の歌謡曲作家として再出発するのにふさわしい歌になったであろう。

これと同じようなことが、映画『青い山脈』の監督今井正についても言える。戦時中、彼は『望楼の決死隊』(1943年)や『愛と誓い』(1945年)など、大日本帝国の朝鮮支配を鼓舞し日本の侵略戦争を推進する国策映画を製作した。戦後、その自らの過去について一定の総括をしているらしいが、『真昼の暗黒』(八海事件)、『あれが港の灯だ』(李ラインと在

日)、『橋のない川』、『戦争と青春』など一連の反戦・反差別人権の映画を製作してゆくが、

## 「変すい変すい新子さま」 偽ラブレターが生んだ騒動のストーリー

映画では、青森か秋田の青い山脈が見え、海にも面している田舎町の、旧制私立梅光女学校が舞台。そこに5年生の新子が転校してきた。映画の冒頭、金物屋の息子で留守番をしている(六助)(池部良)は落第留年による戦後の改革は1947年原作が47年だから、小説の舞台は学制改革前である。映画は、新子が六助に自宅で飼育している鶏の卵を売り現金を得るところから始まる。かわりに新子は軽食のおかずを作り、二人は食事のあと、評判の易者に新子の「姓名判断」をしてもらうために出かけた。

その再出発点に『青い山脈』がある。生らしくない凛とした姿への反発、男女問題で転校させられたという噂、旧制高校生とのあいびきに見えた新子への女学生らのジェラシー、これらがあいまつて、新子を偽のラブレターで松林の公園に呼び出す罠をしかけた。罠にはまれば、新子を取り囲み、女学生の男女交際はみだらで梅光女学校の校風にふさわしくないと思われ、折檻しようと考えたのだろう。

新子は、東京から新着任の英語教師(島崎雪子)(原節子・以下雪子)に偽ラブレターを見せ相談した。義憤を覚えた雪子は、立ち寄った(校医の沼田)(以下沼田)に意見を求めたが、旧態然の女性蔑視観に愕然とし、怒りのあまり沼田の頬をぶつ。翌日、雪子は授業を中断し、黒板に「恋愛」と板書し、新子の

実名をあげ、彼女あての偽ラブレターを問題としてとりあげた。偽ラブレターを書いたのは浅子だった。彼女たちは、新子と六助が肩を並べて歩き、易者に二人の「相性」を占ってもらった行為はみだらで、梅光女学校の名譽を傷つけるものであり、新子に謝罪して欲しいと言う。雪子は男女の純粋な交際は不道德ではない、それを学校の名譽とかを盾にして批判するのはよくない、もつと広い心をもてと説いたが、生徒らは、学校を愛する自分たちの純粋な気持ちがかつてもらえていないと、泣き出した。雪子は、追いつめられる新子を心配し、しばらく学校を休むようにとアドバイスした。

やがて雪子は校長と教頭に呼び出され、理想主義では教育はできず、教師は時には政治家であらねばならないとさとされる。雪子は、この件だけでなく卒業式後、卒業生らが後輩たちを呼び出し、学校の名譽と伝統のためと称して制裁をくわえ、中には暴力をふるうような封建的因習が残っていることも暴露し、

ところはあやまり、島崎先生の言い過ぎがあれば取り消してもいい、協力して母校を発展させ、民主日本の再建につくそうではないかと、その場をとりしきろうとした。その言葉に押されるように、浅子は、先生方にご迷惑をおかけした、みんな私が悪かった、これから校長先生のところに行き退学願ひ（真意でない）を出してくる、と泣きながら言う、私も退学する、私もと、退学希望を口にする者が続出し、クラス全体がパニック状態になった。

不満爆発寸前だと、田中が古参の教師らの会議（校務運営委員会）に伝えると、職員会議の域をこえて「父兄理事会」の招集となった。偽ラブレターの筆者浅子の父は、退学したいという娘の話聞き、懇意の理事会（理事長井口）（以下井口）に相談。井口は市会議員でもあった。井口とつるんでいる田中は、町の新聞記者に、この問題を掲載させた。新聞は「生徒の自主的民主的な校内風紀の解決を女性教師が弾圧」と報じた。

当初から雪子に好意を感じて相談にのり、校内で発言を重ねた沼田が、理事長の手配したであろう暴漢のテロに遭う。それにも屈せず校医という立場の傍聴人として父兄理事会に出席。雪子も参考人の教師として出席。沼田は男女の交際は自然で健全であると意見を述べる。しかし沼田は逆に雪子との関係を疑われ、生徒らに好ましくないと、理事たちの反発を食らう。

事件の発端となったラブレターが古参の国語教師によって読みあげられる。「変すい、変すい新子様」。変すいは「変しい」で、変が「恋」の誤字と説明されて、やつと笑いが出た。会議は、新しい日本国憲法が公布され、これからの若い男女の交際がどうあるべきかというような議論でなく、相も変らぬ因習的な世間談義のやりとり。では騒動の善後策をどうするか。会の終わりを告げるべく理事長は、浅子ら生徒たちの取った行動と、島崎先生のとった行動のどちらが正しいかを、「民主的」と称して無記名投票で決めようと

はかった。

投票の結果は、投票総数18名で、島崎先生14、生徒3、無効1だった。これは理事長らの期待外れだった。理事長は、本日の理事会には7、8名の欠席があり、決定には四分の三以上の出席が必要、本日の投票結果は参考意見にしたい、と断を下したときに、理事の正式な委任を受けていないニセモノが出席していることが発覚した。その者

とは、沼田の指図で保護者代理と称して出席していた六助の親友の（ガンさん）だった。彼は理事会の議論の合間に著名な東西の哲学者の言葉を大声で紹介し、議論を煙にまく役割をしていた。田中は、本日の理事会の無効を告げ、すごい剣幕でガンさんの退場を求めた。沼田とガンさんは窮地に追い込まれた。しかし、沼田に惚れた芸者梅太郎が某理事の代理として出席しており、

この状況を反転させた。梅太郎は、戦時中、田中が陸軍中尉で中国戦線に出向き、名譽の勲章（性病）をもらい、治療のため産婦人科に通っていることを、その医者から聞いていた。梅太郎は、「場違いなこと」はガンさんだけでなく、よくあることだと、匿名で田中のことを暴露、さらに理事長が梅太郎の妹の駒子に子をはらませて棄ておき、駒子が自殺未遂したこと



(C)東宝

有名なサイクリングのシーン

を、理事長が男女問題できれいごとを言おうものなら、ただではすませないという態度をとつたため、彼は今回の件について一言も意見表明できなかつた。

かくして「父兄理事会」は、雪子側の勝利の判定を参考意見として残して「流会」した。もし雪子側が間違っているとの判定が出されていたなら、雪子も新子も、私立梅光女学校から放逐されるはめになっていただろう。一方、浅子は校長室に忍び込み、自分の書いた偽ラブレターを盗み去ろうとした。それを見つけた老教師は、雪子と話をし、二人の間でことを終わらせた。老教師に告げた浅子の謝罪の気持ちだが、雪子にもよくわかつたからである。やがて新子と浅子は生徒どうしで和解した。

映画はこのあと、新子と六助が海水浴に出かけて、ならずものに喧嘩をふきかけられ、相手を打ち負かした六助と支援にかつたガンさんらの前で、新子が六助を「好きだ」と叫ぶ場面、若い世代の健康で明るい男女の交際や未来を彷彿させるよ

うな、堤防の上を彼らが自転車で駆け抜けるシーンを描く。主題歌「青い山脈」が流れる。やがてみんなはサイクリングでやって来た小さな砂丘に腰をおろし、新子や六助たちの前で、沼田が、雪子へ結婚のプロポーズをし、雪子はそれを受け入れる。聖書の結婚に関する言葉「それゆえに、人は父母を離れてその妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである」(新約・エペソ5章25節)がガンさんによって発せられて、映画は終わる。

### 映画化されなかつた部分

原作で映画化されなかつた部分

分がある。その1は、映画冒頭の「卵売り」である。これは原作では卵ではなく、米である。米は戦後長く統制経済下にあった。生産者の個人的売買は、ずつとのものである。多くの生産物が政府の統制経済におかれたが、それを無視するかどうかで闇市が存在した。この闇市がなければ、終戦後の経済は成り立たなかつた。新子は闇米を売りにきたのである。しかし、どうして今井正は、米を卵に取り換えたのだろうか？疑問である。

その2は、新子の親が経営しているリング園の話である。リングも当時、統制経済下におかれていたのだろうか。リングの

子は、優柔不断な父親にかわつて、おんぼろのトラックをチャーターし、リングを市場に売りに行く。それを六助とガンさんは手伝う。途中の検問を突破したため、オートバイに乗った監視員に追跡されるが、トラックに積んでいたリング箱を開け、路上に撒きちらしたリングでオートバイを転倒させ、難を逃れる場面がある。

さながら西部劇の活劇シーンのようにだが、今井はこれを映画に含めなかつた。

原作では、前半の学園騒動と並ぶ後半の大事な山場である。石坂洋次郎は、民主化とは学園の中だけでの話に終わらず、地域の中で闘いとするものだと言いたかつたのではないか。1963年、吉永小百合が新子を演じた第3のリメイク版では、この活劇シーンは、りんごではなく、何十羽の鶏を路上に放つたたちになつてはいるが、戦後のリアリティが再現できていない。



『青い山脈』石坂洋次郎  
2002年発行(第94版) 新潮文庫

売買は、リング園経営者の農業会があり、これを通して政府が統制していたのだから。この組合の許可をとることなく、新

今井は、青春映画としては、前半の学園騒動で十分であると判断したのだろうか。その青春映

画という、誰でもが踏み込める領域に視聴者を引き入れ、学校で、地域社会で、古い因習や我々自身の意識を問い直し、民主社会を築くとはどういうことなのかを考えさせようとしたのではないかと思う。

## 主題は昔も今も変わらず 学校・家・国家・個人

もし、新子が、偽ラブレターを雪子に見せて相談しなかったならば、偽ラブレターが、同クラスの女学校古参の生徒たちが仕掛けた悪ふざけにすぎぬと、軽くあしらっていたならば、さらに雪子が、偽ラブレターを問題視して生徒の前にとりあげなかったならば、騒動は起きていなかったであろう。

先に述べたように、映画では、雪子は授業を中断し、黒板に「恋愛」と記すが、原作では「学校、家、国家」と並べて板書し、その下に個人と書き足し、この三つの組織と個人がどうい

う関係にあったかを、次のように言わしめている。

「いいですか。日本人のこれまでの暮らし方の中で、一番間違っていたことは、全体のために個人の自由な意思や人格を犠牲におつたということです。学校のためという名目で、下級生や同級生に対して不当な圧迫干渉を加える。家のためという考え方で、家族個々の人格を束縛する。国家という名目で、国民をむりやりに一つの型にはめこもうとする。それもほんとに、全体のためを考えてやるのならいいんですが、実際は一部の人々が、自分たちの野心や利欲を満たすためにやつてることが多かったのです。」

作家石坂洋次郎が、この小説で一番言いたかったことを、雪子の口を通して語らせている、と私は思う。彼は戦前、慶応大学を出た後、実際に青森県の弘前や秋田県横手の女学校の教員をしていた。その時の体験が、作品の随所々にじみ出てくる。

作品を読みかえしていると、つくづく学校というのは昔も今も変わっていない、と溜息が出てくる。歌詞とは別の意味で「見れば涙がまたにじむ」である。雪子の言う「学校のため」「家のため」「国のため」に、個人の人格を犠牲にする、この暮らし方の一番の違いが、どれ程改められただろうか。むしろ昨今は、自民党の憲法改正（改悪）草案に見られるように、個人の否定（「個人」を使用せず「人」と言い換える）、家族、公、国を強調する価値観の台頭である。

37年間、高校の教員をしたが、日本の教育を貫く価値観は、明治以降、一貫として富国強兵政策の線上にある、と思う。なにかにつけて学校名を世に広めやすいのが、スポーツの成績。高校野球はその典型である。これは結局のところ、いかに強兵を作らんかなの思想だ。そして富国のためにもっとも重視されるのが、理系自然科学系列の教育

分野である。大学受験はその価値観に傾斜してできている。毎春、週刊誌をにぎわすのが、どの大学に、どの高校が、どれだけの合格者を出したか、である。「よい高校」とは著名な大学に多くの生徒を合格させる学校であり、「わるい高校」は、その合格者が少ないか、皆無の学校である、という価値観が学校の内外に蔓延している。教育本来の、人間の育成、人格の形成はどこへ行つたのやら。その陰で、いじめや差別や、登校拒否や、自殺が絶えない。

『青い山脈』の梅光女学校の場合、原作では「二流」の女学校と設定されている。この場合の二流とは、学力の面以上に、卒業後の嫁ぎ先の良しあしという価値観によって規定されている。あの女学校出身者だから、あのような「良家」に結婚できたというふうには、その世間の風評を学校当局も「父兄理事会」も気にかける。だから、体育教師田中は「むかしこの学校でス

トライキをやった生徒らは嫁の貰い手がなくて困ったそうだ」と、生徒らを恫喝する。この田

「せじもええんやが、いつしょうけんめい、してはる」

中の発想は女性差別そのものである。

私が教諭として勤務した学校は2つ。県立尼崎工業高校5年間と市立尼崎高校28年間、残りの4年間は講師（市尼崎2年、市尼崎東2年）である。とりわけ市尼崎高校では、クラス担任として、また朝文研（後韓国朝鮮人生徒同胞の会）の顧問として教育実践に心血を注いだと自負しているが、自慢なのは小生の在任中、一人も自殺者が出なかったことだ。出なくてあたりまえなのだが。そういう事態が生じなかった理由の一つとして、全校一斉の人権学習特設ホームルーム活動の取組があると思う。その取組を概説すればこうだ。1年のうち前期6時間（全校集会2時間・クラス討議2時間・2時間）後期6時間（前期同様）

の12時間を費やした。中心テーマは部落差別問題・在日コリアン問題・障害者問題。生徒も教師も単に知識としての差別・人権問題学習だけでなく、生徒・教師が、個々の差別被差別の体験を語り合う（カミングアウト）中で、互いの痛み・苦しみを、いかに共感共有し、反差別のやさやかな実践課題を見出していくか、という取組だった。市尼崎28年間の間、在日コリアンの生徒らに絞って言えば、このホームルームの取組を通して、自分の本当の民族名を取り戻して学園生活を終えることが出来た者が、約4割弱だった。女子のみならず男子も民族衣装チョゴリ（上着）を身に着けて卒業式に立ったのが1982年から

数えて17回。その17回目も2004年。それから10年経つと、在日コリアンをはじめとする外国人排斥のヘイトスピーチの嵐が、大阪であれ東京であれ、都心部の在日多住地域で起きてくる。その状況から振り返ってみると、いかに市尼崎高校での取り組みが、大変で重要だったかが理解されるというものだ。だが私がここで記しておきたいのは、日本人の一般の生徒が、人を違えて「特設ホームルーム活動で、救われている子がいっぱいいる」と異口同音に証言してくれていることだ。その彼、彼女らは、表面的にしか見ていなかった友の、本当の姿に触れ、それを直視したとき、自分の悩みや悲しみをもう一度とらえなおすことができたからである。しかし、一方で生徒の口を通して漏れ聞こえてくるのは、この活動に熱心に取り組む教員への生



金直美さんのチョゴリでの卒業式 1988年

徒の親たちからの批判の声だった。「先生らは、せんでもええことを、いつしょうけんめいしてはる」。〈先生はわが子の勉強だけをしてくれたらよい、もしくはわが子を一流のスポーツ選手にしてくれたらよい〉なのである。これほど、われわれの胸を突き刺す言葉はない。と同時に、これほどわが子について（何も見えておらず）楽観的に考える親の無知さを示す言葉はない。これに類することをもう一つ

あげておきたい。1990年、市尼崎高校を受験した筋ジストロフィー障碍の玉置君を、優秀な成績であるにもかかわらず、そのおりの学校長が不合格にする障碍者差別入試事件が起きた。1年間の裁判闘争で、尼崎市教育委員会と校長側が敗れ、校長は辞任するのだが、旧学校長側を支持する暗黙の勢力は強く、ある日、教頭から昇格した新校長は私に、育友会の役員会（理事会）に出るように要請した。

何の用件かと問うと、人権学習特設ホームルームについて話して欲しいというものだった。旧校長側が裁判で敗れたあとだから、彼の側についていた役員会の主だった父母も、少しは学習しようという態度に変わってきたのかと想い、私は了解した。放課後、身を整えて会議室に向くと、事務作業を中断したのか、机椅子は雑然としていた。あれ！と思いつつ、特設について概説を始めると、一人の役員が、「一つ先生に質問があります。私の娘のクラスで、担任の先生の勧めで在日の生徒の方が

本名宣言されました。私の娘は精神的にすごいショックを受けました。人権学習でそんなことがあつてよろしいんですか」。

聞いてみた話の中では、少々そのクラスの担任の勇み足があつたにせよ、当の在日の生徒の姿勢はしっかりとしており、また周囲のクラスメイトの、その宣言に対する応答も不足な点があつたにせよ生まれれており、これらの新たなクラス作りがはじまるように思えた。

私が、そのように担任と宣言した生徒を評価すると、その役員は、「私の娘の精神的ショックはどうしてもらえるのですか」といきりたつた。周りの役員たちもそうだそうだと、その役員に同調するような素振りをした。その母が日本人であるとわかつていたので、私はあえてつぎのような質問をした。「あなたは今日のお母さんですか。在日の生徒なら、同胞のクラスメイトが本名にかわっていくと、自分はどうしようと真剣に悩みますし、私たちもその子を水面下でケアするように動きます」と。

私の切り返しに、その役員は「私は日本人です」と言ったあと、しばらく沈黙したが、まわりの役員たちと不満な声を出し合い、場は騒然となった。その険悪な雰囲気は破ってくれたのが、金直美の二人の妹の親として育友会役員になっていた母だつた。

「私の娘は、自分の意志で本名になりました。学校の取り組みもありましたが、それがよかつたので、あとの娘二人も、本名でこの学校に通うようになりました」。金直美は他の同胞がそうであるように日本名の通名で入学したが、自ら本名になり、尼崎市役所を受験して合格、1988年チヨゴリでの卒業をはじめ、堂々と本名で就労し今日まで働いている。この母の一言で役員会の場が一変した。

## 一人一人ハ大切ナリ

『青い山脈』の「父兄理事会」の場面を観ながら、私は市尼崎高校の育友会役員会に呼び出された、あの時を思い出していた。

そもそも市尼崎高校の人権学習全校一斉特設ホームルームは、私が県尼崎工業高校から転勤する前の1973年に、同校の教師の部落差別発言を部落出身の生徒や親たちの解放運動が糾弾するところから始まったのだが、年と共に風化し始め、76年に小生が同校に赴任したころは風前のともし火だった。この取り組みを絶やしてはならないと思う教員たちと、それを封じて昔の市尼崎高校に戻せという教員たちが拮抗していた。玉置君を不合格にした校長は後者の方であり、当時の育友会の主なメンバーも校長の後押しをしていたようだ。

その校長も、またその後を継いだ校長も今や故人である。玉置君は、裁判勝利の後、1年遅れの市尼崎高校入学の許可が出たが、これを受理せず、すでに合格していた関西学院高等部に入学、卒業後は大学からさらに大学院へと進み学生生活を続けておられたが、昨年（2015年）40歳で亡くなった。阪神淡路大震災を経て、新たに建て直

イベント案内

された市尼崎の校舎をはじめ各地に建て替えられていく校舎や公共の建物にはエレベーターが併設されていく。玉置君の闘いの成果と無関係ではない。そこに玉置君が生きている。

教育は、国や、学校や、家族のためにあるのではない。個人を生かすためである。そうして平和で民主的な「青い山脈」を作るのである。「明治」の教育者のあまりにもあたりまえの言葉を紹介して文を閉じる。

「諸君ヨ一人一人ハ大切ナリ」  
(新島襄)

第8回 KMJキネマ倶楽部 上映会

大統領の執事の涙

☆☆☆☆☆☆ THE BUTLER ☆☆☆☆☆☆



原題 LEE DANIELS' THE BUTLER  
製作年 2013年  
監督 リー・ダニエルズ  
脚本 ダニー・ストロング  
原作 ウィル・ヘイグッド  
キャスト フォレスト・ウィテカー  
オブラ・ウィンフリー  
ジョン・キューザック  
ジェーン・フォンダ  
テレンス・ハワード

\*BSジャパン放送版を上映します。  
放映時間 1時間44分

日時 2016年8月20日(土)  
14:15受付 14:30開始 17:00終了

会場 アズマ・コンサルティング・グループ会議室  
大阪市天王寺区小橋町2-12 上本町NEXTAGEビル2階  
JR・近鉄・地下鉄『鶴橋』駅より徒歩3分

資料代 500円(KMJ会員は無料)  
定員 25名

\*会場の定員があるため参加ご希望の方はお申し込みをお願いします。  
\*終了後、懇親会を行いますので、ご希望の方はお申し込み下さい。  
主催・連絡先 在日コリアン・マイノリティー人権研究センター (KMJ)  
〒544-0032 大阪市生野区中川西3-10-18  
電話06-6717-2701 FAX06-6717-2702  
メール: kmj@star.odn.ne.jp

7人の米大統領に仕えた黒人執事の物語を描いたヒューマンドラマ。綿花畑の奴隷として生まれたセシル・ゲインズは、1人で生きていくため見習いからホテルのボーイとなり、やがて大統領の執事にスカウトされる。キューバ危機、ケネディ暗殺、ベトナム戦争など歴史が大きく揺れ動く中、セシルは黒人として、執事としての誇りを胸に、ホワイトハウスで30年にわたり7人の大統領の下で働き続ける。白人に仕えることに反発し、反政府活動に身を投じる長男や、反対にベトナム戦争へ志願兵として赴く次男など、セシルの家族もまた、激動の時代に翻弄されていく。

# 「宗教」と差別 2

正木 峯夫

部落解放同盟員  
浄土真宗僧侶（衆徒）

## 《貧困と「宗教」》

6人に1人の子どもが貧困の中で過ごしていると。朝日新聞は昨年12月20日から3回にわたって『子どもと貧困・シングルマザー』を特集した。ショッキングな話だけをあげつらうのは性分ではないが、そこには次のような記事があった。

「白飯、サラダ油、しょうゆ。2年前に生活保護を受けるまで長野県に住む女性（30）の食卓にしよっちゅう並んだ献立だ。ざっくり混ぜて食べると、油のコクで空腹が満たされる気がした。最初はツナ缶の残りの油をかけていたが、缶詰は買えなく

なった。長女（9）と次女（8）は『おいしいよ』と食べた。

おなかをすかせた2人は当時女性に隠れてティッシュペーパーを口にした。次女は塩をふってかみしめた。

『ティッシュって甘いのもあるんだよ』。後になって長女が教えてくれた。いい香りのするもらい物のティッシュは、かむと一瞬甘いという。」

飽食の言葉に、麻痺して久しい。世界には今日にも飢えて死ぬ人がいると言うのに、このテレビに氾濫する食い物番組の無作法は、やがて天罰をくらえ、と、つぶやいているだけの私を含めて、この国の貧富の格差も

また拡大し続けてもう止まることはない。世界におけるイスラム原理主義の戦争が止むことが

ないように、富の独占一極集中に国家が反省をいたすまで、殺戮に身を投じる人びとの連鎖を誰か押しとどめ得るとでも言うだろうか。この先もしや、貧困のトラウマが社会変革を求めて「暴発点」を迎えたとき、誰がその人びとを罪の名で呼ぶことができるだろうか。悪いのは気が付くべき今、何もしなかった国家と社会と私自身なのだ。

では、私が所属する浄土真宗教団は、この貧困に何か行動を起こせるか。日本全国の寺が炊き出しをやり、本山が救済貸付

け銀行を立ち上げる—というようなことは、今次、背水の陣を敷く気があれば必ずできる。

しかし結論を先に言えば「寺はそのようなことは決してやらない」。ともかく「山」は動かない。「教団はバラモンの集団でありバラモン僧は資本の鬼である」

が私の言い方であり、どこにも仏教はない、と私はつぶやいている。

## 《部落の信心》

ことここに至っては、私もそろそろ荊冠を投げ返すときが来た。被差別部落に浄土真宗の信

## 「宗教」と差別 2

心がどのような存在したか、1986年の「第2回過去帳差別記載糾弾会」に臨んで「部落の信心」を明らかにしたい必要が生じたとき、私は聞くともなく母に尋ねた。「この辺で誰か部落の人間が浄土真宗のことを書いてらんかね」、こともなげに母は「おじいちゃんが死ぬ前に話したことをお父ちゃんが帳面にかいたものが仏壇にある」と言った。

爾来、私にとってその『遺言』は、いかにも生々しき部落の浄土真宗を語る一級資料である。祖父の名はいみじくも半吉。部落の貧困を「信心」で生きぬいたのかもしれない人である。体制補完物でしかなかった浄土真宗教団が過去、目の前の貧困に何か行動を起こしたか。

結論ありきで言えば、起こさなかつたその理由はなにか。「貧困と宗教」の答えはやはりわが被差別部落の親たちが残してくれていた。

### 『父の遺言』昭34（注＝1959年）・3・18

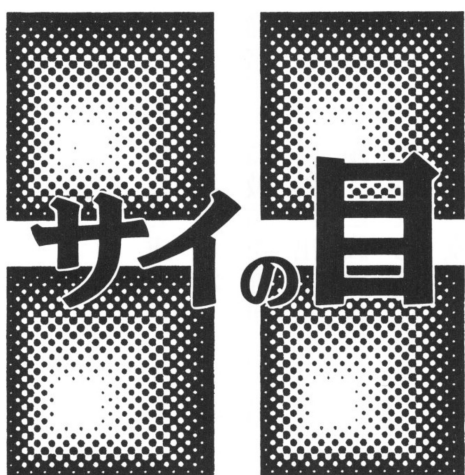
（前段省略）アゝぐぜいのごうえんは他生にももうあいがたし、真実のじょうしんはおつこうにもえがたし、たまたまじょうしんをえば遠くしゆくえんを喜べと仰せられてある。

誓司（注＝父名）よ、永い間よくみてくれた、アゝこの上はない、有難う。この世ではどんな貧乏をしてもかまわん、悪いことをせんでも芋や麦を作っておればかつえりゃーせん。唯一つこの真実の御慈悲を聞かせていただき。信仰させて頂くことが何より大切じゃ、これだけの父の希望じゃ。金持ちにならんでも出世をせんでもよい。

（中段省略）この世で親子の因縁程真実なものはないが今度の未来も一蓮託生と一つ所に生かしてもらわなければ所詮はないぞ、必ず必ず未来も親子の再会をさせて頂くことを楽しんでおるぞよ、

一切の法は難信の法であると仰せられてあるからうかつにきいてはわからんぞ、真剣にきかせてもらわにゃならないぞ、世間虚假、唯佛是真皆、金をためよう財産をためようと一心不乱であるが何の役にたつか、そらごとたわごとであるぞ、（後段省略）わしはアミダ様にだまされてもかまわんのじゃ、誰が何と言おうがどうしやうがピリッともするのではないぞ。

文中2か所（誓司よ）（世間虚假）の文節が部落の貧乏を語っている。あとは全ていわゆる「仏徳讃嘆」の言葉で埋め尽くされた。この対称にまず私は『遺言』の歴史的眞価を確定したいと思う。並みの僧侶がこれを読むと誰もが「あんたとおじいさんはすばらしいご信心をお持ちであつたね」と言う。「すばらしいご信心」以外の貧乏にはなぜ誰も目を留めないのか。古来、部落の浄土真宗は「あきらめの信心」と呼ばれて部落内外に評価されることはなかつた。（以下、続稿）



井上正一

チャーターするようにいわれた。やがて職員から、しっかりとした生徒に持たせるテキストと教師用指導書を要求する声があがり、

『改定 夜明けをめざして』（B5版）とその教師用指導書を刊行したが、それは理事長から「親鸞聖人の

教えを入れたテキストを」という要請があったからである。多分理事長は、部落解放研究所発行の『高校生の部落問題』をテキストにするのを嫌って、親鸞聖人を持ち出したと私は思っている。当時の差別状況の一端を、学生婦人問題研究会連絡会発行の『GIRL'S BE AMBITIOUS』に収録された「入社試験説明会」での女性差別の実態を参考までに引用しておこう。

●「女子は縁故でしかとりません。大企業はどこでもそうです」（ミサワホーム）

●「これだけはいっておきますが、我が社は古いタイプの、

昔から歴史のある会社です。で、男女雇用機会均等法など受け入れられない部分があります。法で定められているので明らさまにはいいませんが、結婚が決まった段階で、会社側の対応、社内の雰囲気

【退職】という方向で進みますので、おのずとやめることになります」（キッコーマン）

●面接の最後に「うちの会社は給料に男女差があり・・・」といって、その格差を了解して入社を希望するか、と聞かれた。（大林組）

●女子のみの説明会、男子には旅費が支給されたが、女子はなかった。（福武書店）

以上のようなコンプライアンス（法令遵守）とは無関係な採用状況があった。このような時代に生徒用テキストを制作・発行したのだが、発行者名を「東大谷高等学校同和教育委員会」にしたからか、PTA予算もあるのに、原稿料などは一切なかった。部落問題に関する管理職や理事長の「人権問題は仕事ではない」というような無関心があらわれている。

それから20年、本稿でまた、差別の現実を書かねばならないとは、大阪と東京の人権意識の較差が原因なのだろうか、現政権の閣僚たちは同和教育を受けたくどうかあやしいものである。

### 最高裁判所と

### ハンセン病差別

このようなタイトルを出す、最高裁判所が差別事件を審査したように見えるが、そうではなく、最高裁判所が差別した事例である。毎日新聞（大阪）2013年4月1日朝刊トップの見出しは「ハンセン病 隔離法廷「違憲の疑い」、最高裁有識者委が見解」とあって、記事の中で「ハンセン病患者の裁判が裁判所以外の隔離施設などに設置された「特別法廷」で開かれていた問題で、最高裁の有識者会議がこの「特別法廷は憲法が保障する法の下の平等や裁判の公開原則に反する疑いがある」との見解を大筋でまとめたことがわかった。正式に意見を集約し、近く最高裁に報告書を提出する。【山本将克、江刺正嘉】（以上新聞記事リード文）

## Vol.38

### 新聞北東西南

### 差別

### ヘイトスピーチ

部落解放同盟が、部落差別の実態を問題提起し、1965（昭和40）年8月11日『同和』対策審議会答申』が出されたのが大阪における「同和教育」のはじまりだった。私が勤務していた東大谷高等学校（当時女子校・現在共学・私学）でも、ガリ版刷りのテキストを用意し、ホームルームの時間に担任が実施することになった。私は学校から同和教育主担を命じられ、職員会議のときに先生方にレク

ハンセン病患者の裁判は伝染の恐れを理由に一律に特別法廷で開くという運用がなされていた。1948〜72年までにハンセン病を理由とする特別法廷開催要求が、地裁などから96件上申され、うち95件(99%)が許可された。残る一件は撤回で、最高裁が棄却した例はなかった。ハンセン病以外の病気や老衰を理由とする特別法廷の許可率は15%にとどまり、ハンセン病とそれ以外の病気では扱いに大きな開きがあったとして、裁判公開の原則が貫かれていない点が指摘された。このことは司法公務員のハンセン病とその患者に対する差別意識が根底にあるので、この件はハンセン病に対する差別であるとしなければならぬ。最高裁のすべての分野で、差別性の有無を検証しなければならぬだろう。

また、30日の記事には、「私は「ハンセン孤児」との見出しで「らい予防法」廃止後も差別されつづけたことで、69歳の女性が国家賠償請求の訴訟を準備していることが報じられた。

らい予防法を廃止した段階で国は、すべての患者の家族に「保障」を実施することを宣言すべきであった。「らい予防法」そのものが差別的な法律であった以上、関係する個々の家族が訴訟を起こすまでもなく、個人訴訟がなくても自動的に国がすべての事例について保障すべき問題であろう。日本の民主主義が未熟であることを示すものといえる。

### 『部落地名総監』復刻？

朝日新聞(大阪)2016年3月29日朝刊38面には、横浜地裁が「全国部落調査」という戦前に発効された差別図書の前刻と販売を「差し止め」る仮処分を決定したことが報じられている。この差別書の復刻・出版を計画したその出版社の経営者は、記事によると「2010年に滋賀県に同和地区の地名開示」を求める訴訟を起こしている。その訴訟は2014年12月に「非公開とした県の判断を妥当とする最高裁判決が確定」している。

そのことから、この出版社の意図が、「滋賀県の被差別地区の地名の開示」という差別目的であったことがわかり、「差別が目的であった」事が明白にされた。

### ヘイトスピーチと規制法

2015年11月30日毎日新聞(大阪)朝刊27社会面の関連記事「最高裁は誠実に謝罪を」差別の書き込み、違反通報し削除、Jリーグ」という記事にツイッターで、サッカーJ1ガンバ大阪の外国人選手にたいしての、人種差別的書き込みが投稿された件に対し、Jリーグチェアマンがツイッターの運営会社に違反通報し、(差別的)投稿が削除されたことを報じている。しかし、差別的書き込みの投稿者に対しては何の対応もできなかった。チェアマンは「(「投稿者を)特定する立場にない。我々が違反を通報したことで対応はなされている」と述べたと記されている。差別禁止法が成立していれば、警察が犯人を捜査できるとは、現段階でそれはのぞめない。日本の司法当局は、差別記事も「言論の自由」の範疇でとらえようとしている。言論の自由には、差別する権利は含まれていない。差別禁止法を制定して差別表現は禁止すべきだろう。毎日新聞、4月10日朝刊27社会面には、国連が任命したアメリカの大学教授が12日から「表現の自由の法的調査」を日本で実施することが報じられているが、表現の自由のなかには、差別する自由は含まれていないことを明確にしていた。ヘイトスピーチについては、毎日新聞(大阪)2016年4月10日社説を次頁に全文引用した。

毎日新聞(大阪)2016年5月13日朝刊、社会26面に「ヘイト対策法成立へ 差別根絶へ一歩」という記事がある。鈴木一平氏のリード文によれば、『特定の人種や民族に対して差別的言動を街頭などで繰り返すヘイトスピーチの対策法案について、参院法務委員会は12日、与党提出案を一部修正の上、全

会一致で可決した。13日に参院を通過し衆院で審議されるが、今国会で成立する見通しとなった。」

法案では、在日コリアンのことを、「日本以外の国または地域（台湾を指す）の出身者やその子孫で適法に居住するもの」

## ヘイトスピーチ

特定の人種や民族に対する差別的言動を街頭で繰り返す「ヘイトスピーチ」を止めようとする法案が、国会で審議される見通しになった。ヘイトスピーチは、「殺せ」「出て行け」といった乱暴な言葉で罵倒や中傷し、差別感情をあおり立てる。人権侵害であり、到底許されないが、ヘイトスピーチを繰り返す団体の

を保護対象と規定。ヘイトスピーチを「地域社会から排除することを扇動する不当な差別的言動」などと定義し、「不当な差別的言動は許されない」と宣言した。

しかし、サブタイトルに「参院可決 禁止規定盛り込まず」とあるように、『憲法が保障する自由の自由を配慮し、禁止や罰則の規定は盛り込んでいない』と記事はいう。その理由は国会審議のなかで「不法滞在外国人らへの差別を認める可能性がある」として保護対象のなかの「適法に居住するもの」を排除するよう野党側が求めたが、修

で法制化の協議を急ぐべきだ。

東京や大阪など、在日韓国・朝鮮人が多く住む地域でヘイトスピーチと呼ばれるデモが数年前から激化し、全国に広がった。

捜査当局などは、現行法の範囲で違法行為があれば取り締まってきたが、ヘイトスピーチは沈黙化していない。法務省がヘイトスピーチを人権侵害と位置づけ、団体の元代表にやめるよう勧告したのは昨年12月

国内からも政府の対応を促す声が強い。大阪市は今年1月、ヘイトスピーチの抑止を目指す全国初の条例を成立させた。国に対し、表現の自由に配慮しながらも、法規制など適切なヘイトスピーチ対策を求める意見書を採択する地方議会は300を

超えた。国際社会の信頼を失いかねないとの危機感がそこにはある。ヘイトスピーチは、個人の尊厳を大きく侵害するだけではない。子供などは強い恐怖感を抱く。表現の自由は大切な権利だが、ヘイトスピーチは明らかに人権の乱用だ。

# 根絶へ政治の意思示せ

活動は抑え込めていない。

法務省が初めて行った実態調査では、昨年9月までの3年半で全国で1152件のヘイトスピーチが確認された。1日1件に近い数字で、民主主義の国として恥ずべきことだ。

民主党（現民進党）などが国会に提出した人種差別撤廃推進法案に続き、自民、公明両党はヘイトスピーチ解消に向け法案を出した。ヘイトスピーチを止めるため、与野党

だ。それでも強制力はない。

厳格な対応ができない背景には、現行の法制度では、ヘイトスピーチそのものを違法行為と認定できないことがある。一方、政府は、「表現の自由」との兼ね合いで直接的な法規制に慎重な姿勢を示してきた。

国連人種差別撤廃委員会は2014年、日本政府に対し、ヘイトスピーチ問題に毅然と対処し、法律で規制するよう勧告した。

与党案は、ヘイトスピーチを不当な差別と位置づけた。より広範な差別を規制対象とし、「禁止」を明確にした野党案と開きはあがるが、罰則を伴わない点は共通する。拡大解釈で表現の自由が脅かされることのないようヘイトスピーチの定義を明確にしたうえで、道路でのデモや公共施設の使用を止められるような実効性のある法律にすべきではないか。政治の強い意思を示すべきだ。

正はされなかった。そのかわり「（保護対象の規定）以外であれば、差別的言動が許されるとの理解は誤りであり、憲法やあらゆる形態の人種差別撤廃に関する国際条約の精神に鑑み適切に対処する」との付帯決議を可決した。付帯決議は、インターネット上の差別的言動を助長、誘発する行為の解消を国と地方自治体が進めることも求めている。要するに『日本国憲法』の表現の自由がヘイトスピーチ禁止を阻んでいると考える人がいるからだろう。

しかし表現の自由は、他人を差別することを含むものであってはならない。ここでは、まず「差別禁止法」を成立させ、その上で「差別表現の禁止」を設定すべきだろう。

毎日新聞はこの記事に続けて『大阪市の条例は「7月完全施行」という記事が続いている。ヘイトスピーチの抑止策をまとめた市条例について、7月から効力を発揮させたいとの意向を示した。条例では市民らの被害申告を

受けて審査会がヘイトスピーチに該当するか調査するが、審査会のメンバーが決まっている。吉村市長は審査会の人事案を5

月市議会に提出し、可決されれば7月から条例を完全実施する。

審査会は学識経験者ら5人以内で構成。審査会の答申を踏まえ、市長がヘイトスピーチと判断すれば、その内容や実施した団体、個人の氏名を市のホームページで公表する。と記されている。創立以来在日コリアンの人権問題を日本社会に発信しつづけてきたKMJの理事をヘイトスピーチ審査会のメンバーに加えるべきだと考えるが、いかがだろうか。

## 社会主義国に世襲制はありうるのか？

2016年5月6日毎日新聞(大阪)朝刊1・2面に『「金正恩時代」へ、朝鮮労働党36年

ぶり党大会』『「党重視の統治」全面に、金日成時代を意識』という記事がでている。要するに、社会主義国家を標榜しながら、

三世代世襲の元首による政治態勢の国家が出現したのである。

私は、日本敗戦直後のグラフィ誌で「乗馬姿の金日成氏の写真」

を見た。その姿は戦中の「日本天皇の乗馬姿」とそっくりで、

「万世一系」を意識した写真だと直感した。つまり共和国元首

の金一族が、日本天皇制の「万世一系」を目指していると感じ

たのである。現在「金王朝」は三代目、三代続いたことで万世

一系の「核」はできたのである。しかし、日本の万世一系を模倣

しても、日本が犯したあやまり

Ⅱ「国力とは軍事力だ」という考えだけは踏襲しないでいた

きたい。戦争に突き進んだ日本の誤りまで踏襲してほしくない

ということである。おなじアジアの国として間違っても「滅亡」

への道をたどってほしくない。共和国の「核兵器保持」に懸念を

いだいている。つまりこの三代目は、私の願

いをよそに「核弾頭」をもてあそび、アジア地域に「不安」と

「対立」をもたらしている。悪

くすれば、核開発↓核軍備競争↓核戦争↓人類滅亡、というコースをたどりかねない危険性を孕んでいるのだ。

現代日本が外国に無償で輸出できるものとして、「戦争放棄」

がある。願わくば北の三代目が日本の「戦争放棄」を輸入しア

ジアの、いや世界の「戦争のない平和な世界」実現に貢献して

いただきたい。と切に願うものである。

「朝鮮民主主義人民共和国」と、社会主義国の態勢をとりながら、実態は金氏三代の世襲に

なっているし、妹も政権の主要な地位についている実質的には

朝鮮古来の国の態勢、つまり金王朝ではないかと思われる。

共和国は金正恩氏の祖父金日成氏が開催した、朝鮮労働党大

会を36年ぶりに開催しているが、各国から招待した一〇〇人以上

の報道陣は会場内の取材がボイコットされ、工場見学などに回

されているという。報道によると36年ぶりに全国から招集され

た委員たちの高齢化が進み、会場での居眠りなどの状況を取材

されたくないからだという。また第一書記に任命されている金正恩氏は、この大会で自国の「核武装」の合理性を主張したいよ

うだが、国際機関の共和国核武装化反対の流れのなかで、遅れ

て核武装国になった国の主張には、国際的理解は得られない結果になるだろう。自国が核武装

する以前に、世界の非核化グループに属すべきであった。

36年ぶりの朝鮮労働党大会で金正恩氏は、36年前の祖父金日

成氏と同じようにスーツ姿で登場し、原稿を読み上げる姿も声

の高さも祖父に習っているという。つまり金日成氏の後継者で

あることを形にあらわして、世界や国民に示す意図があたつと

思われる。祖父の姿と重ね合わせることで自己PRを果たす意

図がうかがえる。しかし、先に触れたように、社会主義国に世

襲制はそぐわない。社会主義国家と世襲制を両立させようとい

うことの矛盾が近い将来、具現化することになるだろう。

# 奈良県天理市 柳本旧海軍飛行場跡の今

高 敬 一

奈良県天理市の「柳本駅」周辺に約80万坪の柳本旧海軍飛行場（正式名称は「大和海軍航空隊大和基地」）があった。1943年頃から建設が始められ、3000名以上の朝鮮人が強制的に徴用され、飛行場建設に従事させられた。近くには「慰安所」まであった。また、本土決戦を覚悟していた軍部は、「御座所」（天皇の居所）の建設も考えていたようだ。

このような負の歴史は、「奈良県での朝鮮人強制連行等に関する資料を発掘する会」が中心となって掘り起こされた。そしてその事実を後世に伝え、二度と同じ過ちを繰り返さないために、天理市と交渉し、戦後50年

にあたる1995年8月8日に「説明板」の設置にいたった。

当時、強制連行された宋將用さんの証言によると、「夜、突然、村のえらいさんがやって来て連行された。論山から釜山まで貨車で、釜山から船で下関に着いた。トラックで運ばれた後貨車列車に乗りついたところが柳本だった。昼間は飛行場の建設に、夜はトンネルを掘った。ごはんは一サジぐらいで汁をぶっかけてたもう無い。腹が減っているからイナゴとか食べられるものは生で食べた。」などの証言がある。飛行場建設中に3人の朝鮮人徴用工の犠牲者がでたそう。

また、柳本飛行場には、朝鮮

人徴用工の宿舍、軍関係者の宿舍の近くに慰安所があり、40人ほどの強制連行された朝鮮人女性がいた。朝鮮人女性の連行を計画したのは、桜井町（当時）の特高警察で慶尚南道普州郡、東普州郡から「家事の手伝いの仕事」と偽って、女子挺身隊の名で連行し柳本飛行場の慰安所で売春を強要した。女性たちは17歳から26歳までの20人で、昼は豆、夜は乾パンだった、との証言もある。それらが説明板にはきちんと言書かれてあった。

とところがこ

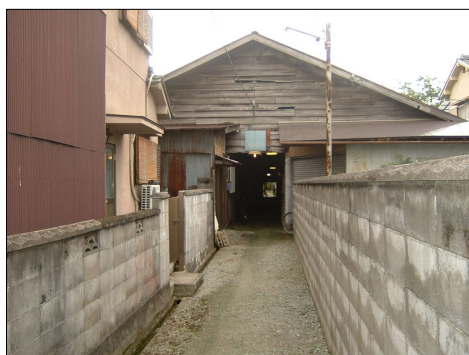
の「説明板」が2014年に突然、撤去されたという



「説明板」の現状。灰色のビニール製のシートに覆われ、無残な姿で放置されている。（天理市遠野町の児童公園）

ことを報道などで知っていたので、今年になりようやく確認に行くことができた。灰色のビニール製のシートに覆われ放置されている「説明板」を見て愕然となった。

天理市が撤去を決めたきっかけは、2014年2月ごろから市の意見箱などに寄せられた説明板に対する批判のメールや電話であった。「強制連行などな



「飯場」の一つ。戦後一時期は朝鮮人の国語教習所として使用されていた。



「防空壕」の一つ。いまは地元の農家の農具入れに利用されているものもある。

かった」「慰安婦については根拠は本人たちの証言のみで一次資料は見つかっていない」「そんな日本国民をおとしめる説明



この地に「慰安所」があったとされている。



「飛行場」滑走路の一部が残っている。

板など撤去すべきだ」。これらの批判を受けて市は、4月22日に検討会を開き、説明板への問い合わせに対する回答文をまと

ては全国的に議論されており、国もあらためて検証する方向を示している⑤国の動向も見ながら専門家による検証を見守る⑥設置しておく、市、市教委の公式見解としてとらえられるので、いったん取り外し保管しているーなどとした。

すぐに市民団体により「天理・柳本飛行場跡の説明板撤去について考える会」が結成

めた。それによると①どのような資料を根拠に設置されたのか②どのような経緯で現在の場所に設置されるに至ったのか③調査したのがはつきりしない④さまざまな歴史観がある中で「強制性」につい



撤去される前の「説明板」。朝鮮人強制連行や慰安所があったことがしっかりと記されている。

され、天理市にたいして要請行動を行っているが、まともな回答がえられていないのが現状だ。

2015年には韓国の市民によって集められた1万筆を超える署名が手渡され、天理市の友好都市であった韓国・瑞山市（ソサン市）は抗議の意味を込めて交流を中止した。

この嘆かわしい現状をぜひ見に行ってもらい、抗議の声をあげてもらいたい。

## 「天理・柳本飛行場跡の説明板撤去について考える会」の活動

### 天理柳本飛行場跡説明板撤去問題の経過

中西 巖

今年（2016年）4月18日で3年目を迎える飛行場跡説明板撤去問題の経過を振り返る。

<柳本飛行場跡説明板とは>

1995年8月8日天理市・天理市教育委員会が行政の責任の下、天理市遠田町のふるさと園内に設置した。アジア太平洋戦争末期に建設がすすめられた旧海軍（大和海軍航空隊）柳本飛行場跡の地図と共に強制連行で働かされた朝鮮人労働者の証言や、「慰安所」が設置され、そこへ朝鮮人女性が強制連行された事実等の説明が記されているものである。

<問題の発端 2014年>

- ・2014年4月18日、天理市長、天理市教育委員会が市民や関係者・関係団体に何の説明・連絡もせず天理柳本飛行場跡の説明板を撤去。

<その後の経過>

- ・同年（2014）5月の奈良市内の集会で「天理の説明板が撤去された」と「成果」を口にする、アジア太平洋戦争での日本の侵略行為を否定するメンバーの発言で事実が明らかになる。
- ・5月「天理・柳本飛行場跡の説明板の撤去について考える会」を結成（毎月定例会）
- ・6.26 柳本飛行場跡説明板撤去問題に関する質問書を天理市長に提出。
- ・7.16 柳本飛行場跡説明板撤去問題に関する抗議文を天理市長・天理市教育委員会に提出。
- ・8.7 柳本飛行場跡説明板撤去問題を考える集会 約100名が参加（天理市）
- ・10.31 柳本飛行場跡説明板撤去問題に関するピラ配り・署名活動（天理駅前・天理市役所前 以降2016年現在も月1回程度継続して実施）
- ・11.8 柳本飛行場跡フィールドワーク（40数名が参加）
- ・12.26 柳本飛行場跡説明板撤去問題に関するピラ各戸配布（天理市）

<2015年>

- ・1.20、24、3.20 柳本飛行場跡説明板撤去問題に関するピラ各戸配布（天理市）
- ・4.8 柳本飛行場跡説明板撤去に関する再々質問書、並びに5千数百名に及ぶ再設置を求める署名を提出。
- ・4.18 柳本飛行場跡説明板撤去を考える4.18集会 講師：金子マーティンさん「歴史修正主義を克服の試み」（天理市）
- ・5.2 柳本飛行場フィールドワーク
- ・9.11、「戦後70年談話」をうけて、天理市長に要請と質問を行う。
- ・10.8 韓国から異議！天理・柳本飛行場跡説明板撤去問題集会（天理市）  
『日本軍「慰安婦」ハルモニと共に行動する統営・巨済市民の会』代表の宋道子（ソンドジャ）さん、ソウル大アジア研究所の田甲生（チョンカプセン）さん
- ・10.9 宋道子さん、韓国からの1万筆を超える署名を携えて天理市役所を訪れ、市長との面会を求めるが市長は出席せず、代理者が署名を受け取る。
- ・10.10 柳本飛行場跡フィールドワーク。
- ・10.25 瑞山（ソサン）市（韓国23万人）、天理市との交流を中止したことが判明。

<2016年>

- ・4.15(本日) 天理・柳本飛行場跡の説明板の再設置を求める市民集会 空野佳弘さん「歴史修正主義とどう闘うか」（天理市）



あんにょんはせよ  
～こちらサンボラムです Vol.13

## サンボラムの誕生日会

サンボラムでは2ヶ月に1回、利用者様のお誕生日のお祝いをさせていただいています。誕生日会は数あるサンボラム行事の中でも、もっとも喜ばれます。それは利用者様の中には、生活や子育てで精一杯で、ご自分の誕生日のお祝いをしてもらった方が、少ないこと、そして自分自身が主役になれるからです。



民族衣装の「チマ・チョゴリ」を身にまとい、利用者様、スタッフ全員からお祝いの言葉をいただきます。みなさんお綺麗ですね。

サンボラムで提供している代表的な「誕生日メニュー」。お祝いの場に「蒸し豚」はかかせません。他、赤飯、チヂミ、白身魚のチヨン、ナムルそしてわかめのスープ。コリアンは誕生日に栄養価の高い「わかめスープ」を食べる習慣があります。





本書は、日本の戦争責任を肩代わりさせられた朝鮮人元BC級戦犯の李鶴来さんの自伝である。17歳で「捕虜監視員」としてタイとビルマの間を結ぶ泰緬鉄道の建設のため、主に連合軍の捕虜を派遣する役目を担った。そこで3年を過ごし、日本敗戦後、戦犯として刑務所で11年、そして日本政府に補償と名誉回復を求め続け60年。現在、91歳である。

李さんは今でも日本政府に謝罪と補償を求めて、国会議員に働きかけ続けている。その原動力は何か。巣鴨刑務所で死刑囚として8ヶ月を過ごし、その時になぜ自分が戦犯になったのか、「何のために、誰のために」と問い続けた。

幸い死刑は免れたが、執行された仲間もいた。仲間たちの無念を癒やし、名誉回復させるために自分は生き残ったのだ、と。その思いがいまだに李さんを突き動かす。

日本社会はこの91歳の「忘れられた皇軍」をこのまま放置しておいていいのか。今も李さんはなぜ、自分たちが戦犯になったのか、「何のために、誰のために」と問い続けている。自らにそして日本人に。(高)

### 韓国人元B級戦犯の訴え

李鶴来著

2016.4.24 1700円+税

発行：梨の木舎

甚大な被害が記憶にもまだ新しい東日本大震災、もともと暮らす人々にとっても大変な災害であったが、異郷である人々にとっては更に大きく違った被害を受けているはずである。それは、言葉の壁だけでも得られる情報量が少なく、避難に際しても差が大きかったはずである。そんな災害弱者にも係わらず、マスコミの報道も少なく、また当事者から語られることもほとんどなかった。

かの地は戦前から強制連行も含めて移住した日コリアンは少なくなかった。その子孫、そして1980年代頃からアジアからの花嫁の受け入れや仕事、留学などで来たニューカマーもいる多民族地帯である。この本ではコリアンに絞って、語り継ぐべき震災の記憶を残した。そして丁寧な聞き書きにより、ライフストーリーの集積にもなっている。

人が住みなれた所を離れて生活する時は、その場所に応じた適応力、未知の環境を生き抜く力が必要となってくる。その力は非常事態になるとますます重要になり、被災者同士の助け合う実践につながったことが本書から読み取れる。

共生という言葉が生まれて概念としては定着してきたが、それがどのように実践され、何を生み出すか。その具体的な可能性が示されている。(宋)



### 異郷被災

東日本大震災在日コリアン被災体験聞き書き調査プロジェクト編

2015.7.11 2700円+税

発行：(有)荒蝦夷

BOOK Review

ほんをよむ



サハリンから来た崔アンナ

編集・発行

在日コリアン教材作成チーム

2015. 8. 15 500円＋税

そのことをもっと  
広く、特に生徒や  
教職員に知って

一般の人は「サハリン」はロシアの領土のイメージだが、実は複雑で日露戦争後、南半分が日本の領土となり日本人も住むようになった。そして太平洋戦争敗戦後に全領土がロシアになり、当時住んでいた日本人は、「ソ連地区引揚米ソ協定」により帰国したのだが、徴用などで連れてこられた朝鮮人は取り残されており、現在に至っている。その事情は作家の李快成氏が1983年に「サハリンへの旅」で描いているが、サハリンにコリアンが残留されたことは、あまり知られていない。

もらおうと、身近なテキストができた。留学生の在サハリンコリアン3世の崔アンナが、在日コリアン4世や日本人と交流しながら、歴史や背景を説明している。登場人物やイラストも現代的で、ヴィジュアルを多用して身近に学べるようになっていく。

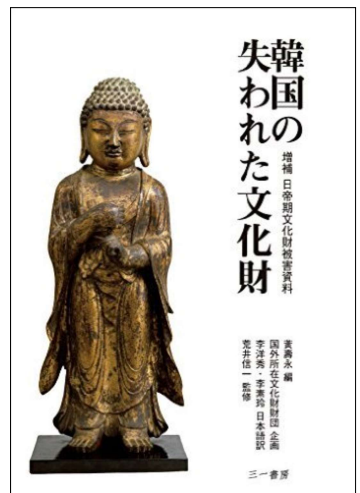
異郷の地に住まざるを得なかったのは在日とも共通している。しかし住んでいる国や風土の違い、世代の差があり、同じ範疇ではあってもひとまとめでくれないところが、それがまた多様性になっている。しかし元は日本の植民地政策の結果なのは、教育現場で最も伝えておきたい。(末)

元資料（オリジナル）は朝鮮植民地時代に、古蹟調査として日本人研究者らによってまとめられた文献である。それが戦後、韓国の研究者によって『日帝期文化財被害資料』としてまとめられ、さらに関連資料および画像資料などを増補して日本語版へ、それを元に解題など現在の解説資料を加えて韓国語版が作成。そして今回、再び日本語版へと、100年の時を経て両国の間を行き来しつつ編まれた貴重な資料集である。

『欧米が世界を植民地にしていた時代、文化財の略奪はその象徴だったし、それに対する何の反省もありませんでした。日本政府もそれを見習って、「世界中の国々が皆、他の国を侵略しているのに、日本だけが糾弾される筋合いはない」という態度で、今も何の変化もありません。』今回の日本語訳に携わった李洋秀さんは言う。

2016年6月4日に大阪ではじめて『朝鮮半島由来の文化財を考える関西ワークショップ』が開催された。日韓双方の研究者によって貴重な報告がなされた。単に文化財を「返せ」「返さない」ではなく、どれだけのものがあり、どんな経緯をたどって、そこにあるのか、それらを今後の日韓関係を考えるうえで、どうしていけばよいのか、という前向きな議論が今後は必要だと考える。そのための一助にこの資料集はなるはずだ。

(高)



韓国の失われた文化財

黄壽永編

国外所在文化財財団 企画

李洋秀・李素玲 日本語訳

2014. 12. 26 3500円＋税

発行：三一書房

ネパール&インド料理

## ダイヤモンドスター



チャールモゴスニダ！  
美味しいお店めぐり(11)

大阪・西成区の鶴見橋商店街に今年の4月、ネパール人の経営する料理店ができました。

ランチは税込680円からという、下町価格。お昼に行ってみると、何組かのグループが食事を楽しんできました。今回は「チーズナセット」1050円を頼みました。チーズナンと日替わりカレーを含む4種類のカレーから2種類を選んでサラダ、チキンスープ、チキン料理、ソフトドリンクもついてお値打ちです。この日の日替わりはシーフード、もう一つはチキンチーズカレーに。辛さは6種類から選べます。お子さんも食べられるように調節してくれます。テイクアウトもできます。ランチはプレーンナン1枚おかわりもできるのですが、十分な量でした。ドリンクはアイスチャイで、シモンが効いています。

ご主人はネパール出身ですがインドで5年ほどインド料理の修行もして、どちらの料理もできるようになりました。インド料理はスパイス中心、ネパールはどちらか

という素材を活かす料理だそうです。日本に来て7年で、始めは大阪の南港のATCという大阪府が運営しているショッピングセンターに店を出していたのですが、この商店街に移ったそうです。



店名:ネパール&インド料理  
ダイヤモンドスター

所在地:大阪市西成区鶴見橋1-6-13

TEL:06-6632-8881

営業時間:ランチ AM11:00~PM3:00

ディナーPM5:00~PM11:00

無休

鶴見橋商店街周辺は、昔から外国人にも住居を貸してくれるところが多いので、自然と多住地域になっていました。商店街内には大阪に多いスーパー玉出もあるのですが、従業員さんもネパール人が多いです。ここのご主人も玉出の従業員さんとすぐにお友達になったそうです。ネットワークもできつつあります。

このあたりは戦前から住む在日コリアン、ニューカマーの中国、台湾人、最近ではアフリカやネパール人も見かけます。実は大阪の多民族地域なので、住んでいる人たちも異文化を受け入れる柔軟さがあり、外国料理のお店もこれから増えるかもしれません。チャールモゴスンニダ! (宋)

大阪コリアタウンの喫茶店  
cafe ギャルソン



た感があり、まだ活気にあふれています。

その中で気になった喫茶店「cafe ギャルソン」に入りました。何気になったのかというところ、おもてのメニューにあった「コリアンバーガー」

(セット800円)。写真がうまく撮れなかったのが残念ですが、軽く焼いたバンズに、スライスチーズ、キムチ、ハンバーグ、炒り卵、レタスに海苔が挟まれています。想像できないかもしれませんが、このチーズとキムチの相性が非常にいい。ハンバーグ

大阪市生野区にあるコリアタウン(御幸通り商店街)。いわゆる【韓流】ブームが過ぎ去った後でも、すっかり観光地として定着し

も肉汁たっぷり、炒り卵も入ってとてもボリュームがあります。こちらのお店のオーナーは神戸の有名な「コービー」店で修業をして、29才のときに念願のお店をコリアタウン内に構えたとのこと。一番のおすすめは「キムチサンド」だそうです。

生野区は昔から喫茶店の激戦区で、特にモーニングセットが充実しており、さまざまなメニューが考案されています。この「コリアンバーガー」もコリアタウンの名物の一つになりそうですね。チャールモゴスンニダ! (高)

店名: cafe ギャルソン  
所在地: 大阪市生野区桃谷5-7-1  
TEL: 06-6731-6073  
営業時間: AM7:30~PM6:30  
火曜定休日

## 活動日誌

2015年

- 12/03 (木) 第56回役員会
- 12/05 (土) 兵庫県加古川市 F W
- 12/10 (木) 東京人企連第2 G F W  
東京人企連第7 G F W
- 12/16 (水) 呉徳洙監督葬儀に参列

2016年

- 01/11 (月) 弘益大学校学生・受入
- 01/16 (土) サンボラム幹部研修会講演
- 01/21 (木) 第57回役員会
- 02/24 (日) 兵庫人権協会総会出席
- 01/29 (金) 羽曳野市立高鷲中学校講演  
韓国民団堺支部新年会出席
- 02/03 (水) 東京人企連第8 G F W
- 02/04 (木) 羽曳野市立高鷲中学校 F W
- 02/19 (金) 第7回 K M J 理事会  
第25回民族差別啓発研究部会
- 02/20 (土) 第3回アジア文化研究部会  
第7回民族教育研究部会
- 03/03 (木) 第38回 K M J 学習会
- 03/04 (金) 第17回在日コリアン人権啓発  
東京セミナー冬期講座
- 03/05 (土) 第5回 K M J チャリティコンパ
- 03/10 (木) アクサ生命保険と情報交換会  
第58回役員会
- 03/19 (土) 第7回 K M J キネマ倶楽部
- 03/30 (水) 兵庫県交渉参加
- 04/04 (月) 加藤産業講演
- 04/15 (金) 第39回 K M J 学習会
- 04/28 (木) 第8回 K M J 理事会
- 05/07 (土) 第4回アジア文化研究部会  
第26回民族差別啓発研究部会
- 05/31 (火) 兵庫県教育委員会交渉参加  
大阪市立大学大学院講演
- 06/04 (土) 朝鮮文化財ワークショップ
- 06/07 (火) 西宮市交渉参加
- 06/16 (木) 第59回役員会
- 06/25 (土) 第30回 K M J 研究夏期セミナー

## マップラム告知板

●第18回在日コリアン人権啓発東京セミナー

【春期講座】

- 日 時 2016年7月14日 (木) 15日 (金)
- 会 場 貸会議室・貸教室 内海4階教室
- 講義①「東京裁判での朝鮮問題」  
講 師 仲尾宏さん (K M J 理事長)
- 講義②「在日コリアン女性に対する複合差別」  
講 師 元百合子さん (大阪経済法科大学)
- 講義③「在日コリアンの戦後史」  
講 師 徐元喆さん (元韓国民団組織局長)
- 講義④フィールドワーク「埼玉の中の朝鮮」  
案 内 小川満さん (川越唐人パレード実行委)
- コース 高麗神社、吉見百穴、丸木美術館  
など

【秋期講座】2016年11月11日 (金)

【冬期講座】2017年3月3日 (金)

- 受講料28,000円 (7講義+フィールドワーク)
- 聴講料 3,000円/1講義  
7,000円/フィールドワーク  
4,000円/冬期講座

● K M J キネマ倶楽部上映会

- 日 時 2016年8月20日 (土)
- 会 場 アズマコンサルティンググループ 会議室
- 内 容 『大統領の執事の涙』の上映

●第17回 K M J フィールドワーク

- 日 時 2016年9月24日 (土) 25日 (日)
- 訪問場所：愛知県

《編集後記》

転がる石に苔は生えない。S a i も新しい紙面で、人権問題をより身近なものとして提起し続けていきます。(宋)  
今号より編集ソフトを活用し制作したため出版に時間がかかり、皆様に大変ご迷惑をおかけしましたこととお詫び致します。参院選18歳の在日高校生たちが心配です。(高)